

500

57

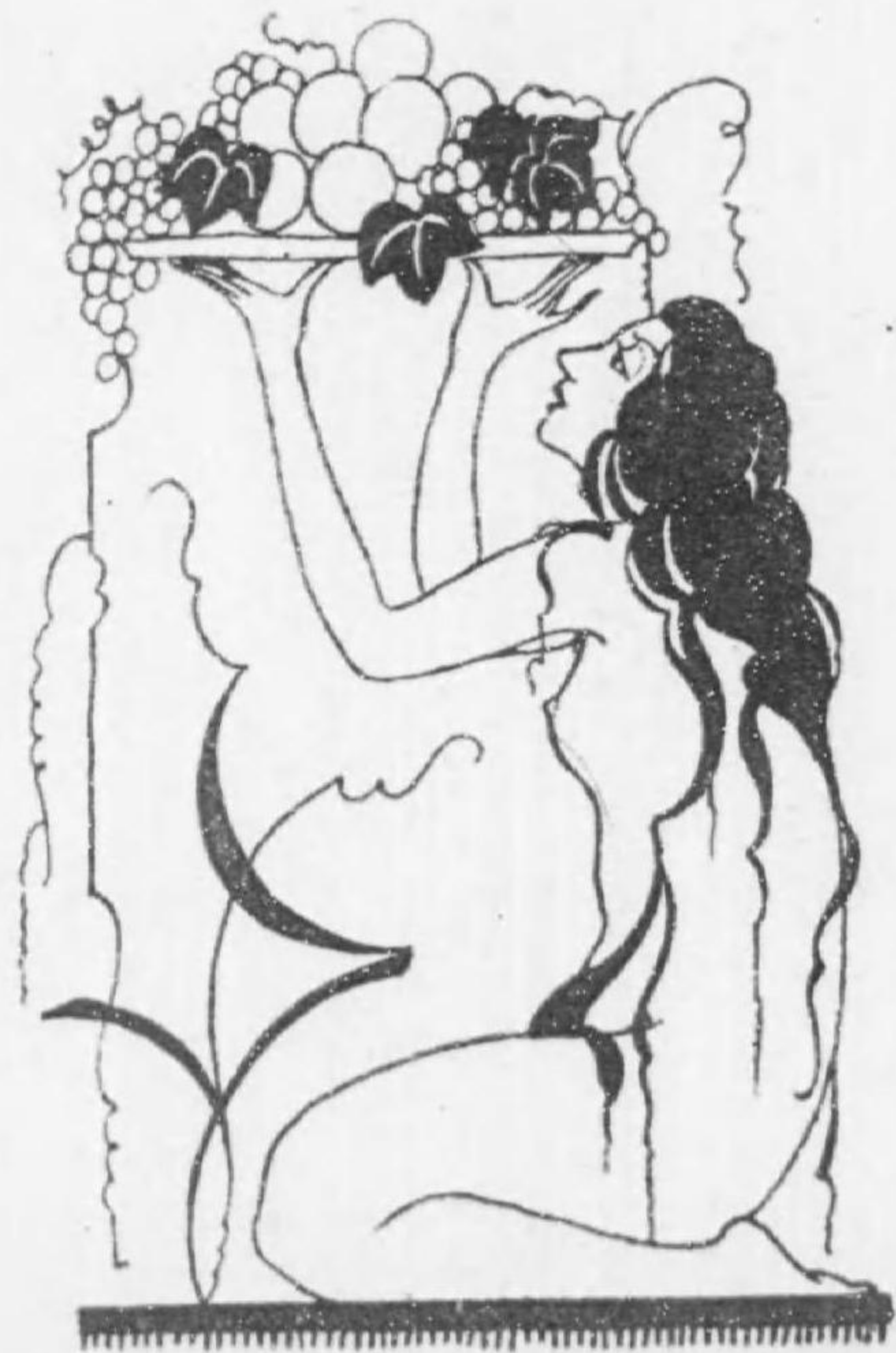
9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10<sup>19/m</sup> 1 2 3 4 5

始



# 婦人文化講座

第二輯



大阪朝日新聞社發行

500-57



婦人文化講座

2

野藤津  
上井村  
俊厚秀  
夫二松

大坂朝日新聞社發行

大正  
12.5.10  
肉交

## はしがき

家庭にある婦人がたの爲に、新時代の文化生活に必要な智識を普及したいといふ目的で、我が國學界の各權威を講師に御依頼して、講演會「婦人文化講座」を、本社樓上に始めて開催いたしましたのは、昨年二月のこゝでありました。

そして昨年九月、それ等の講演四篇を一本に纏めて、書冊「婦人文化講座第一輯」を發行いたしました。

爾來引き続き「婦人文化講座」を開催いたしましたして、御出席の

婦人がたから満足と感謝の意を表して戴いたのでありますが  
 「我が國學界最高權威の口授になる綜合女子大學講義録を大成する」といつた意味で、今回「婦人文化講座第二輯」を發行の運びに立到りましたのは、最初からの豫定であるさはいふものゝ、又一人新しい姉妹の生れ出た歡びを、感せずにはゐられませぬ。

婦人運動が、日に月に發展せんとしてゐる今日、斯うした「智識」の提供は、婦人文化に貢獻するところあるを、信じて疑はぬのであります。

大正十二年五月

編者 誌す

## 目次

### 物價問題に就いて

法學博士 津村 秀松

物價騰貴の現状	(一).....九
物價騰貴の弊害	(九).....四六
物價騰貴の原因	(四六).....五九
物價調節の方法	(五九).....一二二

### 婦人の心得べき建築の智識

藤井 厚二

構造に就いて	(一二三).....一四二
住宅の間取り設備	(一四二).....一五六
臺所に就いて	(一五七).....一九八



物價問題に就いて

法學博士 津村秀松

目次

二

婦人運動の發達史

文學博士 野上俊夫

婦人運動に就いて	(一九九……二〇八)
希臘羅馬時代の婦人	(二〇八……二一六)
中世紀の歐洲婦人	(二一七……二四三)
婦人覺醒の曙光	(二四三……二五四)
婦人參政權運動	(二五五……二六四)
婦人の教育問題	(二六四……二七九)
日本の婦人のこゝろ	(二七九……二八六)

裝幀並に書

古家新

茲に皆さんにお目に掛つて、目下の問題である、我が國のこの物價の問題に就いて、お話をするの機會を、得ましたことは、私は甚だ幸榮の至りも存じます。物價問題は、少しく學究的な、堅苦しいことになりますが、多少堅苦しく、學問的になりませぬと、込み入つた問題でありますから、簡単に申しては、御理解を得られないかとも存じます。實は學校の議義のやうな、順序を経て、これだけのことは既に、皆さんが御存じである、御承知になつて居る、**さいご**が判りまする**さいふ**、重複する所は、省きましたり、この位のことば宜からう、お判りになるだらうと、その調子が判るのでありまするが、さうもその邊が始めてお目に掛る方々ばかりなので、ついお話が仕憎いのであります。その邊は會合の性質それ自身が、これを止むを得ず、させるのでありますから、或は甚だお判り憎い所もありませんが、お察しを願ひまして、直ちに本題に入ります。

## 物價問題を四つに分類して

私が今回皆さんに、お目に掛つたのを機會に、お話しやうといふ、物價問題の概要は、これを四つの問題に分けて、説明を試みたいのであります。先づ第一の問題は、我國目下の物價といふものが、如何程高いのであるか、所謂物價騰貴の現状を、先づ最初にお話したのであります。夫が判りまするといふに、第二の問題に入りまして、斯くの如く高い物價は、何故に安くないか、そして何故悪いか、言葉を換へて申しますれば、物價騰貴の弊害、といふにあります。これは大問題であります。第三の問題は、物價の高いのは、何に據るか、といふ問題でありまして、左様に高い、安くない物價騰貴は、一體何に據つて起るのであるか、即ち物價騰貴の原因であります。第四には物價を如何にして調節すべきや、といふ問題であります。左様に高い、現今の物價といふものは、如何にしてこれを、調節することが出来るか、といふ問題であります、即ち物價調節の方法、を

いふ問題であります。物價騰貴の現状、物價騰貴の弊害、物價騰貴の原因、物價騰貴の調節、といふ問題でありまして——これ程高いか。その高い物價は、何故安くないか。そのいふ高い物價の騰貴は、如何して起つて来たか。これは如何すれば、元の通りに若くば相當の定價まで、引下げて調節が出来るか——といふやうに、四つに分けてお話しすれば、大體私の申上げまする、物價問題の大意が、御諒解を得るかと存じます。そこで第一の問題からして述べます。

## 物價騰貴の現状

我が國現今の物價は、何れ程高いかといふことは、頗る簡単な事柄で、恐らく日に物價の騰貴に、概まされて居る貴女方は、私共より能く御承知のことと思ひます。先づお話の順序でありますから、申しまするに、一体この日本の物價は、安いといふことが、評判に



たつて居つて、御案内の通り、日本の國が西洋に、貿易を始めてから、僅かに五十年の間でありませんが、その間非常な勢で、日本の品物が、東洋の各方面に賣れ、又西洋にも賣れた。棉絲棉布もか、大阪で最も喧しい、日本の大産物は、もごく西洋から、押渡つて來た品物であるに拘らず、英國、獨逸、米國などの棉絲棉布が、支那の市場を占領して居つたにも拘らず、そこへ乗込んで行つて、支那の市場から、是等各國の品物を、驅逐したさいふこなことも、矢張りそれと同じ物が、日本で安く出来る、逆も四洋の物が、競争が出來なくなつたためである。又マツチもか、石鹼もかもそうであります、神戸にはマツチもいふやうなものが出來て、今では有力な産業であります、之れも元は、瑞典のマツチもいふのが、世界の評判でありましたが、日本でこれを習つて、神戸で拵へて、外國へ供給するも、さうしても瑞典のマツチは、日本のマツチと競争が出來ぬ、そこで遂に日本のマツチに、追拂れて仕舞つた。私共の子供の時に、使つた小さいマツチは、あれは瑞典のマツチでありまして、今日ではモウありません、日本のみならず印度、支那、斯波邊り

から追拂はれて、唯今では瑞典の附近で、日本のマツチと瑞典のマツチが競争して、將に白熱戦を演じて居る、さいふ風であります。

### 安いて通つた日本品が

日本のマツチが安い、石鹼が安いさいふので、需要があつて賣れた、日本の物は安いさいふ、定評があつた、或は粗製濫造のものもあつたが、兎に角安いさいふので賣れた、所が昨今は非常に騰貴し、安い所か、西洋の物よりも遙かに高い、斯ういふことになつた、そこで一寸比較して見ますさいふも、この歐洲戦争が、始まる前の月、即ち大正三年七月頃の物價を、假りに百に致します、昨今日本の物價もいふものは、二百位になつて居ります、これは一時二百まで、騰貴したさいふもありますが、昨今は少しく下落致しますして二百位になつて居ります、それでも英國は、大正三年七月の物價を、百に致しますさいふ昨今百七十位で、米國の如きは百三十位であります、斯ういふ點でありますから、米國

に比べるに、ちよつと七十も違つて居り、英國は二十違つて居るのであります。コツブでも、日本では十錢するものが、彼方では同じ品物で七錢で賣る、こいふ譯でありますから、こつとして競争が出来ない、これが詰り、昨今の日本の物價の、喧しい問題になつて居るので、先づ物價騰貴の現状であります。

### 日本の統計は甚だ不完全

茲に現今貴女方が、新聞雜誌その外講演などを聞きになつたり、御覽になつたりすることに就いて、ちよつと御注意致して、置かなければならぬことは、戦前に百のものが、二百になつたこと、餘り大した騰貴では、ないじやないかと思はれるでせう、二百こいふが昨今家庭で、買はれる品物を見るに、迎も倍どころではない、三倍位にも騰貴して居るに、お考へになるに、思はれる、尙ほ米價などは、昨今安くはなりましたが、それにしても尙ほ、戦前より考へるに、二倍位ではないこいふ御疑問が、自ら起るでせう、

これは御尤もな疑問であります。總て日本で新聞雜誌、その他で申して居りまする、物價の百か二百かこいふのは、總て卸し賣の相場でありまして、中々日常家庭で接觸される物價ではない、本町筋か、その邊の軒下で、ブランとして居る物價である、であるから小賣になるに、遙かに高いことに、なつて來るのであります。だから小賣に致しまして、卸し賣に致しまして、斯やうな譯であるのみならず、お恥しいことでもあります。日本の統計こいふものは、大體甚だ不完全なものでありまして、御案内の通り、漸く近年に至り、國勢調査をやりまして、始めて我々同胞が何千萬人あるのか、判りましたやうな次第であります。それまでは五千萬か、六千萬、七千萬と申して居りましたが、それは皆大體の數で、頗る不確實な統計なのでありまして、この調査に依つて、始めて日本人が何人あるかこいふことが、最近に判つた様な譯でありまして、その他のものは推して知るべしであります。日本の統計は、西洋のものに、同じに扱つて居るが、實は甚だ不備不全なもので、統計學上の知識の餘り無い役人達が、お遣りになるのでありますから、これ

は餘程斟酌して、考へなければならぬもので、物價の方面に就いても、頗る如何はしいものがあるのですから、従つて何時も少しづつ、間違ひが出て来る。

### 西洋よりも遙に高い物價

近い話しが日本の米が、さうであります、いや本年は六千五百万石獲れた、豊年ださ申して居りますが、それは何時も嘘であります、之は皆この田舎の役場の人が、好い加減なことを、報告して居るので、村の役人か村を廻つて、今年米の調子が好いから、この調子なら一畝で何石獲れるか、村には何町田地があるから、この位の米が獲れるさ、見積りで郡役所に届出る、郡役所では、各村のこの報告を集めて、縣廳に届ける、縣廳はこれを集めて、中央政府に報告する、中央政府はこれを集めて、本年は六千萬石の實收があるさして、農商務省から、統計にして出すのであります、もさく田地に當つて、調べたものでなく、田舎の小役人が目盛りで報告したので、全く判らな。これと同じで矢張り

物價の間題も、中々實際に接觸して居る上から言ふさ、戦前の倍さころでない筈である、それにしても、戦前に比して、又西洋に較べるさいふさ、日本のものは大分高い、遙かに高いさいふ、大體の事柄だけがこれで判るのであります。

### 物價騰貴の弊害

そこで第二の問題に進みまして、先き程御紹介しました通り、物價の騰貴は、何故悪しきや、即ち物價騰貴の弊害、さいふ問題であります。この問題は、これを學問的に、取扱ひまするさいふさ、中々喧しい問題でありまして、恐らく一時間や二時間では、お話が出來ない、然しさう申して居つても、致し方がないからして、極く簡單にお話を致して、見たいのであります。物價騰貴さ言ひまするさ、大抵の方は、それは悪いさこらうさ、斯う直覺するけれども、これは學者が極く冷静に、有らゆる方面の事情を綜合して、比較

研究致しまするに、一概にさうはいかぬ、何故さうはいかぬか、こいふ問題になります。大分喧しい問題になりますから、姑らくお預り致しまして、一體この物價の騰貴は、善いか悪いかこいふこと、即ち物價騰貴の利害の岐れる所は、大要三つあります。

第一は其物價の騰貴こいふものが、突飛的な騰貴であるか否うか、こいふことに依つて利害が岐れる。物價騰貴必ずしも悪くない、必ずしも善くない、斯ういふことになる。即ち同じ物價騰貴も、斯う一概に申しましても、その物價騰貴が次ぎ／＼順序的に、段々上つて行く物價騰貴でありますれば、それは全體の經濟界なり、或は吾人の生活上なりに、弊害が無く、却つて利益である。然しその騰貴が、突飛的に來るに、非常に害がある、非常に急激に、急速度に來るに於ては、總ての社會に、非常に混亂を來さしめ、生活上にも壓迫を加へて、有らゆる弊害を起すのであります。

又第二の物價騰貴の利害の岐るゝ標準は、その物價騰貴たるや、他の外國に較べて、騰貴であるか否うか、他の國が騰貴しない、我が國だけの騰貴であるか否うか、そしてその騰

貴が激しいか、同じ騰貴であつても、自國の騰貴は割合に少い、こいふやうに天張り、他國に比しての、騰貴であるか否うか、に依つてその利害が岐れる、同じ騰貴でも、他の國よりも、騰貴の率が少ければ、却つて利益である、夫でない時には、反對に弊害が起る。

そして第三の標準は、この物價騰貴の原因如何で、同じ物價騰貴であつても、その騰貴するに至つた所以、原因の基く所は何であるか、こいふことであります。この第三の問題は、次にお話いたします、現今の物價騰貴の原因、こいふことに於て、説明いたしまするから詳しいことは申しませぬが、同じ物價騰貴でも、それは經濟界……政府を離れて民間の經濟が、自然に茲に騰貴を、起さしめたものであるか、若くは政府の政策、政府の財政政策、經濟政策などの御都合で、やつたことが原因になつて、日本全體の物價を、騰貴せしめたことであるか、否うかこいふことあります。民間の經濟から起つて來た原因であるこいふこと、騰貴の弊害は少い、寧ろ利益が多いのであるが、さうでなく、政府の財政政策、その他に依つて起された、物價騰貴でありますこと、それは非常な弊害を、起すので

あります、要するに大體斯ういふ、三つの標準に照して見て、始めて現在の物價騰貴は、矢張り弊害がある、利益がないといふ、利害關係が岐るのであります。

### 我國の物價騰貴は凡て惡質

所で困つたことには、三つの標準で以て、照して見ましても、我が國現在の物價の騰貴は、總て惡い所のものである、惡質のものである、といふことになるのであります。それは何故か申します。第一に突飛的の物價騰貴である。第二に他國に比して、激しい騰貴である。第三に現在の物價騰貴といふものは、それ許りでなく、其一大原因は、日本政府の財政政策に依るものであるといふことは、牢固として拔くべからざる、證據があつて、總て惡質な宜しからざる、物價騰貴であるといふことを斷言せざるを得ないことになつて、先づ大體、これだけを述べて置いて、もう少し、右申上げましたことに就いて今一應、その一つ／＼に就いて、詳しく述べて見たいと思つて居ります。で現在のこの日本の

物價騰貴といふものは、飛突的な騰貴であつて、所謂漸進的に、次第々に爪先上りな騰貴でない。斯ういふ事を申しましたが、それならば何故、同じ物價騰貴でも、チク／＼上つて行く、漸進的な物價騰貴は、却つて利益であるか、効能があるかといふことを申上げます。これは餘程、皆さん方の御研究、御諒解を得て置かなければ、ならぬことでもあります。皆さん方は大體この消費者の立場に、あるのでありますから、さうも物價の安いのは、幾ら安くつても、結構であるといふ、或はお考へになるかも知れませぬが、お宅の御主人としては、事業に關係せられて居る以上は、物價は上がる方が宜い、けれども奥さん方は、臺所の費用が多くなつて、これ迄の収入では……少くとも、御主人から受取られて、附合つた小使錢では足りない、といふやうな事實に束縛せられて、成るべく物は安い方が宜いをお考へになる傾きが、多くの御婦人に、あるやうであります。これは單に婦人か、或は一家の臺所を預つて居る、關係から觀た所で、大きな國といふものゝ上から、廣く深く考へるに、必ずしもさうはいかぬ。

## 漸進的騰貴は自然の法則

一體物の價といふものは、さうしても、チク／＼上つて行くべきが、自然の法則であります。詰り物價の漸進的騰貴は、現在の世の中に於ては、大切なことである。考へて置かなければならぬことは、明治初年から、今日まで米、麥、或は家賃にしても、或は朝日新聞の新聞代にしても、皆幾らか上つて居る、下つて居るものは無い、昨今のやうに、一方に於ては家賃を、五割も引上げる、或は六割を増す、さういふやうなことは無いが、學校の月謝のやうなものでも、さうである。我々の中學校に居た時分は、中學校の授業料は、漸く二十錢であつた、今時そんな月謝は、何處へ行つても無い、年に六十圓も八十圓も、取る學校がある位である。總てに於て何物でも、安くなつたものはない、大體に於て、皆チクチク高くなつて居る、米の價でも、我々が物を覺えてから、四圓さういふことを知つて居る、それが六圓になり、八圓になり、十圓になつた時には、これが非常な騰貴である、さうい

て暗しかつた。歌さへ作られた、「米が十圓すりやヤツコラヤノヤ」さういふ歌が出来た、一升十錢なさういふ價は、前例のない騰貴であつた、今日では十錢や二十錢どころではない、非常な騰貴である。然しこれは、何う考へても、自然の騰貴である。何故大勢かさういふこと、限りある土地に、限りなく人間が、増すのであるから仕方がない。

## 日本人は年に七十萬人殖える

日本の國は、天照皇大神以來、固有の日本で、大昔の儘である、少しも殖れて居ない、尤も朝鮮とか、臺灣とか殖れて居るが之こそ、朝鮮人なり、臺灣人なりが居るので、何も土地だけ賣つたのではない、人間も添へて賣つたのであつて、日本の國さういふものは、二千五百年以來、少しも土地が殖れて居ない、南の方では、海岸が殖れて居るさういふが、北の方では、反對に海岸が減つて、「親不知」が二丁も三丁も沖の方に、あるさういふ有様である。日本の人口は鼠算で、段々殖れて行く、年に七十萬人位殖れて行く、従つて米も

餘計喰ふ、少しばかり米が、餘計獲れても耐へない、騰貴せざるを得ぬ、だから物價がチリチリ上るのは、自然の大勢である。又昨年よりも今年、こいふ風に物が、段々上つて來るこいふこ、大阪邊りの實業家は、いろ／＼事業を計畫したり、目論見たりして、紡績會社を拵へやうこか、マツチ會社をモウ一つ拵へやうこか、或は資本金を、モウ少し殖やそうこか、或は鐵道線路を擴張しやう、こかいふやうな、總ての事業の勃興こいふこは、物價が爪先き上りになつて來た時に起るので、物價が上るこいふやうな、氣運だから計畫も出來、又計畫する氣にもなる。反對に物價が、段々下り坂になるこ、先き／＼安くなつて、損をするこになる、もう少し先きへ行けば、一割五分の利益は、確にあるから、今の中にやつて置かう、じやないかこいふこになる、故に爪先き上りは、自然の大勢である。

従つて之れに對應して、事業が計畫され、いろ／＼の事業が勃興し、日本全體の農商工が、共に進歩發達する、紡績會社が澤山出來る、マツチの會社が出來る、商船郵船以外の船會社が澤山出來る、鐵道が彼方此方に通じて、事業が段々股盛に越く、そうなれば又、

事業を計畫する人が出來る、事業をやつて居つた人も、矢張り利益が多くなる、資本家は全體に収入が増して來る、であるから高い賃銀を、仕拂ふこが出來るし、又新に事業を興すものもあるので、職工を彼方此方で、奪ひ合ひをするやうになるので、収入も良くなる。一度には増さぬが、段々労働者が多くなり、雇はれ先きも多くなつて、勞資共に収入が増して行く。であるから學校から出て、會社なり工場に行く人も殖ゆ、又俸給も増す好景氣のために、従つて需要も多い、そうなるこ國民全體の、生活が向上して來る。今までは十圓の家賃に、居つたものが……十圓の賃家も、拂へなかつたものが、十五圓の家賃の家に住んで、偶には芝居も見たり、活動寫眞も覗ける、斯ういふこになる、これは單に事業界だけでなく、國民全體の生活の上から言つて、矢張り漸進的に、物價が高くなる、騰貴して行くこいふこは、善いこであつて、そしてそれは到底免れぬこである、よしそれは、悪いこであるとして、調節の方法を講じても、それは逆も及ばない、時勢の大勢である、現在の生活の基礎の上に、合致するこ共に、先づ以て、心得て置かねばなら

ぬことであつて、一概に物價の騰貴は、悲しむべきでない。さういふ譯なのであります。

### 突飛的騰貴は何故悪いか

然らばそれと反對に、物價の突飛的騰貴は、何故悪いか、何故にそう忌むべきであるか。さういふ問題に移りますが、これはお互に、昨今現實に遭遇して居りまする、問題でありますから、餘り精しい説明は、要しないかと思ひますが、總て學問的に、斯やうな問題を取扱ふ場合には、單に物價の暴騰、突飛的騰貴は悪い、宜しくない、さういふ概念だけで解決することは出来ぬのでありまして、悪いさういふが、何れ程悪いか、何處まで不可いのであるか、さういふことを徹底的に、頭に入れて置かぬと、後で述べる問題が、如何に痛切であつても、此の問題に就いては、如何に考へなければ、ならぬか。さういふことの、御理解が薄くなりますので、少しく執拗のやうではありますが、お話をいたしたいと思ふのであります。

先づ物價の突飛的騰貴、さういふことに就いて、第一の弊害は、國民生活の困難、殊に新中等社會の生計の困難、さういふことでもあります。申す迄もなく、物價が一度に、昨今の如く暴騰致しますると、誰しも非常な、大金持でない限りは、全體の生活が壓迫されて、困難になつて來た、さういふに相違ない。その中でも殊に、この社會として、國家として憂ふべきことは、普通の中等社會以外に、新に起つて來た、新中等社會さういふものに對する、壓迫さういふことでもあります。

一體この一國の安泰、政治上の安定さういふことは、さうしても、この中等社會さういふものが、維持せられ、その中等社會さういふものを、確かりして置かなければ、出来ぬことでもあります。詰り昔から、支那の學者が、申して居りまするやうに「恒産ある者恒心あり」で、相當な財産があり、収入があり、相當に暮しが出来るさういふ所に、始めて政治上にも相當な考へ、極く穩健な考へを、懷くやうになつて來るので、恒産あるもの、始めて恒心ありと、斯う申して居ります。一國の政治上から申しますると、斯ういふ恒心のある者が



……一國の大部分をなして居る人間が、假りに十人居るものとすれば、その中の六人まで或は七人までが、斯ういふ恒心ある者……即ち恒産があつて暮しに困らない、従つて寛りして居る、餘裕がある、生活を叙して居る者が、大部分を占めて居る社會をば、理想としなければ、ならぬのであります。

### 頭デツカチ腹すぼり

古い歴史家が、能く申して居ります通り、佛蘭西革命といふ、あの恐ろしい革命も、中等階級か、何時こはなく潰れ、凋落して仕舞つて、頭デツカチな、足やお腹の細い、佛蘭西が出来た爲で、羅馬の滅びたのも、諸君が歴史でお讀みになつた通り、あの羅馬大帝國が、非常な富豪で、無数の乞食のみがあつて、その中の中等社會が、無かつた爲めに、羅馬が立つところが、出来なくなつたからであります。今日の支那、印度、或は英國の領土である愛蘭なども、安定した社會を、作り得ないのみならず、政治上に於いて、有力な國

たるを得ないのは、これは總て、この中等社會を、缺いて居るからである。中等社會が凋落して居り、少ないからである、前年支那内地の到る所を、經廻つて來た人の話を聴くと支那は不思議な所で、非常に大金持があるかと思ふと、その近傍に、無数の乞食が居る、自分の見た状態から申すに、人口一萬人中、九千九百九十人は、貧乏人で、殆ど食ふや食はずの人間である、そして残りの一萬分の九が、漸く中等社會で、一萬分の一が、非常な大金持である、さういふて恐らく、間違ひなからうと、申して居ります。印度の方面の事は能く本なごに出て居るが、矢張りそんな風に書いてある、土耳其でもさうである、伊太利もそれに近く、愛蘭なども、その適例である。詰り中産階級が、凋落して來るといふことは、これは一國の政治家の、最る虞るゝ所である。所が日本なども、困つたことには、昨今多少その傾向がある。もさう日本といふ國は非常な大金持の無い代り、又非常な貧乏人も割合ひ少い。即ち中産階級が、非常に多いといふので、世界的に名高かつた。獨逸もか、佛國もか、英國もかでは、盛んに社會主義、共產主義が喧ましいが、私が二十年前に、獨

邊に居つた時分に、大學の先生なごは、斯ういふことを言つて居つた。西洋に比較して、日本にはそんなものは、起り得ない。それは日本では社會問題は、それ程緊張して居ない非常な大金持ちなければ、又大きな會社もない、あつた所で、大したものではないから、日本ではまだ、そんな問題に對しては、自覺がない、いふことを、講義の間に申されましたが、二十年前の日本は、さうもさうであつたらしい、然しその後、段々さうでない傾きになつて來た。先づ第一の適例は、昨今喧しい、日本の農村社會問題……御案内の通り、日本には社會主義、社會問題といふものが、高調せられて來たのは、僅かに十年この方、言つて宜い位でありまして、世間の耳目を聳動することに、なつたのでありますが、是等の問題は總て、都會の占有物でありまして、今日のやうに岐阜や岡山などの田舎に、社會問題が起らうなごは、夢想だもしなかつたのでありますが、唯今では方々の田舎に起つて居ります、即ち日本の農村社會問題がそれでありませう。

### 小地主が段々無くなる

これはさうして起つたかといふに、日本の小百姓は、一町位か或は少いものになるに、五反位の地面を持つて居る、そして自分で耕して行く、是等の小百姓……小地主が段々凋落して、喰つて行けなくなつた、そこで自分の土地を賣つて仕舞つて、そして小作人になる一町前後の少ない土地を持つて、自分で耕して行つたのでは、食ふことが出來ないので、そんなものは賣つて仕舞つて、他人の二町なり、二町五反の田地を……自分等の家族の手に合ふだけの、田地を耕して行く、唯今申しましたやうに、一町前後の田地を持つて、自分で耕して行くのを、これを自耕地主と、申して居りますが、これが段々少くなつて來て小作人が多くなつて來た、そうするに、小作人の競走が出來て來る、小作人が多くなつて來るに「私の方ではモツミ地主に、年貢米を多く差出しますから、私に小作をさせて呉れ」といふ、今まで二石であつたものは「私の方では二石二斗納めるから、私にやらせて呉

れ、耕させて呉れ」といふ、するに一方の小作人は「私の方ではそれ以上、一石五斗納めるから、私に作らせて呉れ」といふ、丁度私は十圓で借ります、イヤ私には十五圓で、貸して呉れ」といふて、家賃を糶り上げるやうに、小作料を糶り上げて行く、然し昔はそれでも、さうやら斯うやら喰つて行けたが、今日のやうに、斯う物が全體に高くなつては、それでは喰つて行くことが出来ない、子供を學校にやるにしても、娘に帯を一つ買つてやるにしても、地主に差上げる小作米が、多くなつて来るに、中々夫れさころでない、喰ふことも出来ない、小作人の生活が、段々困難になつて来たので、そんな馬鹿氣たこきを、やつて居れない。朝日新聞の社會記事を読むに、大阪へ行けば一日二圓から、二圓五十錢の日當が取れる、溝浚へをしても、それ位の日當は取れそうだが、電車の工夫になつても、三圓は得られる、運轉手になれば、幾ら取れる、紡績會社の職工や、女工になれば、幾ら取れる、さういふ記事を読むに、こんな面倒な、馬鹿らしい小作は、罷めて仕舞ふ、欲しければ地主に、返して仕舞はう、さういふことになる。然らざるものも、もう少し小作をまけて

呉れよ、談判を始める。一人宛ではいけないので、百人よか千人よか小作聯盟、小作人同盟を組織して、地主に對して、一石五斗を二石二斗にして、貰はなければ喰つて行けないから、負けて呉れよ談判をする。それでなければ、米を作らないといふ、丁度都會の工場や何かで、組合や會が出来たやうに、到る所に、小作人の聯盟が起つて来た。

### 一戸平均の小作面積は一町歩

一體この日本の戸數さういふものは、全體で約一千万位あります、この中で、昔は日本は農を以て、國を建て、居つたので、農家の方が大變多かつた、六割位もありましたが、今日ではこれが減つて、農家が五百五十六萬戸位、約五割六分が百姓さんであります。そして残りの四割四分が、我々のやうな連中なり、商工業官吏軍人さういふやうなものであります。この五百五十六萬戸の内、自分で自分の田地を耕して居る、所謂自作農さういふものは、五割五分位のもので、残りの四割五分は小作人であつて、今でも小作人の方が多

然し我々は覺て居るけれども、以前は三分の一が小作農で、二分の二は自作農であつたそれが段々少くなつて、現今では自作が五割五分、小作が四割五分になつて居ります。詰り農村の中等階級、即ち一町なり一町五反なり、或は二町位の田地を持つて、而も自分で耕して、家内五人が樂々ミ、粥を啜つて居れた中等階級、子供を中學校へ入れて居れた中等社會が、段々少くなつて來て、同じ百姓でも、その内容が變つて、他人の田地を耕して行く、都會でいふミ、工場などに傭はれて居る勞働者……他人の田地を作る者が、多くなつて來た。

斯ういふやうな譯であります、今この状態を、考へて見まするミいふミ、これも無理はないのであります、全體この日本の田地田畑は、この位あるかミ、調べて見ますミ、全體で田畑が六百十三萬五千町歩あります。この六百十三萬五千町歩を、今申した五百五十六萬戸の農家が、耕して居りますので、これを平均に割當てまするミ、一戸平均の、小作面積ミいふものは僅かに一町歩であります。百姓はドシ／＼殖ゆる、親は子を生む、子

供は孫を生む、孫は曾孫を生む、ミいふ具合に殖へて行く。然し日本の面積は、少しも變らない、田畑が増すにしても、そう大したものではない、六百萬町歩の田地を、五百五十六萬戸の農家が、分け取りして居るので、大體一戸當り一町程の田地を、耕して居る有様であります。

### 一家總掛りて月收三十七圓

一町の田地では、幾らよく作つても、三石以上は獲れない、たゞひ獲れたにしても、その三石が全部、自分の手に入るのではない、小作人であれば、半分は地主へ、納めなければならぬから、残りの半分一石五斗だけしか、小作人の收入にならない、三石作つて、一石五斗しか手に入らない。それで、米價が一石、三十圓ミ致しまするミ、一年に四百五十圓の收入にしかならない、これを十二ヶ月に割るミ、一ヶ月三十七圓程である、五人掛りで一ヶ月三十七圓の收入では、足りない筈である。小倉服を着た職工でも、百圓位は直ぐ上

げて仕舞ふ、一ヶ月三十七圓では一日一圓二十錢である、一家五人掛つて、一日一圓二十錢では、さうも馬鹿らしい、紡績へ行けば、息子一人でも、モット餘計に取れる。それで新聞を見て大阪へ行けば幾らになる、神戸へ行けば幾ら取れる、さうして出掛ける、農村の凋落にならざるを得ない。

斯ういふ具合で、段々に小作争議が起つて来る、農村の社會問題さういふものが、段々複雑になつて来る。大正二年の、農村の小作争議さういふものは、政府の調べに據りまするに全國で四百八件の件数であつたのが、大正十年は、驚くべき増加でありまして、千二百五十五件になつたのであります。千二百五十五件、全國に労働争議があつた、非常な勢ひで起つて来た。詰り斯ういふ具合に、日本全國到る處の農村に於て 中等社會の者が、段々物價騰貴に壓迫されて、さうして凋落する、せざるを得ないさういふやうな、状態になつて来た。

### 所謂る「新中等社會」

所が同じ中等社會でも、所謂るお百姓さんさういふ者は、危険思想を、比較的帯びて居ない。それではモット危険なのは、何かと言へば、所謂る新中等社會の者であります。言葉を変へて言へば……是は昔はなかつた、現今になつて段々生じて来た……即ち月給生活者さういふものであります。學校を出て、月に五十圓位貰つて、何處々々の社員になる、或は百圓取る、さういふやうな月給取り、詰り定額収入者、さういふものであります。大阪邊りの銀行會社では、何處でも大學を出た、専門學校を卒へた、連中を抱へて居る。大きな會社になるに、全部さういふ連中許りである、大きな工場になるに、労働者より數は少ないが、二百人、三百人のさういふ社員がある、事務員が居る、それだけではない、昨今は女の事務員が、非常に殖つて来た、さうして生活して居る。所謂る「新しい中等社會」さういふものが、段々殖つて参つたのであります。

此の連中が都會に於て、随分物價騰貴に苛まれ、苦しめられて居ります事は、深く説明を要さないのであります。唯そこに注意すべきは、是等の新中等社會の人々は、元々の古い中等社會の、人々を違かつて、頭が出来て居る云ふ點である。固より高い教育は受けて居る、従つて理解力も備つて居る、彼も人なら、我も人なり、云ふ氣概もある。人格も十分に出来て居る、是等の人々が物價騰貴に依つて、苦しめらる、煩悶か懷疑になる、何故斯う云ふやうに、苦しまなければならぬのであるか、苦しむのが人生であるか、云うか、是れは社會の弊ではなからうか、社會組織の缺陷が、齎したものではないか、云ふやうな考がそれからそれへ、起らざるを得ない、云ふやうな人々であります。殊に昨今の突飛的物價の暴騰が、此の連中に少なからぬ影響を與へたであらうと思ひます。斯様な有様で、物價が一時に暴騰する、云ふことになり、段々貧富の懸隔が著るしくなる。そこで危険思想を、助長する云ふことになる譯であります。

### 輸出貿易の衰退

次に第二の物價暴騰—突飛的騰貴云ふ事に、弊害があるかないか、云ふ問題は、輸出貿易云ふ事から、説明して行かなければならぬのであります。前にも申しました通り大體日本の製品は、安きを以て名ありで、粗製濫造ではあるが、何分物が安い云ふので海外へ盛んに出た、所が日本の物價が騰貴した、而も西洋のそれに比して、遙かに割高である、そこで製品も高くなるから、賣れなくなるのであります。御承知の如く、歐洲戦争が濟んで此の方、日本の貿易云ふものは、非常な勢を以て、凋落して來た。即ち輸出貿易が、著るしく不振の状態になつて來た。大體歐羅巴戦争以前は、日本の貿易は、云うか云ふ、買ふ方が多くて、所謂輸入超過、云つた状態であつたが、戦争が始る、段段物の賣れる方が多くなりまして、輸出超過云ふやうになりました。そこで段々日本の富が、殖つて參つて、大いに事業界が潤つて參つたのであります。それが今云つた様に

戦争が済んでから後は、反対に元へ戻つて参りました、逆轉して物が賣れなくなる、賣れるよりも、買ふ方が多くなる、従つて受取る金よりも、外國へ拂ふ金が多くなる、そこで日本の金銀正貨云ふものが、外國へ年々流出する、従つて事業界も、段々振はなくなつて参つて、現に大阪を見ても、御判りでありませうか、事業が著るしく沈衰して参りました。あちらの工場は閉鎖する、此方では事業を縮少する、斯ういふやうなことに、なつて参つたものですから、それ等の方面に、雇はれて居た所の、職工なり社員なり、總てそう云ふ連中が職を失つて、所謂失職者が激増して参ります。そこでそれ等の職を失つた連中が、こつやらこつやら、職にありついて居る連中に對して、猛烈なる競争を致すことになる、壓迫を加へるこゝになります。此の爲めに國民全體を致しまして、生活が甚だ困難となる、従つて思想が悪化する、社會の不安云ふこゝが、矢張り貿易事業衰退、云ふ事の結果から、起つて参ります。

### 政府の豫算膨脹

次に第三には、物價が今日の如く、激しい騰貴を致し、突飛的な騰貴を致しまする云ふこゝ、獨り民間のものが、困るだけではない、政府が困つてしまふ、所謂豫算の膨脹、云ふこゝになる。いふこゝは、申す迄ありません。一體日本でも、外國でも、同じ事でありますが、政府云ふものは、何れの國でも一大消費者、若くは最大消費者である。殆ど生産云ふものは致さない、悉く最大消費者である、皆人民から租税で金を徴収する、それを海軍に使つたり、陸軍に使つたり、學校を造つたり、其の外有らゆる各方面の、事業に使つて了ふ。それ故政府は、一年にこれだけ、使ふのか云ふこゝを、年々決めまして、其の年の末に議會に出す、翌年の三月迄——議會開會中に、上下兩院の協賛を経まして、本年度は之れだけの豫算で、賄つて宜しうございませう。二十億なら、二十億の範囲内で、やつて行きませうと言つて、翌年の四月から、新しき歳計年度に道入る。所

が物價が、昨今のやうに、大上りに上りまする云ふも、非常の狂を生じて來ます。米が一石三十圓が、四十圓になつたり、五十圓になつたり、六十圓に飛んで見たり、斯ういふやうに、非常の勢ひで暴騰致します云ふも、本年度は、二十億圓で、賄がつく、政府の臺所が濟むも、思つて居たものが、足らなくなる。又政府の雇ふ、電信工夫なり、鐵道工夫なごも、矢張り民間同様、高い賃金を、拂はなければならぬ、云ふことになると、結局二十億が、三十億若しくは三十五億に、なる云ふ譯で、要するに豫算の膨脹を來たすことになる、歳出がウント殖ゆる、それで政府は如何にも、豪さうな顔をして居るが財産云ふものは殆ど無い。足りなくなつたから云つても、ここからも出る所がない、そこで人民から取り上る、己むを得ぬ云ふので、租税を餘計取る、又取らざるを得ない、云ふことになります。本年度は二十億で、賄がつくと思つて居たから、所得税は是だけ、酒税は此の程度に營業税は是だけの割合で、濟まして置いたのが、物價騰貴の爲めに、來年度は所得税は此處迄引上げなければならぬ、従つて酒税營業税、其他の税

金も、引上げられて來る。即ち租税の増徴云ふことを、やらなければならない、現にやつて居るのであります、其の爲に日本の財政は、年々行詰つて、來て居るやうな有様ですがくの如く古い税が高まつたり、何ぞか云ふ新らしい、税が出來たりして、非常な勢ひで税金の割増しを喰つて居る、それが戦争中であるならば、我が國の物がドシ／＼、外國に賣れ、之に従つて事業が盛んになり、従つて一般の労働者の、収入も殖わて居るから、左程に應へませぬが、今云ふ通り、現在ではそれが、まるで手の平を覆した如き状態になつて居る際ですから、國民の生活が、非常に苦しくなつて參ります。収入が減つて只さへ困つて居る上に、税金責めに遭ふものですから、國民の生活が更に、一層苦しいことになるのであります。斯う云ふ方面からして、國民の生活不安、脅威となり、又壓迫することになり、社會の不安云ふことを、見る云ふ譯であります。



## 昔の一圓は今の五圓

物價の突飛的騰貴の、第四の弊害は、六ヶ敷い言葉であります。貨幣價値の激減云ふ事であります。物價の突飛的騰貴のために、お金の價値が急に下落する、云ふことは可笑しいやうな、話であります。先づ米の相場を見ても、能く分るのであります。吾々が子供の時分には、先き程も申した通り、米が十圓であつた、今貴方がたが御考へになる、可笑しいことだと思はれますが、一等米が十圓であつた、結り一斗一圓です、東京港で一圓に付一斗か、一斗二升か申して居ります、吾々の子供の時分は、一圓に一斗であつた。所が一時は、四十四五圓から、五十圓の相場になつたことがある。さうするに一圓に付二升である、結り米を買ふ關係から申しますと、五分の一云ふ割合になつてしまつた。元は一圓一斗で買つたものが、僅に二升しか買へない、一圓云ふ幣貨の價値が、五分の一になつて了つた、言葉を換へて申せば、昔の一圓が其時の五圓に、相當する

云ふ譯です。ですから此の貨幣價値の激減が、總ての社會の人々の收入の上に、非常な影響を及ぼしまして、收入が一時に五分の一に減つたこと、同様な結果になつたのであります、詰り元の一圓が、今の五圓だ云ふ事は、丁度昔の百圓の月給取りが、今の二十圓の月給取り、同じ事だ云ふことになる。元二十圓の月給取りが、現在月給百圓の者も、同じ生活をするようになる。官吏、公吏、或は銀行會社工場云ふものには、夫々昔から課長はこれだけ部長はこれだけ、初任者は月五十圓か云ふ風に、規程があるが、是等の人々は詰り、昔の五分の一の待遇しか得られない、五分の一で生活することになる。

私は數年前、尾崎紅葉さんの小説を読んだことありますが、其の小説の中に、確か芝方面に住んで居る、極く貧しい家庭に、綺麗な姉妹があつた、其の姉さんの方が、殊に體格が良かった爲めに、當時百圓の報酬を、貰つて居つた若い會社の、課長さんに買はれて、さうして新家庭を、牛込近邊に造つて居る、そこへ來い云ふものだから、妹さんが行つて見る、非常な贅澤な、結構な暮らしに驚く、羨しく感ずること云ふ所を、描寫し

て居りますが、それを読むに、何でも下女二人に書生一人、外に抱車夫が居る、まだ御盛居さんも居られた、それが百圓の月給取りの生活である、實に今昔の感に堪へない。それが今日では五分の一即ち昔の二十圓の價値しかない、是では女中を置くどころか生活に少しの餘裕もないのであります。

### 保險金や銀行預金

話が少し餘談になりますが、斯う云ふやうに、物價が騰貴し、貨幣の價値が急に下るに所謂る保險の掛金のやうなものは、變になりはしないか、例へばポツ／＼に月給から注ぎ込んで、千圓の保險に加入したとする、それが僅か數年の間に五分の一の價しなくなつて了ふ、千圓のものなら、二百圓の價値しかない、それですから折角、長年掛けた所で、六七十のお婆さんになつてから、千圓位貰つた所が、何の役にも立つまい、餘程さうも變な風になつて了つた、獨り保險のみではない、銀行預金の如きもさうである。面白いこ

云ふよりも寧ろ悲惨な事實が獨逸にある、御案内の通り、獨逸の貨幣は、非常に下落致しまして、昨今では英國の二磅に對して、六千二百馬克にしか當らない、一馬克を日本の金に致しますと約五十錢——詳しく云ふと、四十五錢であるべき筈のものが今は僅に二厘の値打しかない、ちよつと二百五十分の一位になつて了つて居る、假りに銀行に一萬馬克を、預金して置きます、下らなければ一萬馬克で、大分樂な生活が出来、老後樂隠居が出来ると思つて居た所が、ガタ／＼と貨幣の價値が下つて了つた、銀行では一萬馬克しか、返して呉れない、實際の價値は二百五十分の一——昔の四十馬克にしか當らない、一方物價は非常に騰貴して居る、是許りでは何の端くれにもならない、銀行へ預けて置いて、却つて財産を、殆ど失くして了つた、やうなことになる。其の爲めに彼處でも此處でも、到る處で悲劇が演ぜられて、居ると云ふ譯です。要するにそう云ふ譯で、物價が非常な勢で、暴騰致しますと云ふと、收入といふものがなくなる、反對に非常な勢で、減じて來ると云ふことになるのであります、同時に貨幣の價値が、非常に激減致しますから、國民全

體の生活が、上下共一般に困難になります。

### 富と人と物の集中

全體戦争といふものは——今度許りでなく、何時でも之が突發致しまするに云ふに、必ずやそれに伴ふて、富の集中に云ふ事が、起つて参ります。富の集中とは、こゝに云ふ事を申しますかと言ひますに、丁度我々が旅の中へ粉を入れて、激しく之を振るに云ふに、あちらにも、こちらにも、塊りが出來ます、それと同じで、戦争に云ふ箇で——大動搖がありますに、世の中の富、財産に云ふものは、右か左か何處かの隅に、集中するに云ふ傾向を帯ぶるものであります。御承知の通り、日本にも三井、三菱を始め 大金持が中々ありませんが、三菱の如きは、西南戦争、所謂十年戦争の副産物である、其の様に日本の富豪の多くは、殆んど維新以後の社會の動搖、即ち日清戦争だとか、北清事變だとか、日露戦争だとか、歐洲戦争だとか云ふ、大きな節——即ち日本が此のやうな戦争に云ふ節に、掛つ

た副産物であります。即ち此の戦争に云ふ事が起ると、其の戦争の範圍内——深みなり、強みなり、其の大きさ——に應じて、富の集中に云ふことが、行はれて参るのであります。一體戦争がなくとも、現在の文明は、或る意味に於て、集中文明だに申して宜しい、現在の文明なるものを、横に割つて見、或は之れを縦に切つて、眺めて見ると、有らゆる方面に、物が集中するに云ふ、形を成して居る。第一に金が集る、段々富豪が現はれて來ます昔に較べるに現在は、富の集中に云ふことが、餘程行はれて居る、之が現代文明の特色である、それから金だけではない、人が集る、昔は百萬の都會は、口で云ふことは出來たかも知れないが、實際はなかつたと思ふ、今では百萬の都會は、あちらにも此方にもある、倫敦の如きは、七百七十萬も集つて居り、殆んど白耳義一國の人間を集めたやうな譯です、或は紐育の如き、日本では大阪等は、非常な勢で集り、東京も劣らず、賑賑して行く。其の他神戸、名古屋、京都、に云ふやうな都會には、人間がドシ／＼集つて來る。金が集つて來る、又物が集まつて來る、さうして大きな會社がドシ／＼出來る。

## 一時に大變化が來た

紡績會社等も、大きなものになります。四十萬五十萬六十萬噸云ふものが出來て來る、或は船舶會社を見ても、郵船云か商船云か、あゝ云ふやうな大きな會社があつて、何十萬噸何百萬噸の船が、ある云つたやうな譯で、總ての物が集つて參ります。昔は越後屋な云云云つた、呉服屋許りであつたのが、今日は三越、白木屋、高島屋云云ふやうな、廣大なものが出來、四百坪も五百坪も土地を取つて居り、六階も七階もあつて、高く空に聳つて居ります。全く昔は較べ物になりませぬ。

御記憶の方もありませんが、日露戦争の時分には、資本金百萬圓あれば、第一流の會社であつた。所が歐洲戦争があつてから此方は、一千万圓云ふ會社がザラにある、今日では、一億圓でなければ、大銀行大會社云ふことは出來ない、斯くの如く戦争のある度毎に、非常な勢ひで金が集る、人が集る、物が集る、總ての物が集中致します。是か善い事

か悪い事かは、別問題として、兎に角是が現代文明の、一大特色であります。現代文明がさなきだに斯くの如き、特色を有つて居るのに、搦て、加へて歐洲戦争が、突發致しました爲めに、五十年百年、掛らなければ得られなかつた、物の集中が一時に來た、急激に一足飛びに、著しい集中が、行はれたのであります。そこで之れに連れて、或は五十年百年經たなければ、得られない思想が、是亦一時にバツトやつて來た、急激に大惡化したのであります。詰り富の集中云ふ事が、急激に行はれました爲めに、貧富の懸隔が、著しくなつて來た、非常に大金持が出來て來たと同時に、貧乏人も著しく殖いた、さうして其の中間の者は、益々少くなつて來る。そこで前申したやうに、頻りに争議が起つて來た、勞働争議が起つて來る。共に一層、物價騰貴に替わらない、富者階級の吞氣さ加減、同じ人でありながら、金のない爲めに、甚だ哀れな状態になつて居る、貧乏人階級の慘めさ。其の區別、黒白の差が、餘りに甚だしくなつて來た、云ふことを感ずる。之が一般社會思想の上に、悪い影響を與へたことは、否めない事實であります。

## 猶太人の驚くべき勢力

妙な話ではありますが、昔非常に忌み嫌つた猶太人が、戦争中豪い勢で活動して、今日では獨逸でも露西亞でも、佛蘭西でも伊太利でも亞米利加でも、まるで猶太人の世界になつて來ました。何でもかんでも金々々許りで、眼中金以外に何もない人間は、宜しく排斥すべきだ、と宗教の上から嫉はれ、社會から排斥せられて居た、猶太民族は、大體頭が悪いと云ふのではないから、何ぞか復讐しやうと云ふので、或る者は専心學問をやる、或る者は一生懸命で金を貯める、一族の者が此の兩方の中、どちらか一つに努力した爲め、或る者の多くは大富貴になつた、一方の者は是れ亦、驚くべき發明發見をして世界を驚かした。そうして自分等の鬱憤を、晴らしたのであります。御案内の通り、今日世界を震駭して居る、アインスタイン博士も、彼のカールマルクスもさうである。それからもう一つ猶太人は、世界の金融權を握つて了つた。歐羅巴でも、猶太民族が皆金融權を、握つて居ります

又之を利用して政治方面に活動して來ると云ふ者も、澤山出て參ります。今日露西亞でも獨逸でも、貴方がたの眼に觸る、有名な獨逸の政治家は、殆ど猶太人であり、亞米利加など今日は、總ての權利——政治上の權利、財界の中心と云ふものは、總て猶太人に確乎と、握られて居るのであります。戦争といふ大きな篩に依つて生れた富の大集中は、さういふ方面に影響致しまして、猶太人の勢力は、侮るべからざるものになつた。斯う云ふことは互に、考へなければならぬことでありまして、兎に角表面以外に、斯う云ふ結果が、現はれて來て居るのであります。

話が少しわき道に入りましたけれども、前申したやうな譯で、現今の如き物價の突飛的騰貴は、種々な方面から見まして、恐るべき弊害を感じて居るのであります。要するに戦争と云ふ事と相喚つて、總ての人心の上に、猛烈な悪影響を與へ、思想を悪化せしめ、社會の不安を益々甚だしく、せしめつゝあるのでありますから、是は甚だ憂慮、しなければならぬ問題で、單に家賃が高くなつたから困る、大根が一本十錢では高いではないか、と

云ふやうな、一家經濟が膨脹する云ふ、單純な問題でないことを、考へなければならぬのであります。

### 物價騰貴の原因

次に第三の問題を、一寸述べて置きたいのであります。物價の高きは何に因るか、即ち物價騰貴の原因、云ふ問題であります。此の問題は次ぎに御話する、物價調節問題を研究する、前提として御話するのであります。是は大體學究的問題で、學理の範圍に及ばず云ふ譯で、深く立入ることは出来ませぬ、唯大要を御話したいと思ひます。

一體物價が騰貴するには——或は下落する場合も同じであります。常に二つの原因があります。其一つは經濟學で申します、需要供給の關係——「デマンド」云「サプライ」の關係か、物價騰貴若しくは下落の原因を爲して居るのであります。もう一つの原因は、

貨幣の數量、多寡云ふ事であります。爰で一寸御注意して、置きたいと思ひますのは、此二つの原因をゴツチャマゼにして、考へて論ずる學者が、多い云ふ事であります、是は皆さんに注意して、實はなければならぬ。

さて物價の騰貴、若しくは下落は、常に此の二大原因から來るのであります。此の二大原因が、物價騰貴の上に及ぼす作用、働き方は大分違ふのであります。それで第一の原因が個々に及ぼす、物價を申しますれば、例へば米薪、家賃の價を、上げたり下げたりする原因は、需要供給の關係か、第一であります。

第二の原因である貨幣の數量は、米が高いか、家賃着物が安いとか、そう云ふ個々の値段の如何に拘はらず、全體から見ての物價、一國の物價を、上げたり下げたりする——言葉を換へて申します、此の高いか安いとか云ふ、機運を造り上げて行く、例へば最初十圓の價であつたものが、十年二十年経つと、是か段々上つて行つて、二十圓三十圓云ふやうに、上つて行きます。詰り是は貨幣の數量、云ふ事に原因する、騰貴であり

ます、此の節は諸式が騰貴した、何でもかんでも安いものはない、皆高い云ふのは、詰り通貨の數量が、原因するであります。

### 需要供給の關係と貨幣の數量

所か前に申しました通り、昨今は何にもかも高くて困るが、別して家賃が高い、大根、蕪が高い云ふ、物價が個々の上に及ぼして居る場合は、需要供給の關係、云ふ第一の原因に依つて、騰貴したものであります。此の點を能く御承知ないミ、次のお話も解らなくなりませう。或る人は第二の原因、即ち貨幣の數量云ふ事のみで日本の物價が騰貴した金が非常に多くなつて來た爲め、日本の物價を騰貴せしめた如く、言つて居りますが、此の人の話を聞くミ、貴方がたは疑問を、生じて來るだらうと思ひます。昨今は諸式が高い併し其の高い割合ひに安い物がある、或は東京では安い物が、大阪では高い、例へば大阪の方が割合に、東京より家賃が安い、總ての物が高いが、其の中でも高い割合が少い云

ふのは不思議だ、云ふことになります、不思議でも何でもありません、即ち需要供給の關係に依つて、斯う云ふ結果を生ずるのであります、何故割合に東京より大阪の方が、家賃が安いか云へば、大阪は數年前迄は、財界の好況を受けて、事業が頗る盛であつた、そこで人がドシ／＼集つて來る、反對に家は拂底する、十圓のものなら二十圓で私に貸して呉れ三十圓でも結構云ふやうに、住む方の人が多くなつて來たから、詰り住宅の需要が非常に殖つて供給が伴はない、急には家が建てられない、そこで家賃は、東京より大阪の方が随分高かつたのであります。併し昨今のやうに不景氣になるミ、神戸大阪方面には、多數の空家が殖つて來た、それ云ふのは、關西方面が事業熱で、盛んな時代に集つた人々が一朝不景氣に襲はれて、事業縮少、工場閉鎖で職を失ふ、そこで東京へでも行けば、何かあるだらうミ、東京に人が集る、役人が諷られる或は軍人が軍縮で罷免される、東京に友人が居るから一先づ東京へ行かう、斯う云ふ連中が皆東京へ集る、そこで家が不足になる供給之に伴はずで、昨今東京の方が、割合に家賃が高い、云ふことになります。ですか

ら全體を通じての物價は、貨幣の數量に起因致しますが、個々の物價が、高いか安いとか、特に家賃が高い、或は何が安い云ふことは、其の場所若くは其の物に就ての需要供給の關係から、起つたものであります。

所で私は此の需要供給の關係の事なり、若くは貨幣の數量により、全體の物價が騰貴する、云ふ學究的問題は、此處では御話しが出来ない程、八益しい問題であります、又確か此處で、京都の河田君が御話したかの如く、聞いて居りますので、此處では之を省きます、云ふ問題に御疑念を生じた方がございました場合には、甚だ潜越でありますけれども、私の著はした國民經濟學原論を御覽下さい、下卷の二百八十一頁から二百九十五頁に、貨幣の數量云ふ事を載せてあります、それから矢張り、下の卷の百八頁から百三十六頁の間に於きまして、需要供給の關係を、説明して置きました、故に爰では重複を避けまして、今申しただけの説明に止めて置きます。學問上の理窟は、それ位に致しまして、現實の問題、即ち貨幣の數量、需要供給の關係云ふ事が、果して現今の物價騰貴の

原因であるか云ふ事に就て、少しく述べて置きます。

### 兌換券が約十二億に増加した

要するに現在の日本の、物價騰貴云ふことは、矢張り貨幣の數量、需要供給の關係、云ふ二大原因に、禍されて居るのであります。通貨の數量云ふことは、只今日本の現實な、事柄から申しますと、所謂通貨の膨脹云ふことであります。戦争前これだけのお金が、日本全國にグル／＼廻つて居りましたか云ふ申しますと、大たい通貨所謂兌換券が三、四億云ふ見當でありました。それが戦争中には、一時に十四、五億に膨脹した斯う云ふやうに非常な割合で、増加致しましたが、昨今は段々議論が、喧しくなりました爲めか、減つて参りまして、今では十二億位になつて居ります、尤も十二億云ふ申しますのは、是が今申した日本銀行の兌換券——紙幣で十二億、此の外に日本全國を廻つて居ります金銀貨、白銅貨、銅貨が約二億あります。詰り合計十四億の、紙幣と金銀銅貨が、



日本全國に於て、物の賣買に使はれて居るに、見て宜いのであります。

ここで日本のお金が殖むたから、物が高くなつたのだと云ふやうな、通貨の膨脹とか貨幣の數量の増加、と云ふやうな議論に際し、何時も問題になりますのは、此の紙幣だけであります、何故かご申しますと、金貨、銀貨、白銅貨、銅貨と云ふ金屬貨幣は、數重に於て昔から、殆んど變りはない、何時も急に殖むたり、減つたりするのは、日本銀行から出る、紙幣だけであります、ですから紙幣の増加減少を調べるに、通貨の膨脹であるか或少であるか云ふ事が、解るのでありますから、議論には何時も之が、用ゐられるのであります。さうするに戦争前三、四億のものが、昨今は十二億になつたので、三倍餘りの増加になつて居ります。

### 在外正貨も一時は二十二億

是はさう云ふ原因から、來たかご申しますと、一つは日本政府が、戦争以來今日に至る

迄、歴代積極方針を執り、ヤレ鐵道省では、日本全國に網の如くに、鐵道を敷設しやう、文部省では全國到る所に、高等學校を設けやう、陸海軍では軍艦を造る兵隊を増さうと、云ふやうに、積極方針を執つたため、豫算が膨脹する、歳出が殖むて來ると云ふので、已むを得ず公債を非常に募集する。是は議論が喧しかったのであります、租税ではない、公債を發行して金を借用し、民間からドシ／＼金を取つたのであります。所が民間では、さうさうも金を貸す、譯には行きませぬ、頭を振つたものだから、日本銀行が此の尻拭をする、日本銀行が之を引受ける、引受けたが、金がある譯ではない、紙を四角に切つて、政府の手を経て、公債證書を百圓なり、一千圓なりで賣出す、斯う云ふ譯で、それが段々多くなる。従つてこれが一般の通貨の膨脹する原因となるのであります。

それからモウ一つの原因は、日本の貿易が盛んになつた、今の中製造を盛んにして置かなければ、戦争が済むに不安になる、何時外國から押し掛けて來るか、解らないと云ふので、政府は非常に獎勵した。又之が國產の獎勵と云ふことになる、此のコツブの如きもの

にした所が、コツプが戦争以來、西洋から來ぬことになつた、そこで色々工夫して、日本で製造すること考へる、國產獎勵云ふことを政府が勸める、それには日本銀行を中心として、會社の支配人なり、事業家なりに向つて、金を貸してやらなければならない、其の結果段々お金が多くなつて來た譯であります。

モウ一つは日本の品物が、戦争中盛んに輸出せられた、そして品物に對しては爲替を組み、夫れによつて得た金が、米國に一塊り、歐羅巴に一塊り、金貨で賣つて貯へて置く、詰まり日本の品物が、ドシ／＼出て、夫の代金を二億なり三億なり、差引いて金を受取る、又船の運賃保険料云ふものが、非常に澤山入る、何億云ふものがある、それを紐育なり倫敦なりに積んで置く、それが所謂る在外正貨云、云ふものであります。此の在外正貨が、段々殖けて來て、一時は二十二億近くになつた、之を日本全體の金を合はせるに、二十五億に達する譯であります。在外正貨が年々、殖けて來る云ふやうな有様です、日本銀行も半官半民の、營利會社であるから、配當もしなければならぬ、斯う云ふ譯であり

ますから、日本銀行の兌換券通貨も亦、膨脹せざるを得ないことになります。

### 大貧乏國が成金に

第二の原因は、需要供給の關係であります、之は日本の今日迄の、現實に當て拵めて見ます云ふに、日本に於いては、需要供給の關係云ふものが、戦争以來調子が狂つて變調になつて居ります、何故そう云ふことに、なつて居るかを申し上げます、其の一つの原因は、元は日本は大借金國であつた、御案内の通り、戦争前日本は約二十億の借金がありました、其の爲め一億の利息を、拂はなければならぬ云ふ貧乏國、大借金國であつて、警戒致さなければならぬ、云ふやうな状態であつたのであります。それが戦争の力に依つて、先き程申しますやうに、非常にお金が儲かります、戦争の利益が約三十五億から四十億、を申されて居ります。此のやうな大金が、儲かる爲めに、今では矢張り、借金はありますが、貸した金の方が多くなつて居る。約十二億の貸金國になつたのであ

ります。そこで一國の經濟は、一家の經濟とは、理窟は一寸同じ事でありますが、一家の臺所一國の臺所に、借金がなくなつて、金を貸して居る云ふことになる、さうしてもそこに緩みが生じて来る、國民全體の精神が、著しく緩んで来た、利息だけでも一億圓拂はなければならぬ時代の、國民の精神は緊張して居るが、年々四億の金が儲かる、ドシ／＼海外へ貸付ける、日本の國は、金銀は山の如くある、二十二億の正貨が積んである、云ふ聲を聞く、國民全體の自省心云ふものに、自ら緩みが出る云ふのが、一つの原因であります。

次は富の集中分散、云ふことでありまして、是は前に申しました通り、戦争云ふ大變動があつた爲め、船成金云か何成金云か云ふ連中が、非常な勢ひで、あちらにもこちらにも出来る、獨り資本家が、非常に収入財産が殖むたのみならず、一般労働者の収入も、之に伴つて豊になる、之が第二の原因である。

### 奢侈の風が盛んになつた

第三の原因は、一般に奢侈の氣風——贅澤の氣風が旺盛になつたことであります。併し一寸申して置きたいのは、奢侈の弊風云ふことは、嚴密なる研究の結果でなければ、迂濶に言へないものでありまして、政府の方々が、大雜駁に申して居るが、是は餘程慎重に、申さなければならぬことで、そう軽く申すことは出来ないであります。是には私の持論もありますが、後日の問題に致します。兎に角全體に於て、一般に奢侈の風が、旺盛になつた云ふ事があります。

それから戦争中は、有らゆる物資が輸出された、戦争が起る、殆ど目ぼしい國が参加する、米國云ふ大きな國迄が、之に参加した爲に、世界の物資が缺乏して了つた、そこで印度、支那、東洋は言ふに及ばず南洋、南米、中米云ふやうに、何等戦争に關係ない國々が、綿花、綿布、襯衣、燻寸等を買ふ、何でも宜しいから送つて呉れと言つた有様で、

日本の物をドシ／＼買ふ、そこで需要供給の関係で、物が高くなる、日本國內に於ても、ドシ／＼海外へ輸出するので、それに對する補ひが出来ない、一時米、麥、豆、砂糖が足りないと言ふ時代があつたが、詰り日本國內の有らゆる物資が缺乏したのであります、之が第四の原因であります。

以上四つの原因が重なりあつて、一般人の氣が大きくなり、何でも買へ／＼で、自分が使はない物まで、全體の者が買はうと云ふ、氣配が盛んになりました、併しそれを充たして行く供給が、之に伴はなくなつた爲め、詰り需要供給の變調と云ふことになりまして、或物に於ては非常に騰貴し、或物は左迄騰貴しない、と云ふ工合に變態を呈して居ります併し通貨膨脹の爲め、全體に物價が騰貴して居る、と云ふのが現状であります。先づ斯う云ふやうな譯で、大體に於きまして、現今の物價が、これ程騰貴して居るか。騰貴は何に因つて來たしたものであるか。何故悪いか。と云ふことを順序として、延べましたが、此の次ぎは如何にして調節し得べきや、物價調節の方法以何。と云ふ問題に就いて、皆さん

の御清聴を、傾したいと思ひます。

## 物價調節の方法

一體物價が騰貴する、或ひは下落すると云ふことは、それ／＼騰貴若くは下落すべき、原因があるからこそ、起つて參る問題でありますからして、大體が騰貴すべき筈だから騰貴するのである。下落すべき筈だから、下落するのである。詰り騰貴なり下落なり、總てすべき筈と云ふことに依つて、起つて來る問題でありますから、是は大體自然の儘に、放任して置くべきものであります、強いて物價を上げやうと云ふか、或は下げやうと云ふか、孰れにしても、さう云ふ行爲作用を俄に加へることは不自然である。不自然だから不都合で、又不結果を來すことになります、物價は自然に騰つたり、下つたりする筈のものであるから、本當は自然の趨勢に、任して置くことが、一番好いのであります。併しその勢があま

り激しい弊害を生じて来るから、放任して置けない云ふので、強いて國家の力で以て之を引下げやう或は引上げやう、云ふことになる。

所で大體其の國家の力云ふものは、今よりヨリ以上に上らう、或はヨリ以下に下る云ふ勢を、阻止せしむる云ふには、有力であり又有効であつて、是は政府なり國家の力で、爲し得るのであります。が、今より上らう、或は下らうとするのを、止める云ふのではなくて、更にモウ一つ進んで強いて上げやうとするか、又一層下げやうとするか更に又下らう云ふのを、強いて反對に上げやうとすることは、國家政府の力でも、頗る至難の業であつて、先づ是はむづかしい、出來兼ねる云ふのが、本當なであります。でありますからして、此の物價調節云ふことは、決して容易なことではなくして、殆んど至難だと言つても宜いのであります。前回にも申した通り、今回の日本の物價暴騰云ふことは、非常に突飛な事である、従つて是には有らゆる弊害が伴つて、國家社會の根源に喰入るやうな結果が、現れて来るものですから、普通ならば抛つて置く、寧ろ抛つて置く

た方が好いのであるが、弊害があるので抛つて置けない、そこで仕方がないから、強いて物價を引下げやうとするのであります。そこで種々の學者や社會各方面で、物價調節の方法を、考へ出すのであります、不自然、不都合だが仕方がない、従つて此の爲めに弊害が起つてまゐりますが、併し其の弊害よりも、物價暴騰に依る弊害の方が、遙に大きい爲めに、之を犠牲に供してまでも、調節をせなければならぬ、云ふ破目になつて居るのであります。

### 調節は非常に困難

そこで先づ第一に、物價調節云ふことは、決して餘細工のやうに、容易く引伸ばしたり、縮めたりすることは出來ないもので、非常にむづかしいものである、同時に非常に弊害がある、悪い結果を及ぼすものであるが、より多い弊害を少くする爲めに、此の六ヶ敷い事を言して迄も、やらなければならぬ、云ふことを御承知置き願ひたいのであり

ます。此の土臺の事を御承知ないこと、是から御話することが解らない、無意味になつて了ふ、遂に物價調節萬能か、全能かかの如く考へるやうになつて、全く誤つて了ひます。

それならば、云ふ方法で、やつたら好いかと言へば、總て物價調節に限らず、物事がさうしたならば治るか、治療が出来るか、云ふ方法手段を考へるには、さうして是は起つたのであるか、云ふことから考へて行かなければならぬ、詰り之が根治療法であります。例へば病氣なこともさうであります、急性腸加多兒になつて、下痢をする、診察して調べて見るに、不消化物を多量に喰過ぎた爲めに起つた、斯う云ふ場合には、極く消化の良い物を、少量宛與へて行くに、病氣が病氣だから、直きに治つて來ます、是れと同じでさうしたならば、物價調節が出来るか云ふことは、結局さうして上つたか、云ふことを研究するに、それに處する方法が、解つて來るのであります。

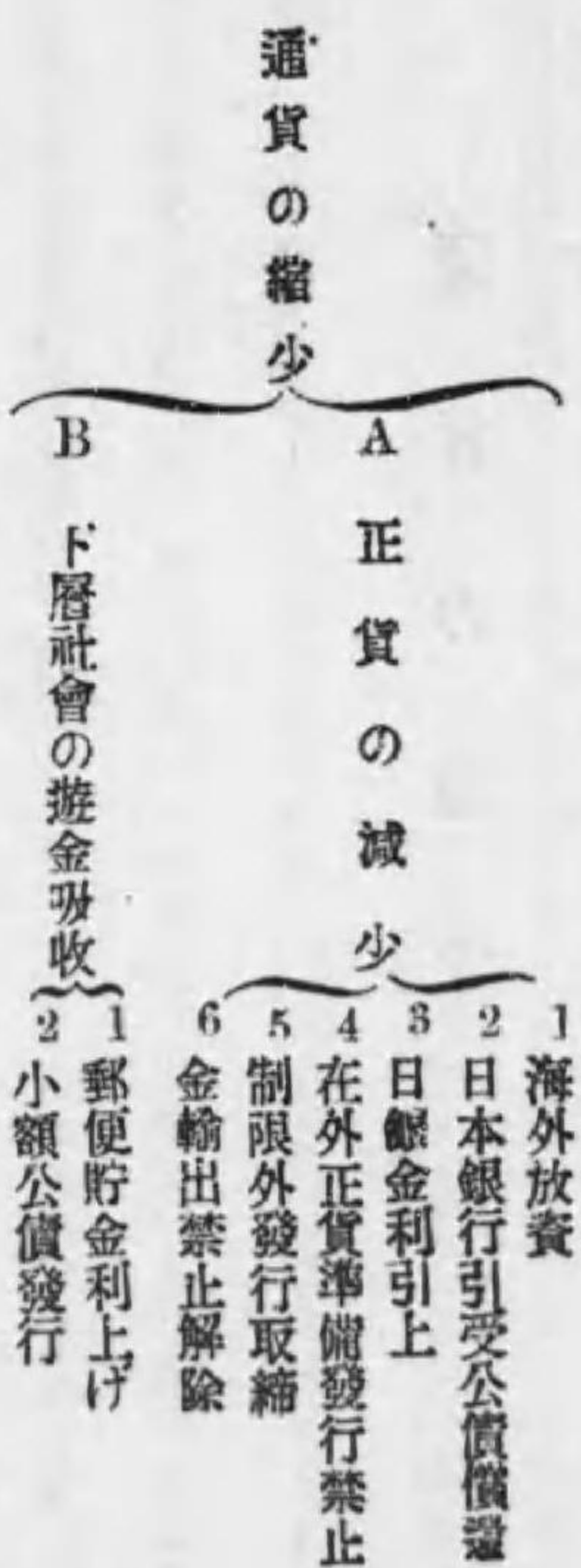
そこで何故物價が、騰貴したか云ふことは、前回到御話した通り、それには二つの原因因がある、詰り通貨の膨脹と、需要供給の變調の二つであります、一つでなく二つの原因

から、起つたことすれば、其の原因に遡つて、二つの方法で緩和する、現在の物價調節の方法は、二つあること云ふことになります。さう云ふ譯でありますから、私は物價調節の方法を致しまして、先づ第一に通貨の縮少。次には需要供給即ち需給の調節。云ふ二つの方法を考へまして、さうして其の二つの方法の中でも、又色々の手段方法のあることを、御話致したいのであります。蓋し今日の物價調節問題が起つて以來、朝野の學者なり、政治家なり、其の他の方々が、あゝしたら宜い、斯うしたら宜い、云ふやうに懐いて居る通貨の縮少方法なり、或は需給の調節方法なりの外に、尙ほ私自身が考へて居る方法を加へまして、是丈けの方法が、世上に唱へられて居る以外に、まだ斯う云ふ手段もあること云ふことを、大體御披露致したいのであります。

### 通貨の縮少

そこで第一、通貨の縮少云ふことですが、之を大別してA Bの二つに分けます。又其

のAには六つの方法、Bには二つの方法があります。



通貨縮少の第一は、正貨の減少、云云でございます。此の正貨減少云云を、説明するには、日本の紙幣發行制度。一名兌換制度云云を、御話して置かねばならぬ、御互が日常使用して居る紙幣云云ものは、實は是は日本銀行の、約束手形でありませぬ、何故か申しまするに、十圓紙幣でも、一圓五圓の紙幣でも、皆札の裏中に「此券引換へに金貨何圓相渡可申候日本銀行」を書いてあります、ですから之を持つて行けば、何時でも日本銀行では、金貨に換へて呉れる、斯う云ふ約束手形であります、詰らない紙で

も、斯う云ふやうに値があるから、命の奪ひ合ひ迄するのであります。詰り日本銀行が、紙幣を出して居るから、日本銀行は何時でも、之を引換に渡さなければならぬから、常に金貨を用意して置きます、渡す云つて渡さなければ、不渡手形になつて了ふ、そこで之を政府から申します、政府は日本銀行に命じて、斯う云ふ紙幣を發行せしめ、人民は又是は金貨に代るべきものである、云云云を信じて、通用して居るのでありますから、政府は常に引換へに、誤りの起らぬやうに、チャント取締つて置かなければならぬ、無暗に出されたならば、人民はわらい迷惑を蒙ります、そこで政府は豫め、兌換條例云ふ、法律を制定致しまして、それに依つてチャント日本銀行に於て、兌換券を發行する方法を取締つて居ります。

### 保證準備と正貨準備

云々云ふ工合に取締つて居るか、云云事を簡單に申し上げます、全體で一億二千萬

圓迄は、保證準備云ふことで、其の發行を許して居ります、保證準備は、さう云ふことが言ひます、詰り公債云か、確實なる商業手形である云か、市債、社債云ふやうな、有價證券を準備して、一億二千萬圓迄は、紙幣を發行することを許して居ります。云ふのは、それ等の物は何時でも、之を賣つて金に換へることが出来る、詰り引換準備金を調達することが出来るからです、それで若し一億二千萬圓以上の、兌換券を出す場合は、正貨準備云ふことで、取締つて居ります、是は名の如く、正貨を準備することであり、元來金云か金塊云か云ふやうなものは、總て正貨と申して居ります、さう云ふものを悉く、準備しなければいけません。例へば今日の日本の如くに、日本銀行は約十二億の紙幣を、發行して居ります。さうするに其の中の一億二千萬圓だけは、保證準備で宜いが、後の十億八千萬圓は、悉く金貨なり、金塊なりを積まなければ、紙幣を出せない、斯う云ふことにしてある、詰り正貨の準備がなければ、發行が出来ない、斯うして置きさへすれば、何時でも紙幣を金に換へ、又は金貨に換へることが出来ます。それで

すから紙幣は、内外に信用があつて、十圓のものは十圓に通用し、百圓と書いたものは、お互が百圓として使ふ、斯う云ふ工合に、正貨を準備させて、取締つて居ります。

所が平生はそれで宜いけれども、若しも一朝事の起つた場合、例へば戦争などは、無論の事ではありますが、戦争でなくとも、金融が非常に忙しくなる、逼迫する云ふことになつた場合、即ち六月の節季云か、十二月の節季云か、盆暮れ云ふ際になります、一般に勘定の決算をする必要がありますから、金が大變要る、それでない、取引の帳尻がチャンと付かない、さう云ふやうな、經濟界に金の入る場合、一時ではありますけれども、日本全體、各地で金が要ります。さう云ふ際に金がなくては困る、正月或は七月の初めになれば、金は要らなくなるが、それを越すまで一時、金が要る云ふ場合が起つた時です、其の時日本銀行は、モウ一億二千萬圓は、保證準備で發行して居る、又今日の如くに日本銀行が、有つて居る金貨金塊を、悉く準備に宛て、發行して居る、即ち十億八千萬圓を正貨準備で發行して居る、保證準備と合はせて、十二億を出して居るが、それでも



さう云ふ節季には、また金が足りない、外の銀行から日本銀行へ、モウ少し金を貸して呉れ、云ふ要求が集つて来る、斯う云ふ場合に、立至つたに致します。之を政府及び日本銀行から考へて見るに、是は一時の事である、今金を出してやらなければ、大變困るであらう、併し準備も何もない、斯う云ふ場合には、日本銀行は政府の許可—大藏省の許可を得まして、制限外発行云ふ、第三の方法を、採ることが出来ます。

### 制限外発行

制限外発行とは、何かを申しますと、一億二千萬圓迄は保證準備で、發行が出来ます。其の制限を越えて、詰り制限外に發行を、許されることでもあります。暫らく臨時に、兌換券を出すことを、許されるのであるから、通常之を制限外発行、と申して居ります。今月は一億なら一億だけ、五千萬圓なら五千萬圓だけ、餘計金が必要から、發行を許して貰ひたい、と豫め大藏省に頼む。そうすると大藏省は、經濟界の模様を見て、必要と見れば差

許す。併し其の時には、發行税云ふ、税金を徴られる。年五分以上の發行税云ふ税金を其の制限外發行高に應じて、大藏省へ納めなければならぬ、ここになつて居ります。

以上で日本に於ける、兌換券を發行する制度の、極く大體を御話しましたが、是は事實に、當拵めて見ますと、直ぐに解ります。大正十一年九月三十日現在の日本の兌換券發行の状態は、さうなつて居るかを申します。是は新聞等によく出て居るから、御覽になつて分りますが、兌換券發行總額は十二億四千萬圓で、制限外發行が一千萬圓許り、金貨及び金塊の正貨準備發行が十一億一千萬圓で、あは皆保證準備になつて居ります。要するに、事情は色々ありますが、大體今申し上げたやうな制度で、兌換券を發行致して居ります。

そこで正貨の縮少、減少の方法の説明に入りますが、先づ第一に、正貨が減少すれば、さうして通貨が減少するか、と言ひますと、詰り正貨があればあるだけ、正貨準備に供給して、日本銀行が兌換券を、出し得る云ふことになる。而も政府の許可を得なくて、

勝手に出し得る、そこで日本銀行としては、出し得るものならば、必らず出すことになる。何故か云ひますると、正貨といふものは、價値物には相違ないが、併し之を日本銀行に唯積んで置いては、一文の利益にもならない。だから之を動かして、利益を得やうとする。日本銀行は半官半民の、株式會社であります、株券を政府も持つて居るが、民間の者も澤山株券を持つて居る、株式會社でありますから、矢張り利益の配當をしなければならぬ。そこで何億云ふ正貨を、其の儘にして居ては、何の役にも立たない、之に依つて兌換券を出して其の兌換券に依つて利益を得ると云ふことになる。だから日本銀行に正貨が殖んで來ると云うしても通貨は、膨脹しなければならぬやうになつて來る、そこで通貨の縮少を、圖らうと云ふには、正貨の減少と云ふことを、やらなければならぬことになる。

### 正貨減少の方法……海外放資

それならば、正貨の減少を圖るには、さうしたならば宜いかと云ふも、色々な方法があ

りますが、先づ第一に海外放資、といふ方法を探ります。詰り支那とか、或は獨逸とか、其他の何處の國でも宜い、海外の諸國で、金を借りたい、金が不足して困る國へ、日本銀行をして、正貨を以て貸させる、放資せしむると云ふのであります。是は最も多く、是まで行はれた方法でありまして、今日日本が支那だとか、露西亞だとか、其の外佛蘭西等に對しまして、現に十三億以上の債權を、持つて居りますが、其の債權の重なるものは、矢張り此の正貨で以て貸付けて居る、詰り海外へ、放資して居るのであります。之が第一の方法でありますが、昨今の日本の、經濟狀態を致しましては、申すまでもなく、正貨が餘るからと云つて、海外へ貸付けること云ふことは、餘程困難であります。事實今日はそれだけの、餘裕がないのであります。却つて日本で借りたい位で、外國へ出す場合ではない、故に日本政府としては、今日海外へ貸すと云ふことは、至難なことで、一寸實行が出来ない問題であります。

## 第二は日銀の公債償還

そこで第二の方法は、日銀の公債償還、云ふことでもあります。是はさう云ふことか、申しまするに、日本政府の財政が困難になるに、色々の遣り繰りをしますが、併し國家も雖も個人と同じく、困つた時には借金するより外に途がない、そこで政府が證文を書く、あれが公債證書である、それを民間に賣出す、所が民間の者も、毎年々々出されるので、それを悉く引受けることが出来ない、引受られなくなるに結局は紙幣を出す所の、日本銀行が已むを得ず引受ける云ふことになる、それが積り積つて、今では中々大きな高になつて居る、日本銀行が公債を取つて置くに、利息が這入るのであります、日本銀行は公債を引受ける度ごに、皆ではないが、兌換券を發行する、それが爲めに、通貨の膨脹を來たし、又物價騰貴の原因となるのであります。それ故に日本銀行が、背負込んで居る公債を一億なら一億、二億なら二億を返して了ふ。日本銀行は、政府から紙幣を受取る、詰り發

行したものを、返して貰ふのだから通貨が減つて行く。是が一番、通貨を縮少せしむるのに、良い方法であります。

併し何分困つたことには、日本政府の臺所は、御互の國民の臺所と、同様に困つて居る困つたから借金したのだが、直ぐ返せ云つた所で、無暗に借金しなければならぬ程の臺所であつたのだから、中々急には返せない、云ふのが目下の日本政府の、財政状態であります。此の方法も良い方法であるが、政府の臺所が、斯くの如く困つて居る、それのみならず、政府は鐵道を敷く爲めに、鐵道公債を發行して、モツト借金したいと思つて居るが、其の募算が出来ない爲めに、弱つて居る、政府の方では、モツト借金したい、云ふのであるから、返す所の騒ぎではない、云ふことになる。そこで第二の方法も、實行難云ふことになります。

## 日本銀行の金利引上げ

第三の方法は、日本銀行の金利引上げ、云ふことでもあります。是は云ふ方法であるか云ふこと、今日日本銀行が、民間の銀行其の他に、金を貸す場合に、假りに七分の金利を取つて居ること、それを八分にする、或は九分にする、或は一割に引上げる、云ふやうに金利を引上げる事、金が欲しいけれども、高い利を取られるから、段々借入人が減る、或は是迄借りて居たものが、さう高利を取られては、困るから返さう、云ふことになります。日本銀行から借りて居る、一般市中の個人であることか、銀行會社云ふものが、段々返金して來ます。兌換券を持つて返して來る、之が日本唯一の通貨でありますから、之を發行元の日本銀行へ、返上して行く、さうすれば通貨は、若しも十二億あつたものならば、十億に減つて行く、斯う云ふ譯になります。所が此の方法は此の間から、随分議論になつて居りますが、今の日本としては、實行し難い。何故か云ふこと、政府は

財政の行詰りで、困つて居ります。又民間の方に於きましても、財界は非常に金融逼迫で、困つて居ります。そこへ持つて行つて金利を、モウ一つ日本銀行が、引上げやうにするならば、民間の者が非常に困る、經濟界に大動搖を來す、不景氣が一層甚だしくなる是では却つて、金利を引下げた方が、良い云ふことになる。外國のそれと比較して見ますと、日本銀行と同じ地位にあります、英國の英國銀行は三分、佛蘭西の中央銀行は五分、米國は四分、云ふ金利であります。そこへ持つて來て日本は七分以上、八分程になつて居る。一寸倍若くは倍以上である。斯様に高いものだから、日本は外國の經濟界とは、競争が出来ない。其の結果一般に、財界が振はなくなるのである。詰り下げなければならぬ、云ふ状態であるのに、之を上げる云ふことは、一寸困難である。故に此の方法も實行難い云ふことになります。

## 在外正貨準備發行禁止

第四は在外正貨準備發行禁止であります。元々日本の兌換券條例の精神は、正貨準備云ふものは、總て、日本の國內に在るものを指して居る、斯う云ふのが立法の精神であつたのであります。其の當時は、日本は外國から、金を借りて居る位であつたから、迎も貸すやうな餘裕はなく、従つてあり餘つた金を、海外に置く云ふやうなことは、想像も出来なかつたことで、ありますから、問題はなかつたのであります。が、歐洲戰爭の結果日本は大分金を儲けまして、約四十億程の、戦時利得があつた、そこで其の一部を、米國なり英國なりへ預けて置いたり、或は其の儘そつくり、保存して置く所の、正貨云ふものが出来て參つた。之が即ち在外正貨である。さう云ふ外國に在る所の正貨、即ち金貨及び金塊、云ふものを準備して、日本銀行が兌換券を、發行することになつた、是は不都合だ云ふので、随分喧しい議論が、其の當時からあつた、經濟學者等は四方八方

から之を攻撃した、何故か云ふに、紙幣には「此券引換に金貨何圓相渡可申候日本銀行」云約束して居る、何時紙幣を持つて行つても、正貨準備で發行して居るのだから渡さなければならぬ。然るに在外正貨は、正貨でも外國に在る、倫敦なり紐育なり二週間も一月も掛る所に在る。正貨に換へて下さい云つた所で、早速紐育から取寄せるから待つて呉れ、或は倫敦から着くまで御猶豫願ひたい、云ふことは、正貨準備の精神に悖る、是は兌換券條例の精神に反對する、云ふことで、喧しい攻撃があつた。が中々政府が、之を實行せずして、今日まで來て居るのであります。日本銀行だけでも海外のを合せて、約十二億の正貨を持つて居る、それに政府が六億、合せて十八億、云ふ正貨を持つて居ります。此の日本銀行が、持つて居る在外正貨を準備して發行するから、兌換券が増加する。そこで之を禁止する、さうするに若しも之が二億あれば二億だけ、兌換券が縮少して來る詰り在外正貨を準備する兌換券の發行を禁止する、云ふことになるに通貨が縮少する云ふ譯になる、だから通貨の縮少には、最も有力なる方法になります。

此の第四の方法が、先般實行されました、丁度八月十八日に、政府が物價調節策十九項を、發表致しました、其の中の一つとして此方法が含まれて居ります。所が之を今日やつた所で、甚だ効能が薄い、何故か申しますと、政府はモウ日本銀行を、打合はせて置いたか、騰し合せて居つたかして、日本銀行は、海外に持つて居つた正貨を段々日本に取寄せまして、元は澤山あつたものが、段々減つて來た。又在外正貨を、政府の方へ廻したり、預け返したりしたものだから、政府所有の在外正貨は、ドシ／＼殖ゆるが、同時に日本銀行所有のものは、非常に減りました、日本銀行所有の正貨も云ふものは、殆ど大部分、九分九厘迄は、政府の在外正貨となつて居る、日銀所有のものは、ホンの僅かである、だから今日に至つて、在外正貨準備發行を禁止する、云つた所で、モウ後の祭である、効能の薄い時分である、非常に歓迎すべきやうなことでありながら、其の實ちよつとも、歓迎すべきことでないことになつた。

### 制限外發行の取締り

次は第五の方法で、制限外發行の取締り、云ふことでもあります。先き程に申します通りに、日銀は一億二千萬圓までは、正貨準備でなくとも保證準備で、兌換券を發行することが出来る。其の上に税金さへ納めれば、制限外發行が出来るのである、故にいくら他の方法を以て、正貨の減少を圖つても、或は在外正貨準備發行を、斷然禁ずる云ふやうなお觸れを出しても、日本銀行が頻りに、制限外發行云ふことを、敢てするやうになれば、一寸も通貨は縮少しない云ふことになる、故にさうしても、制限外發行云ふものを、亂用をせないやうに、取締る云ふことが、今の日本にして非常に、必要なことである、是亦通貨を縮少せしむるに、有力なる方法なのであります。然らばさうしたならば、之を取締り得るかを考へて見るに、詰り制限外に發行する場合は、大藏大臣の許可を得なければならぬ。此の場合に大藏大臣が、弊害があるやうな時には、許さぬことにす

るに、取締が出来、所が中々公正、嚴正な、政黨政派等に左右されないやうな偉い方はない、安心の出来る大臣は、少ないものだから、是も困難云ふ譯です。

### 發行税の累進

第二の取締方法は、發行税の累進であります。先程も申しましたやうに、制限外に發行する時は、發行税を納めなければならない、其の發行税を累進せしめて行く、斯う云ふ方法であります。是はさう云ふことであるか、ご申しますこと、從來は日本の兌換券發行條例に依つて、發行税を年五分以上を納めて居つた、現在はさうであるかご申しますこと、大正八年迄は六分であつたのが、七分に上げられて、現在は年七分であります。そこで七分ならば、随分高い税金ではないか、ご御考へになるか知れませぬが、御承知の如く日銀も、全然營利會社とは申せませぬが、矢張り一種の株式配當をする、營利會社でありますから、そこで七分の發行税を納むれば、今度は一般に對する貸付は、それ以上になる、約

八分以上の利息を、取ることになつて居る、日本銀行が今日、市中の銀行なり其の他に、金を貸す場合に於て、一番安いものは、商業手形の割引であるが、是も矢張り八分以上になつて居る、差引き税金より一分、若くは一分以上利息を取る、さうして如何に良い紙だから云つても、小さく切つて印刷して、澤山拵へるのだから、一枚一錢か二錢位しかつかない、それが市中へ出れば、十圓なり二十圓に通用出来るのである、故にさう云ふものを、ドシ／＼拵へて、一分以上の利息が、得られるのであるから、税金位納めても宜い云ふので、さうも制限外發行を、亂用することになる、さうすること通貨が縮少しない、いくら取締りをした所で之れが抜けては駄目だ、そこで七分の税金を、累進せしめて行くことが、宜からうと思ふ。

例へば五千萬圓までは七分、それ以上發行する場合は八分にする、又八千萬圓以上發行する場合には、九分の税金を納めなければならないやうにする、要するに日本銀行が、幾分なりとも利益を、履まないやうにしないこと、此の抜道からして、通貨を縮少し得ること

ろか、却つて反對に、膨脹せしむる虞れがあります。現在の如く何千萬圓の、制限外發行をしても、何時迄も同じ金利の、年七分の釘付けでは、さうも安心が出来ない、それで日本銀行の金利を、略平均せしめて、さうして發行高が、多くなればなる程、税金を取る割合を、多くする云ふ制度に、變へまするに、通貨を縮少するには、甚だ大なる効能があると思ひます。

### 金の輸出禁止解除

次に第六の方法は、金の輸出禁止解除、云ふことでもあります。是は又中々喧しい問題に昨今なつて來て居るのであります。此の問題は非常に、複雑した問題であつて、簡単に申しますると、一體金の輸出禁止は、日本から金貨なり、金塊なり、所謂正貨を海外へ出す事を禁ずる、云ふことでもあります。是は大正八年以來の、問題になつて居る。歐洲大戰の結果、海外の諸國、殊に歐羅巴の諸國は、戰爭中は勿論の事、非常に金が要る、

正貨が要る、獨逸に正貨を取られては、困る云ふので、金の輸出を禁止することになつた、之がそれからそれへ、擴がりまして、米國に及び日本に及び、殆ど世界全體に及ぶ云つた譯で、主なる國は皆金の輸出を、禁止することになつた。所が戰爭が濟んでから後、米國だけが、金の輸出を解きまして、今日では世界の大きな國で、米國だけが自由になつて居ります。言ふまでもなく、金の輸出を解く云ふことが、正當なのである。もこゝ金が出たり、這入つたりすることは、他の生糸なり織紗なり、其の他の品物が、輸出されたり輸入されたりするに、同じやうに、自由にすべきもので、決して禁止すべきものではないのであるが、現在のやうな有様では、さうもまだ禁止して置く方が、宜いではないか、私は信じて居ります。此の問題に就ては、總ての經濟學者、政治家、實業家、殊に新聞は大阪朝日でも、毎日でも總ての新聞が、皆異口同音に、政府が金の輸出を禁止して居るのは、不都合だから解かねばならぬと、喧しく云つて居る問題であつて、政府に迫りまして、遂に之を解禁することになつた。九月十六日に政府が、解禁するを聲明致しま



した。私は此の聲明には、反對を致す者でありまして、暫らく禁止して置くことでは決して不當なることではないと思つて居ります。此の事に就ては、中々噴ましい議論をせなければ、ならないのであつて、此の問題だけでも、二時間や三時間では、逆も蓋すことは出来ませぬので、茲では極く簡単に述べて置きます。何故禁止して置く方が宜いか、こと云ふ事に就て、世間の人の氣が付かない點で、私の重きを置いて居ることを、一つ申上げたいと思ひます。

### 希臘の福の神様の話

一體此の問題の中心は、何處に在るかご申しますこと、大體二つあります。其の一つは一體金こと云ふが、金其の物は何も尊いものではない、金は矢張り生糸だとか、羽二重だとか、或は椅子だとか、机だとかと同様に、經濟學で云ふ富、財—財物である。所謂る買物の一つに過ぎない、まさか金貨なり金塊を食へる譯に行かない。金貨を着る譯にも行か

ない、いくら金貨があるからこと云つても、其の中に住むこといふ譯にはいかない、要するに金の尊いのは、そんな家でも欲しければ買へる事か、こといふ食物でも之れに依つて得らるゝ事か、又こんな着物でも金さへあれば、買ふことが出来ることいふ所で、尊い金の價值妙味があるのであらうこと考へます。詰り金其の物が尊いものではなくして、金で買へるもの—之れに代るものがあるから、尊い價值があるのであります。

是は希臘の話でありますが、昔何事か云ふ福の神様があつて、此の方は一つの杖を持つて居つた、それで此の杖を使へば 觸るゝもの悉く金になる、机も金になれば、椅子も金になる、忽ち金製のコップ、水差しが出来たりする、そこであれも金にして下さい、是もして下さい、こと出来る處で慾深連中が、願つて来るので、總てのものが悉く金になつて了つた。家もなる米も着物も金になる、それが爲め食ふこと着ることも、住むこと出来なくなつて了つたので、其處等の人民が金の爲に餓死して了つた、こと云ふ話があります。全く其の通りである、決して金が尊いものではない、金で買へるもの、求められるものが、

得らるゝから、金が尊いものになりますのであります。故に私は徒らに、金を貯へて置く、金を積んで置く云ふことは、最も愚なるもの、誤つた見解であると思ひます。

### 青砥藤網の經濟論

昔青砥藤網云ふ人がありました。是は我々子供の時代に、小學校の教科書で、習つたのでありますが、何でも今日の金にして、五十鎊位のを、河の中に落した、併し天下の財寶を、埋めて置くのはいけない、云ふので河中を捜させた、其の爲めに落したものより以上費用が掛つた、昨今では五十鎊落したものを、之を捜すのに、それ以上使つては詰らない云ふやうになつて來た。青砥藤網の話は、昔から賞められて、來たのでありますが、昨今では馬鹿のやうに、言はれて居ります。全く時代が變つて來たのであります。金を出しても宜いではないか、百圓の金を捨てゝも、百圓以上のものを、取れば宜いではないか、是が即ち學者、新聞社、其他世間で多く唱へて居ります、金輸出解禁の、根據

の一つであります。

モウ一つは、何であるか云ひ申しますと、輸出を禁止して居るから、日本の貿易が振はなくなる、だから之を解けば、一時は成る程、金が出て行くかも知れない、けれども段々日本の貿易が、盛んになつて來て、色々なものが盛んに、輸出されるやうになる、さうして其の代金として、金が這入つて來るから、一時は減るけれども、輸出貿易が旺盛になつて、早晚失つた正貨の取返しが出来、何も心配することはない、其の方が經濟の理にも會ひ、又常道である。是かモウ一つの根據で、以上二つの議論があります。

### 金はお寶中の寶である

それで私は此の二つの議論が、腑に落ちぬ議論である云ふことを、御話して置きたい詳しく申しますと、議論になりますから、極く通俗的に云ふと、成る程其の金こいふものは、金その物が尊いのでなくして、金で買へる品物が尊いのである、それで生活を支へ

て行く譯であるから、金も亦寶であるが、併し寶の一種であつて、決して寶の全部ではない、即ち米だとか、麥だとか、着物だとかと同じく、一種の財に過ぎない云ふが、私は金は成る程、財の一種であるが、財中の最も有力なる財、重寶なる財、最も値のあるものである、少くも現在の世の中では、最も有力なる寶である、寶中の寶である、云ふことを考へなければならぬと思ふ。斯ういふ考へを、當て放つて行かないで、飛んでもないことが起きる。

何故か申しますと、先き程も申した通り、米を持つて行つても、着物は賣はれないのである。いくら土地が坪千圓するとか、五千圓するとか、此の建物は何萬圓するとか威張つた所で、大きな地震でもあつて、バタ／＼と壊れてしまつたら、それきりの話である。又此の建物は二千圓、三千圓する云つた所で、私がそれを求めませぬ云つたら、それきりの話である。所か三千圓の金さへあれば、土地も得られる、米でも麥でも、こんなものでも得られる、天下一つとして得られざるものはない、云ふのが金であります。云つ

云つたつて金である云ふのが事實で、米ぢや買へない、麥ぢや得られない、田地田畑も交換して呉れない、英國でも佛國でも、世界何處の國へ行つても、通用出来るのは、此の金許りなのであります。云ふ建物の、いくら立派な着物でも、或は武器でも、金を持つて行くならば賣つて呉れる。彈藥も賣つて呉れる。

斯う云ふ譯で、其の他のことはいふまでもない、それで單純な經濟學上の、議論から言ひますと、普通貴女方が教へらるゝ通りに金も矢張り他の寶なり、他の財と同じ物であつて、其の間に何の懸隔もない、云ふことになりませんが、決してそうではないのであつて、私は今日の内外の、實狀から考へて、制度が變つたり、世の中が變つたりしない限り、金程有力な財はないと思ひます。故に之を握つて居る云ふことは、確に其の國の力であると思ひます。軍備が縮少されて、軍艦が半分になつても、兵隊が十師團、五師團になつても、假りに此の正貨といふものが、日本に充實して居つたならば、何時でも軍艦は拵へられ、又買ふことも出来る、御案内の通り日露戰爭當時に、智利國から日進、春日を

買ふた、あれも金があつたから、買ふことが出来たのである、大砲でも軍艦でも、買はふと思へば直ぐに買へる、故に石炭や食糧や、武器弾薬がなくても、軍備縮小しても、正貨さへ備へて置けば、結果は軍備を縮小しない、こいふこと、同じやうなことになる、全軍備同一ではありませぬが、それに近い効果を、現すものであります。金の代りに米をワント貯へて置く、或は阜子を山のやうに積んで置く、或はコツブを澤山仕入れて置いた所で財は財だが、何の役にも立たない、矢張り正貨云ふことになる。

そこで、人類とか、宇宙とかいふやうな、崇高な大きな考へから申しますると、成る程軍備制限とか擴張とかは、矢張り正しい精神なり、主張なりに依つて、出来るものだけけれども、世界の現状から考へて、決して安心の出来るものでない。世界の状態が變つて來れば従つて變つて來る、であるから現状では、矢張り最も有力なる財、即ち正貨を有つて居ることが非常に必要であります。それで外の國が皆、解禁致して居りますれば、日本も解禁して差支へないのであります。先き程も申します通り、米國以外の國が皆解禁して

固ないこいふ今日、日本が進んで解禁すべき時機ではなからうかと思ひます。

### 日本の貿易の振はぬ理由

それからモウ一つの議論は、解禁すれば貿易が盛んになつて、一時は減つても又入つて來るから宜いではないか云ふのでありますが、是も實は机上の空論を申しても宜しいのであります、一體日本の貿易の、振はない云ふことは、何故であるか云ふこと、結局日本の品物が高い云ふのが原因であります。又日本の製造工業力が、幼稚である云ふことも最大原因である。何しろ歐洲戦争の間は、歐羅巴なり米國云ふものは、皆戦争に熱中して貿易等は顧みて居られない、總ての國が皆、品物がなくて弱つて居る所へ、日本の品物を賣出したから、盛んに賣れた。忽ち市場の花形役者となり、歐羅巴、米國は言ふに及ばず、支那、南米、印度等に向つてドシ／＼賣れた、併し戦争が濟んでからは、歐米諸國は鋭意製造工業力の恢復に努めて、品質が良くて安いものが、ドシ／＼出來て來た。所が

相變らず、日本の品物は、製造工業力が幼稚で、値段が高い上に品物が悪いと云ふ所から賣れ行が思はしくない、其の結果貿易が不振になつて來たのであります。

### 生糸と羽二重と綿絲と綿布

但し日本固有の産業であります、生糸、羽二重、綿絲、綿布、若くは銅、石炭、燐寸等は、日本の貿易統計の上から、輸出品と申して居りますが、今日此の内から生糸、羽二重、綿絲、綿布の四つを取り除いたならば、あとの物は殆んど見る影もなく、十中の七割迄は、是等四つの品物で占めて居るのであります。米國には生糸が賣れ、支那には綿絲が今でも買れて居る、賣れるものは賣れて居るが、他のものは一向賣れて居らぬ、日本の物は高いだけならば、まだ我慢も出来るが、物が悪い、詰り俄か仕立の工業力で戦争中急に會社や工場を拵へて、やつた工業でありますが故に、迎も歐米先進諸國と、競争が出来ない。故に盛んに賣れる見込があり、又それだけ日本製造工業力があるならば、貿易が進

んで來るといふことも、言へるのでありませうが、現在の日本の貿易状態は、そうではないのであります。

一體金の輸出禁止は不都合だから、解禁して呉れと云ふ議論は、歐米諸國の間には、之が通じませう。製造工業力が旺盛であるから、さういふことを學者が主張することは、能く實地に合つて居るのであるが、日本の情勢から見ますと、第一に製造工業力が違ふ、歐羅巴の如くではない、だから歐米の間に通ずる議論も、日本には通じない、と云ふことになります。私は世上多くの學者等が、悉く歐米に於ける、學者、政治家、新聞記者の説く所を、其の儘そっくり日本の現狀に移して之を主張するといふことは、轉ては日本の國を誤る、一つの原因ではなからうかと思ひます。

### 郵便貯金の利上げ

次はBの方に移りまして、下層社會の遊金吸收、ミいふのでありますが、之を二つに分

物價問題に就いて

けまして、其の一つは郵便貯金の利上げ、他の一つは、小額公債の發行であります。前者は要するに、郵便局の利子が、假りに四分であるものを五分に上げれば、金を握つて居る者は、郵便局に預ける、こいふことになりますから、結局預つて居る、政府の手に這入ります。さうして政府は、日本銀行からの借金に、充て、行きますから、通貨の減少になります。所がさうも政府が、斯様なことを充分に、徹底的にやり得ない事情がありまして、例へば郵便局の利子を引上げるに、普通市中の銀行は困る、早速預金を取られて了ふからさうされては困るこいふ色々の牽制運動がありまして、政府は徹底的に此の方法を取る、ことは出来ない。唯郵便局の方には、据置き貯金こいふものがありまして、是れだけは先き程申しました、政府の物價調節策十九項の一つにして、やることになりました。併しさういふ小部分の、貯金利子の引上げでありますから、全體の物價の上には、甚だ効能が薄いのであります。

### 小額公債の發行

次に第二の方法に致しましては、小額公債發行、こいふことあります。是はさういふ事かこ申しまするに、詰り千圓こか二千圓こかいふやうな、大きな公債でなく、五圓こか十圓こか、二十圓こかいふやうな、小額なる公債を、發行するのであります。蓋しさうするこは、一般の事業界だこか、財界だこかいふ方面から、應募者を取るこが、目的でなく、又さういふ方面からは少ないが、所謂中産以下の人々、下級民、労働者階級の持金が、公債となり、其の連中が公債に應募して行きます。故にさういふ遊金が、政府の手に這入つて、通貨が減少されることになります。

それで貴女方も、充分御承知であります通り、今日は日本の經濟界が、非常に不景氣だこか、金がなくつて困るこか、金融逼迫であるこか申して居りますが、こいふ是は上流社會、中等社會の事であつて、下層社會の人々は、比較的戰爭中の儲金がある、或は今尙

は賃金が下らない爲め、生活が比較的豊かである、活動寫眞は何處に行つても、満員であるといふやうな譯で、さうもさういふ方面に、存外澤山の遊金が、所藏されて居る、そこで五圓とか十圓とか、小さな公債を發行するに、それ等の連中が應募して来て、政府の手に這入る、さうして通貨が減少する、といふことになります。

併し動もするに、下層社會の人々は、宵越しの金は使はない、其日に儲けたものは、其の日の中に使つて了ふといふ、悪い風習がある。戰爭中はそれでも宜しいが、いざ戰爭が濟んで、不景氣のドン底になるに、益々生活が困つて来る、といふ連中が澤山あります。故に此の際此の時貯蓄をし、財産の幾分かを公債として、貯金せしめて行くといふことがさういふ意味から申しましても、甚だ必要な事であるといふことになる。そこで私は此の場合、急なるもの致して、物價調節策の、一つの有力なる方法は、小額公債發行、といふことであらねばならぬ、思ふのであります。

### 富籤附きは差支へなからう

尙ほ之に富籤を附するといふことは、最も當を得たるものだと思ふ、所謂勸業債券の如く、富籤附の小額債券を、發行することが良いのであるが、恐らく政府は、是は投機心を助長せしめるから、さうも不都合であるといふことの爲め、躊躇するだらうと思ふ。併しながら私は、富籤といふことに就ては、さういふやうな方々も、聊か見解が違ふのであります。

一體投機といふものは、普通の人間が有する、共通の一つの性癖であります。殊に現在のやうな資本制度、或は私有財産制度といふやうな、社會制度に於きましては、投機心はさうしても、根絶するといふ譯には行かない。のみならず、既に政府にして、富籤附の勸業債券等を許し、又民間市町村等でも、盛んにやつて居ります。故に私はさう急に、改むべきことではないと思ふ。改むべきものであるにしても、國家として現在それ以上に、

社會政策上取締るべきことを、取締らないで許して居ることがある、でありますから、此の場合に當つて、急に禁止するといふやうなことは、私には甚だ解せないであります。それで富籤を營利的のものにせず、即ち百圓のものならば、二十圓を天引させず、百圓全部の富籤を作る、云ふやうに致しまして、小額公債を募集するといふことは、日本の現在物價調節策から申しましても、亦下層社會の貯蓄心を、旺盛ならしめ、財産を遺らしめ來るべき不景氣の時代に處すべき、途を講せしむることは、最も必要なことではないかと思つて居ります。

### 供給増加

偕て今度は、供給増加云ふことでもあります。大分長くなりましたから、先づ方法手段だけを、簡単に申しませう。此の供給増加云ふことは、要するに先き程も申しました通り、物價調節の第二の方法、需要供給を調節せしむるのであります。物が高い云ふことは、全體に通貨が膨脹したから、總ての物價が騰り上つた、併し其中でも非常に高い物と、

さまざま騰貴して居ないものがある。田舎では非常に安い大根も、大阪では高いといふことは、所謂需給の調節を、缺いて居るからであります。要するに需要に供給が伴はない、及ばないといふ譯です。供給をウシこ殖して行く、需要に應じて之を充たして行くといふのが必要です。詰り米なり大根なりの供給増加の方法を講ずる、さうするには品物の價を、箇々別々に一つ一つのものに就て、物價を調節する方法であらねばならぬのであります。





## 生産奨励と輸入促進

而して其の方法を致しましては、第一に生産を奨励することは、無論であります。詰り紡績が高ければ紡績を多く紡ぐ、斯ういふ事でありますが、是は中々容易な事ではない、又急に行はれる事でもない、製造奨励といふことは、必要な事でありますが、今俄かに行へないといふ缺點があるのであります。

第二は輸入促進といふ事でありまして、外國から這入る品物を、多くして行くといふ事でありまして、今直ぐに日本で、米が多く作れないとか、魚が多く取れないといふ時に、支那から米を輸入する。或は朝鮮沿岸から魚を取つて来る、米國から罐詰を、輸入すれば宜いといふことになる。之を大體二つに致しまして、一つは原料機械の輸入を奨励する、第二は生活必需品の、輸入を奨励する、といふ事でありまして、

それで第一の方法は、原料機械を輸入して、生産費の軽減を図る。第二の方法は、生活

必需品の、輸入を奨励して、生活費の軽減を図る。といふことで、結局物價調節を図る、といふことなんであります。要するに此の二つの目的を達せしむるには、輸入關稅を軽減する、若くは全然廢止する外ないのでありまして、是は言ふまでもなく、有力なる方法でありますから、出来るだけ奨励しなければ、ならないのであります。然るに我が政府は、國內に於ける産業者の、反對攻撃を恐れまして、之を斷行し得ないことは、洵に遺憾な事でありまして。

## 配給制度の改良

次ぎは第三の配給制度の改良であります。此方法を四つに分けて、一公設市場増設  
2 中央市場設置 3 消費組合生産組合の奨励 4 運賃軽減といふことでありまして、第一、第二の方法は、是は貴女方が、充分御承知の事でありまして、私の説明を要しませぬ、併しなから、斯様な市場制度は、私はたゞひ増設しても、新設しても、日本では甚だ結果が充分で

ない。従つて市場も振はない。故に調節の効能が薄い、こいふことになります。

第三は便宜上、一緒に纏めて御話申します。是は貴女方も御承知でありませうが、田舎で大根を作る、或は雨傘を造る、其の大根なり、雨傘を纏めて、東京なり大阪なり、中央へ持出す云ふ、組合を造るのであります。詰り田舎の隅の人が生産した物を持ち合つて中央へ出す。それを東京大阪云ふやうな、中央の消費者が、相集つて組合を造り、之を分つ云ふのであります。さうするに大根なり雨傘が、安く貴女方の手に遣入る。所がこつとも日本の、消費組合云ふものは、充分なる効果が現れないので、此の事は後程外の問題を纏めて御話致します。

第四の運賃軽減は、總て鐵道運賃とか、汽船の運賃とかいふものを、安く致しますれば、品物が安くなります。又品物がドシ／＼他處へ、移つて行きます。要するに汽車汽船の運賃を、安くする云ふ事でありませう。是は無論、遣らざるに勝ることでありますが、併し物價調節云ふ上から云へば、洵に小さな効果しか、ないのであります。

### 市價公定と暴利取締と公正價格公示

次ぎは市價制限、云ふことでもあります、是は前に述べた、生産獎勵とか、輸入促進とか、配給制度改良、とかいふもの違つて、單刀直入に、物價其のものを制限して行く、云ふ方法であります。是は色々西洋でも日本でも、考へられて居るのでありますが、其の中の第一は、市價の公定です。詰り賣る値段を、政府なり市町村なりで決める。例へばコップ一打は、一圓以上の値段を、付けてはならぬぞ、或は斯う云ふ反物は、尺二圓以上はこつとも高過ぎるから、それ以上の賣値を付けてはいけない、斯う云ふやうなことで、詰り市價を直接に、公の手で定める云ふことでもあります。

第二は暴利取締云ふことでもあります、是れは無論新聞等で、御承知でありませうが餘り暴利を貪れば、取つた商人を、罰金に處するとか、體刑に處する、とか云ふやうに刑事上の制裁を以て、無茶苦茶に利益を取らせない、やうにする云ふことでもあります。

第三の方法は、公正價格公示云ふ事、是は第一の方法よりも手荒い方法なんで、例へば大阪ならば大阪で、大根の値段、或は米の値段、或は洋服の値段云ふものを、大阪の市役所か、大阪府の手で以て、若くは商業會議所か云ふ、公の手で調べまして、先づ斯う云ふ洋服は、一着五十圓が、正當の値段であるか、或は米は今日の相場では、三十圓が公正の値段である、云ふ工合に、詰り調べた結果を、公の機關か、新聞其他の方法を以て、公示します。若し五十圓の物を、六十圓も七十圓にも、賣つて居る商店があればそれは暴利を貪つて居るのであるから、さう云ふ所で、買ふのは止めやう。何處其處へ行けば、五十圓で買へる、云ふやうにして、自然に公正なる價格を、公の機關が調べて、それを市民に注意して、暴利を貪るものを、壓迫して行かう、云ふのであります。

### 暴利のある所暴損がある

以上三つの方法は、直接な方法でありますから、それだけ効果が、多いのでありますが

併しこれを行ふことは、困難でありまして、なか／＼行ひ難い。これを遣らうとしても、容易ではないと思ひます。何故か云ひますと、一體物の値段を、一概に斷ずることは出來ない、一々調べて見るに、それは無理はない、云ふことを發見する、場合が多いのであります。何故か申し上げますと、詰りそつといふ品物は、御案内の通り、悉くが賣れるものではない。店に曝されて居るものも少なくない、一つでも賣れ残りがあるに、喰ひ込んで來ます。また賣れた品物が、悉く現金に代るか云ふこそでない。帳付けのものが、澤山ある、從つて掛け倒れ云ふやうなことがある。大抵書付け制度であるから多くの商人は、銀行から一割二割の利息を拂つて、商賣をして居る、だから利息も、賤まなければならぬ、斯う云ふ譯ですから、個々の品物は、例へば五十圓の洋服を一着、七十圓にも賣らなければならない、云ふやうになります。それには賣れなかつた物の、値段も這入つて居る。又賣れても金を返して呉れない、掛け倒れの金も這入つて居る。又いま云ふやうに、銀行其他に對する、金利が這入つて居る譯で結局、總ての品物には、普通の生産

費、普通の利益以外にそう云つた意味の、有ゆるものが、這入つて居るのであります。平均額云ふものが、非常に高くなつて居る、だから一つの店、一つの品物を以て、此の洋服は七十圓だから暴利だ、と言ひますけれども、一概にさうは言へないのであります。即ち暴利のある所、暴損がある云ふ譯です。恰度圓いものには、圓い影がある、平たいものには、平たい影がさすと同じく、暴利のある所即ち暴損である、決して底のみを見て、此の物は非常に面積が廣い、或は長過ぎるこいふことは申されない、故に國家政府も、市町村も其の他の公の機關が、如何程綿密公平なる、調査を致しましても、決して公平なる價格云ふものを、制定することは出来ない、私は信じて疑はないのであります。若し強ひて之を遣つたならば、必ずや弊害の恐るべきものがある、と思ふのであります。

### 官業製品の定價引下げ

次ぎは第四の方法であります、是は官業製品の定價を引下げる、云ふ事でありませう

諸り政府の拵へて居る品物の價を、政府が先づ引下げる、先般煙草の値下げを遣りました、僅に賣れない煙草云ふ狭い範圍に於てやつたのでありまして、甚だ効能が薄かつたのであります。若し凡ての煙草も、鹽も、或は其他政府の拵つて居ります、郵便なり、電信なり、有らゆる所の官業に就いて、定價を引下げる云ふことになれば、要するにそれだけ現實に、物價を調節することになるのであります。

### 同業組合の價格協定取締

次ぎは同業組合の價格協定取締、云ふ事でありませう。是は御案内の方もありませうが例へば煙草屋は煙草屋だけ、或ひは酒屋は酒屋だけ、云ふやうに、同じ業をして居るものが、組合を造りまして、さうして御互ひに協同一致の、精神を高めて行かう。斯う云ふ事を、獎勵したものであります。所が其の結果同業組合が、往々横暴を振舞ふやうなことがある。組合員が造つた製品を、一定の値段で賣る、御互ひに定め約束して、それ以下

では賣らないやうにする。例へば散髪料が、一回三十錢であつたものを、今度は五十錢取らうではないか、ミ云ふミを協定してやることになる。斯う云ふやうに、價格が段々上つて来た、そこで此の協定價格を、取締らなければならない、ミ云ふミになるのであります。

### 生産制限の取締

次ぎには生産制限の取締り、ミ云ふ事をやませぬミ、國家として、甚だ片手落ちになるミ、思ふのであります。何故ならば、只今申すやうに、散髪屋ミか洋服屋ミか、さう云ふ連中が同業組合を造つて、價格を協定するだけならば宜いが、それよりモツト大きな連中がある。ヤレ紡績會社だミか、或は砂糖會社であるミか、又は燐寸會社であるミか、石油會社であるミか云ふやうな、大きな資本家連が同業組合を造る。そして石油を一罐二十圓以下では賣らないミか、紡績は一捆二百五十圓以下では賣らない、ミ云ふ様に協議提携

して、値を引上げて行くミかあります。是は甚だ不都合であるから之れを取締るミ共に生産制限ミ云ふ事を取締つて行かなければなりません。出来るものを少ししか拵へない、例へば砂糖の生産を少なくして、其の價を高くするミ云ふやうな、所謂る香舟の魚ミも、言ふべきものをも取締らなければ、國家として甚だ不公平であるミ思ふのであります。

### 投機の抑制と消費制限

次ぎは投機の抑制、ミ云ふ事であります。茲で投機ミ申しまするのは、堂島ミか北濱に在る取引所に於いて、餘り亂暴な取引を致す、所謂る買占めミか、賣崩すミか、色々激しいミを致しますミ、全體の物價に非常に激變を起させる、さう云ふ方面に對する取締を嚴重にする、取引所に對する、取締りを嚴重にする、ミ云ふミであります、又取引所の仲買ミか、さう云ふ連中の代表者に對して、大袈裟な投機、取引をしないやうに注意する、同時に銀行業に對しても、左様な方面に、所謂る投機資金ミ云ふもの、貸出し

を制限して行く云ふ事が、矢張り一つの物價騰貴を防ぐ、方法なんでありませう。

次ぎは消費制限云ふ事です。所謂る濫費を制限する、云ふ事ではありますが、是は言ふまでもなく、物價調節の有力なる方法なることは、申す迄もないことであつて、先づ其中の第一は、節約宣傳云ふことで、昨今大阪等で盛んにやつて居るものであります。

第二は小額紙幣の整理云ふことで、是は貴女方が最も能く御存知の事であります。詰り十銭云か二十銭云か、五十銭云か云ふ紙幣は、一時銀貨が非常に足りなくなつて、之を補充するこゝが出来なかつた爲めに、古い昔の紙幣の型を用ひまして、斯様な紙を使つて、印刷に附し着色したものであります。之を約二億程發行致しました。是はこゝも印刷も安つばいし、紙も悪い爲に同じ十銭の銀貨と較べて、値が低い様な氣がする。迎も比較にならない程、貧弱であるから持つて居る方も、早く出してしまひたい、財布も汚れて汚らしいから早く使ひたくなる、云ふ虞がある爲め、濫費を奨励する云ふことになる、故に之を流通市場から引上げて整理する（今日では既に段々整理されて少くなつて居るが）

必要がある云ふ事であります。

### 西洋では物價調節が遣り易い

全體政府がやる若くはやらうと申しまする、物價調節の方法は、こゝも効果がないことはないが、薄いもの許りで、やらないには勝るが、餘り遣り榮わがない、遣り榮わが最もありそうだと思つた、在外正貨準備發行禁止も、發表して見るに、日本銀行は何時の間にか、スツカリ用意して居るので、是も駄目である。ですから政府がやらうと云ふものは、効果が薄いもの許りでありますから、絶對的に物價を調節することは、甚だ効果が薄いのであります。私はそれ以外に先き程申しました、富織附の小額公債發行を始めまして、夫れ／＼申述べました方法を用ひますれば、或る程度迄、日本の物價を調節し得るこゝが出来ると、信ずるのであります。

併し先き程も申しました通り、一體物價調節の問題は、困難な事であり、無理な事なん

であります。だから強いて行へなかつた、併し行はなければならぬ、云ふことになりま  
する。同時に、非常な弊害を伴つて来るか、若くはやるのに、多大の年月を要するが、  
又は甚だ實行が困難だ云ふものもある。實行致しましても、其の効果が僅少薄弱である  
と云ふものが多い、云ふ事を述べざるを得ないのであります。

西洋では、物價調節は遣り易いし、又之を行つて相當の、効果があります。日本で  
は、先き程も申します通り、公設市場の増設とか、中央市場の設置とか、消費組合の奨  
勵とか、斯う云ふやうな力がこゝも弱い。効果が薄いのであります。此の點は特に貴女方  
御婦人の方に、御考へを願つて置かなければならない、云ふのは、日本には特有の原因  
があるのであります。

### 趣味生活が豊富すぎる

何故か申しますると、一體日本人の生活云ふものは、非常に西洋のそれと、違つて

居るのであります。先づ第一に異なる所は、日本人は御案内の通り、趣味生活が甚だ豊富  
であります。有らゆる階級の生活に、各方面の趣味、思想が、甚だ強いのであります。  
言ひ換へますると、こゝもヒネクレタ考へが、強いのであります。例へて申せば、あの方  
か斯う云ふ物を着て居つたから、モウあれと同じものを着るのは、嫌だ云ふやうに、虚  
榮心云ふか何か知らぬが、こゝも女の方のみならず、男の方までがヒネクレタ考へを持  
つて居ります。他處では斯う云ふ事をやつて居るから、自分はそれと違つた風のものにし  
たい、云ふやうに、西洋人と違つた趣味が強いのであります。殊に著るしい例は洋服で  
是れは日本の着物と御考へになつても宜い、型に於いても、西洋は背廣服を着て居る、勞  
働者も同じ事である、又英國等に参加しても、紺のサージは、大金持でも、社員日給  
取りでも労働者でも、皆着て居りますが、日本の浴衣はさうでせう、千差萬別であり、今  
年は斯う云ふものが、流行したから、來年は斯う變るだらうと、呉服屋が付け込んで來る  
云ふことになる。又日本は美術國でありますから、一寸裏長屋の貧民窟に行きまして

も、朝顔の鉢が置いてあります。是は非常に面白い、私等も感服する、成る程此處に、日本人の價値があると思はれる。床しいものであるが、併し是を一面から考へるに、中々ヒネクレタものだ云ふはなければならぬ。

### 機械力の應用が出来ない

日常の生活品が總てさうである。さうしても箇々別々の物を要求する、下駄にしても同じ下駄では面白くない、少し形の變つたものを要求する、そこで圓味のあるものや、四角張つた下駄が出来る云ふ譯で、同じ物を機械で製造することが出来ない、一つ／＼別々に造らなければならぬ云ふ風になります。下駄に限らず、總ての日用品が、機械で製造することが出来ない、云ふのが多いのであります。云ふ申しますのは、例へば洋傘に對する雨傘、靴に對する下駄、酒に對する麥酒、罎子に對する罎子云ふやうに、日本の物は一つとして、機械に依つて造り出す云ふものはありませぬ、そこへ行くに、外國は

非常に進歩發達して居りまして、總ての日用品は、悉く機械を應用致しまして、造つて居ります。洋服は無論の事、靴でも洋傘でも、牛肉の罐詰でも、何でも悉く、機械を應用致しまして、人力を省き、大量生産云ふことをして、盛んに物を機械力で造つて居ります。唯今申しましたやうに、下駄、雨傘、障子、味噌、醬油、酒云ふものが總て、人力でやつて居る、西洋人は之を用ゐないから、之を造る機械を發明して呉れない、日本人は西洋人の物を眞似することは旨いが、それ以外に應用することを知らない、其の結果さうしても、日本固有の物は、日用品は一つとして、機械力を應用する、現代文明の餘澤を蒙ることが、出来ないものですから、さうしても物が高くなる、云ふ譯であります。

假りに日本人の趣味性が、斯うまで極端でなく、同じ物を着る、同じ雨傘、同じ戸、障子を用ひるにすれば、或る程度迄は、日本固有の製造工業、加工工業で案出し得たか知れませぬが、先き程も申します通りに、人々がそれを嫌がる、格子柄はおさんおさん、着るやうになつたから、モウ詰らぬから着ない、總てが斯ふ云ふ調子である、だからさう



しても、機械で造るこゝが出来ない。大量生産が出来ない、大きな仕掛で一週に、ドツサリ同じやうな物を、拵へて行くこゝが出来ない、又拵へても賣れないから、結局損をするだから箇々別々に造るから、物が高くなる、こゝ云ふ譯であります。斯う云ふ事は、善い意味もあるが、又悪い意味もあります。併しなから、物價調節の問題から申しますと、是は考へなければならぬ、一つの大切な問題であります、是が第一の原因であります。

### 籠城主義が崇る

第二の原因は、衣服住宅が非常に都合が悪い、不出來であるこゝ云ふ事であります。申すまでもなく、日本服はこゝうしても、坐つて居る方が宜い、外へ行くには不便である。殊に御婦人方は外出する話が決つてから、一時間も二時間も掛る。所が西洋人は、服其の物が輕便に出來て居るから、直ぐに外出が出来る、又靴を履いて居るから、日本で云ふこゝ始終下駄を履いて居るやうなものである。そこへ持つて來て日本の家は開放的である、西洋の

如く密閉式ではない、西洋では鍵一つ掛ければ安心が出来る。所が日本は開け放しであるから櫛の木位の棒を掛けて置いた所で、何時泥棒に遣入られるか分らない、だから外出が出来ない、婦人方が家庭に閉ぢ籠つて居つて、外出がしにくい籠城式になつて居ります。又斯の如き衣服なり、家屋なり斯う云ふ生活状態が、要求する結果を致しまして、出入商人――八百屋、魚屋の戸別訪問が行はれる。詰り外へ出難い、外出が臆劫であるから、八百屋、魚屋、米屋の方から出張して來る、戸別訪問して來る、こゝいふこゝになるのであります。それで一々現金で拂ふのは、面倒だこゝ云ふので、帳付けにする、従つて掛倒れこゝ云ふものも出來て來る、品物も高い、斯う云ふやうな有様ですから、日本の生活はこゝうしても高く付く、安くならないやうな工合になつて居ります。

其の上に西洋人ならば、消費組合とか、公設市場とか、中央市場とか云ふものを、設けましたならば直ぐに利用致しますが、日本人は何にせよ、出ぬこゝ云ふこゝ即ち蠶居主義が條文になつて居りますから、斯う云ふ市場を設けましても、種々便利なものができません

も、之を利用する云ふことをしない、甚だ少ない、でありますから、日本に於きまして物價騰貴を調節する云ふことは非常に困難でもあり、又効果が少ない、云ふ事になるのであります。

### 消費組合も利用出来ぬ

例へば消費組合、云ふものが出来て、之を利用しやうと思ひましても、日本の組合は中々配達して呉れない、組合員の役員が威張つて居る。さう云ふやうな有様ですから、それよりも八百屋へ頼んだ方が早い、云ふことになりますから、なか／＼配達しないのであります、そのみならず西洋人は、前に申した如く區別性を有たない、だから何の品物でも、數種を用意して置きますれば、用を辨ずることが出来るのであります。日本人の如く區別性、趣味性を有つて居る者に對しては、例へば紙に致しましても、有らゆる種類の紙を、用意して置かなければなりません、醤油の如きでも、有らゆる種類の物を、用

意して置かなければ、氣に入らない云ふ譯ですから、組合でも中々骨が折れる、云ふことになるのであります。だから折角遣りかけても、日本人の生活状態にピッタリ合はない、満足が出来ない云ふので中々發達致しませぬ。是は餘程考へなければならぬことであると思ひます、其の外有らゆる生活上の事を考へましてもさうであります、住宅にしても、衣服の問題にしても、萬事が皆然りであります。

### 恐ろしくダダツ広い都會

日本の家屋は、御承知の如く、總て一軒々々であります。此の節はデパートメントストアに申しまして、随分大きな建物が出来ました。六階も七階もある、大きな建物が出来て居りまするけれども、全體から云へば、まだ九牛の一毛であります。眼かな心齋橋通りへ行きましても、皆一軒々々に建つて居ります、まして普通の住宅は、悉く一軒々々である之が取りも直さず、市街の延長云ふ事になるのであります。道路の延長であります。

例へば單に東京市に申しましても、事實上の東京市は、非常に廣いものであります。東京市の市街を延長致しますと、數十回東海道の往復が出来ます。逆も百萬或は二百萬位の人口を持つて居る所で、あんなに廣い——町數の多い所は、世界中何處にも無い、非常に大きなものであります。でありますから、何か敷設するに致しましても、非常に費用も掛り、大變な手数を要します。

例へば水道或は瓦斯等の鐵管、又は電信電話線を敷設する、或は雷車の線を敷く云ふ場合、或は此の節の如く、市區改正等で修築を致す場合には、費用が莫大なものです。それを國民が負擔せねばならない、鐵管敷設の費用、電線の費用、電車線路敷設の費用、道路修築の費用云ふものを日本では、向側の家ご自分の家ごの、二軒で負擔しなければなりません、所が西洋ならば、一軒の家にしましても、上の方に二階、三階、四階或は高いのになりますと、何十階もあつて、皆別の一家が住んで居ります、語り日本の一軒の土地の上に、數十軒數百軒もありまして、日本では二軒で、分擔しなければならぬものを、

數十軒若くは數百軒で、負擔する云ふことになりました、實に負擔が軽い、日本には非常な差違があるのであります。此の一事でも、外國と較べて、日本の生活は、非常な壓迫を、蒙つて居る譯であります。

### 個人々々に考へなければならぬ問題

之が善い事であるか、悪い事であるか云ふことは、要するに日本と西洋とは、總てに於て違つて居ります。其の違つて居るだけ、善い所もあれば、悪い所もあります。さう云ふやうな譯でありますから、先き程も申しました如く日本に於て、公設市場を或は中央市場を設けましても、市街の延長云ふ事が、可なり邪魔をして、逆も品物が賣れませぬ。倫敦とか巴里には、十箇所あれば立派に足りるものも、日本では同じ物を、百箇所も二百箇所も、拵へて行かなければならない。是では費用も大變で、非常に不經濟なる。消費組合を設けましても、西洋では僅かの時間内に、何白人も何千人も、集ることは譯ないが、



きべ得心の人婦

識智の築建

二 厚 井 藤

迎も日本では、千人も二千人も築り得ることは難い、集るには餘りに土地が廣いのであります。

それでありますから、西洋では割合に、物價を調節し易いのでありますが、日本では一層、仕難いこと云ふことになりますから、唯さへ困難な物價調節問題は、更に一層の困難を加へること云ふことになります。

故に此の問題は、單に政府國家であることか、さう云ふ公共的のものに、一任しただけは、甚だ効が薄いと思ふ。日本人の生活を安泰にする、或は物價を調節すること云ふことは個々の人々が、深く自ら省みて、さうして協力一致して、其の目的を達成することに、努力して行かなければ、其の効果を擧げることには、難い事であること云ふことを、切に御考へ願ひたいと思ふのであります。(完) (大正十一年九月講演大正十二年四月校閱)

はからずも、皆さんの前で、建築の御話をする様になりました。實は此の會で何か建築に關する話を、して呉れよ云ふ御依頼を受けましたが、私の様なまだ研究中の者が、御話するも如何が思ひましたが、然しよく考へて見ますと、我が國の婦人の常識は、外國の婦人のそれに比較して、或る方面では中々優れて居る點も御座いまいしょうが、此の建築上の事に關しては、非常に其の智識が缺乏して居て、御話にならぬ程だと思ひます。近來文化生活さか、或は住宅改善さか云ふ様な、色々の問題が盛んに起りまして、建築に對しても、一般から非常な注意を、拂はるゝ様になりました、然し其の方面の研究をして居らるる婦人の方々でも、尙ほ建築に對する知識は、極めて貧弱であることを、吾々が度々出會つて、驚く様な譯ですから、建築に關する事を話す機會を與へて戴いた時には、私の様な者でも、御話した方がよと思ひましたし、又朝日新聞社の斯うした會合で、建築に關する事を話したと云ふ事になれば、其の話の内容がこうであらうとも、一般の婦人の方々に對して、建築の智識を養ふと云ふ點に於て、注意を喚起する基となりはせぬかと思ひまし

て、私は此の演壇に立つた次第で御座います。

### 建築學上日本は最も厄介な土地

我が國は氣候風土が、非常に溫和である云ふことは、色々の詞で形容されて、詩歌にも見る處ですが、一年に四季の期節がありますので、衣服には種々のものを必要とします季節に應じて、帷子、單衣、袷、綿入、其の外セルミカネルミカ云つた様な、種々の物が必要です。家も同じ事をして、夏に對する準備もしなければならぬし、又冬に對する準備も必要です、其の上夏には非常に濕氣が多いので、之にも注意しなければならぬし、又地震の多い國であるから、之にも備へなければならぬ、云ふ風に、建築學上には非常に厄介な土地です。此の事に就いては、次第に後に申しますが、そんな譯で建築學は、我が國が最も發達進歩せなければならぬと思ひますが、今日の狀態は混沌として居て、我國の狀態に完全に適合した住宅も、出來て居ない云ふ有様です。是は吾々建築家が不

熱心で、努力の足りない云ふ事に因るのでありませうが、皆さんも充分に建築上の智識を養つて、吾々を鞭撻して戴き度いと思ひます。

### 一般の人から能く質問を受ける點

それで斯う云ふ意味で御話するのですから、御話し致し度い事は色々ありますが、一般の方々から能く質問を受けます點に就いて、御話し致し度いと思ひます。それは先づ第一に、例へば自分は家を建てたいが、一體そんな風の構造が最も適當であるか、或はあの建物は何で造つてあるか、この朝日新聞社はさう云ふ構造で出來て居るか、な云ふ質問を能く受けますから、此の構造云ふ事に就いて御話しして、其の次に、これも能く質問を受けます、住宅の間取り設備等に關する事を、御話し度いと思ひます、併し住宅の事は御話しれば長くなりますから、住宅に對する私の考へを、大體御參考に御話ししてから、次に皆さんに最も關係の深い、喜所に就いて御話しして、此の講演を終る積りで御座います。

## 構造に就いて

先づ初めに構造の事に就いて御話致します。構造上から建物を區別すれば、次の三通りになります。それは(一)組積式 (二)架構式 (三)一體式 として、組積式云ひます。材料を積んで重ねて造り上げるものでして、煉瓦造や石造は之に屬するものです。次の架構式云ひます。材料を組み立て、造るものでして、木造や鐵骨造は之に屬するものです。最後の一體式云ひます。板等で假りに、造り上げる形の外側に、枠を造つて置いて、其の中に材料を注ぎ込んで、鑄物の様に一體としたもので、鐵筋混凝土造がそれです。ですから建物を作る材料の上から、區別致します。煉瓦造、石造、木造、鐵骨造、鐵筋混凝土造、の五つに大別することが出来ます。これ等のものがこんな風のものであるかを、大體説明致します。

## 煉瓦造り

煉瓦造云へば、煉瓦を以て壁等を築いて、大體を造り上げたものでして、其の煉瓦の代りに、石を使つたものを石造云ひます。尤も日本で云ふ石造の多くは、外側に石を積んで、内側に煉瓦を積んだものです。煉瓦は厚さ二寸幅三寸六分長さ七寸五分で、丁度片手で取扱ふに都合のよい大きさに、土を焼いて出來たものでして、これを積み重ねるときは、其の間にモルタル云つて、普通容積でセメント一、砂三の割合で混ぜて、之に水を加へてドロ／＼にしたものを用ひます。これが次第に硬化すること、壊れない様な煉瓦の積み重ね方に依つて、建物は強さを増すのですから、他の構造のものに比較して、地震等に對して餘り丈夫ではありません。日本は前に述べた様に、非常に地震が多いのですから、煉瓦造の建物を造る場合には、餘程注意せねばなりません。ですから東京大阪等の大都市では、市街地建築物法云ふものがあつて、煉瓦を使つては、軒の高さ五十尺以下の

建物しか、出来ない事になつて居りますし、其の他にも色々の規定があります。

それから又煉瓦は多孔質であることや、煉瓦と煉瓦との継目が、完全に行かぬ場合が多いことやから、地中の湿氣を吸ひ上げたり、又壁に吹き付ける雨水等を吸ひ込んだりして室内に湿氣を傳へることもふ缺點もあります、これ等を防ぐ爲めには、前者に對しては、地上一二尺位の箇所に、湿氣止の層を設けますし、後者に對しては、外側にモルタルを塗つたり、裝飾を兼ねて化粧煉瓦を貼付けます。斯う云ふ風な缺點もありますが、他の材料を使つて造るよりは、勝れた點もあります、それは造り上げるのに、非常に簡單でもあり早く出来ず、これを後程御話する鐵筋混凝土造に比較しますと餘程の相違です、又煉瓦は火に對しても丈夫ですから、低い建物で湿氣を防ぐことに注意したら、煉瓦造も適當なものではないかと思ひます。

## 石造と鐵骨造り

石造は外觀を立派に見せ様とする時に用ひます、關西で普通使ひます石材は花崗岩です、瀬戸内海の北木島とか大島とかに、産するものが多い様です。石造でも、煉瓦造でも床や屋根は他の材料で造るのが普通でして、これには色々の構造の方法があります。

其の次は鐵骨造ですが、鐵骨と申しますと、色々の形の鐵材を使ひまして、柱や梁や桁を造りますので、即ち鐵で骨組を造つて、其の間を詰めて内なるものには、煉瓦や鐵筋混凝土や中空煉瓦等を用ひます。例へば高麗橋の三越は、大體の骨組は鐵材で出来て居りました、其の間を詰めるのに、壁等は煉瓦を用ひ、床には鐵筋混凝土が用ひてあります、之を鐵骨煉瓦造と云ひます。この朝日新聞社も鐵骨造でして、外側の壁の中にある柱は、断面が工字形の八本の鐵材から出来て居ります、斯うして其間の壁や床等には、鐵筋混凝土が用ひてあります、ですから之を鐵骨鐵筋混凝土造と云ひます。こんな風に煉瓦か鐵筋混



凝土を使ふのが普通ですが、併しこれ等は中々重いので、下の方になります。それを支へる柱に非常に澤山の重量が懸るので、之を防ぐには中空煉瓦等を用ひます。

それで壁にこの中空煉瓦や、普通の煉瓦を用ひた場合、鐵筋凝土を用ひた場合は同じ鐵骨造でも、出来上つた外觀には自ら相違があります。前者では壁が厚くなり、後者の様に薄くは出来ません、ですから出来上つた建物が、何れで造つてあるかを知るには、窓の處を御覽になれば明かです。この朝日新聞社では、壁の外面と窓の硝子障子の面との、距離は非常に近く、三越呉服店では、これが可なり離れて、厚い壁が見えて居ります。従つて使つた材料に依つて見た感は違ひまして、鐵筋凝土を用ふれば、非常に輕快に見えますし、煉瓦を用ひれば、それよりは重々しくなります。兎に角、間に詰める材料の如何に關せず、鐵骨造でやれば餘程丈夫な建物が出来まして、日本の様に地震の多い國には非常に適當したものではないかと思ひます。銀行や貸事務所等、大きな高い建物が、近來盛んに出来る様になりましたが、其構造は大抵鐵骨造です、先づ鐵で骨組を造つて、其の上を凝土なり、煉瓦なりで包むことは、工事をやるにも便利ですし、出来上つたものは耐震耐火、耐久的のものです。

初めに御話した煉瓦だけで造つた、所謂煉瓦造等に比較すれば、其強さに於ては非常の相違があります、例へて申しますと、數箇月前に出来上りました東京の帝國ホテルは、煉瓦と石を主として使つて、出来上つて居りますが、こんな建物は或る程度までは、地震等外から働く力に對して大丈夫なものです、然し其の或る程度を越した外からの力で、全部が滅茶々に破壊されて、再び使用することは出来ない迄になります。鐵骨造では其の場合にも完全ですし、又それよりも強い力を受けても、壁が落ちたり、塔が破損したり、一部の弱い箇所は破損しても、建物全體は中々丈夫なものです、こんな譯で、高い建物を造るには、戦時等鐵材の高價な場合は、後に御話する鐵筋凝土造によりますが、普通の場合は鐵骨造が最も適當です。

## 木造と鐵筋コンクリート

次に木造ですが、我が國は昔から木材は豊富でして、木造建築は非常に發達して、皆さ  
んも御承知のこゝと思ひますから省きますが、唯御話して置かねはならぬとは木造には二  
通りの造り方がありまして、外國の建築法が輸入されてから以來、從來の木造建築の外に、  
西洋風の木造建築が行はれる様になりましたが、これには學ぶべき點も澤山ありますが、  
亦缺點も少くありません、從來の木造建築には中々捨て難い點が、澤山あるこゝ云ふ事を御  
注意願ひます。

最後に鐵筋混凝土造りのこゝを御話いたします、これは近來盛んに用ひられますが、  
御婦人の方には御承知のない方が多い様ですから、少しく詳しく御話し致しませう。鐵筋  
混凝土云へば、名の如く鐵を筋とし、混凝土を肉にして、出來たものですが、一體混凝  
土は、何で出來て居るか云ひますと、普通のもは容積でセメント一、砂二、砂利四の

割合に混ぜて、之に水を加へてドロ／＼にしたものです。ですから之を以て、或る形の  
ものを造らうとするには、其の形に従つた枠を造つて、其の型の中へドロドロの混凝土を  
流し込むのです、するに時間を経過するに従つて、セメントと水とは化合して次第々々に  
硬化して二三月もたてば、石と殆んど同じ様な固いものになります。

其出來た□の上には、每一平方種に對して四十五キログラムの目方の□をのせても大丈夫  
で詰り其固まつた混凝土の一尺角の面積の上に、皆さんの約八百人が乗つても潰れません、  
それを押し潰すには、其の數倍の人が乗らねばならないと云ふ程に固いものになります。  
こんな風に壓した場合には、其の抵抗力は非常に強いものですが、反對に引張るこゝには  
極めて脆いものでして、前に御話した壓せられた場合に、堪へる力の十分の一しかなくて  
それも脆にあると云ふこゝは出來ないのでして、一寸角の混凝土の棒を造つて、それに人  
が一人ぶら下つて、切れるかも知れないと云ふ程弱いものです。これが鐵ですと、建築に  
は普通軟鋼か、鍊鐵を使ひますから、壓せられても引張られても、同じ様に強いものでし

て、每一平方種に對して、八百五十キログラム乃至千五百五十キログラムの目方のもので、押されても引張られても差支へないのです、即ち一寸角の面積の上に、二千六十貫から二千七百九十貫の重さのものが、乗つても差支へなく、又一寸角の棒に、二千六十貫から二千七百九十貫の重さのものが、ぶら下つても差支へありません、之を押し潰したり引きちぎつたりするには、是等の重さよりも餘程多くの重さを加へなければなりません。

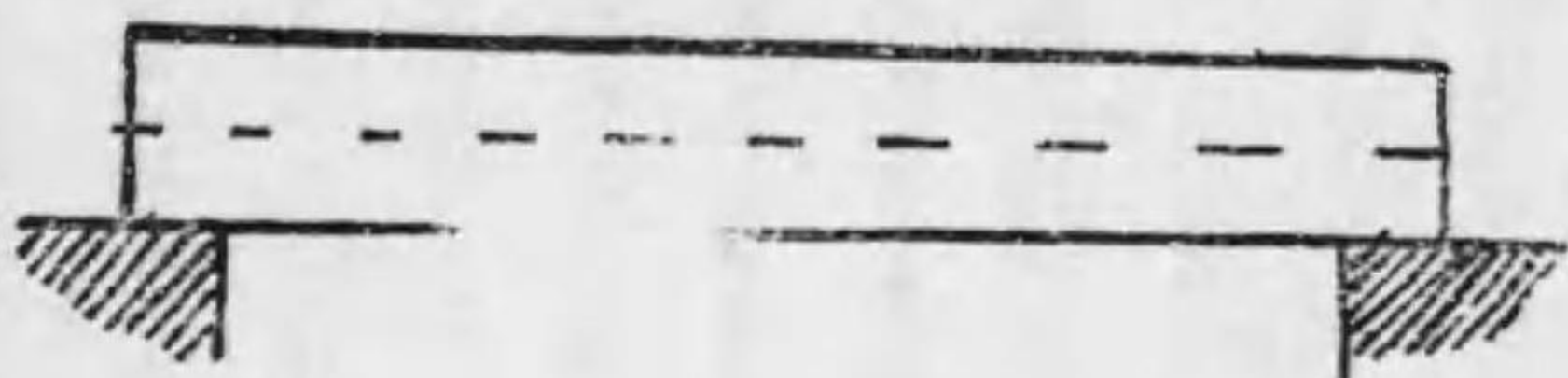
こんなに鐵は、外から加はる力に對して、非常に抵抗する力がありますが、亦缺點もあります、それは鐵は高價ですから、これを澤山使へば不經濟ですし、熱に對しても變化し易いし、其の他色々缺點もあります。そこで一部分鐵の代りになる適當な材料が、何かないか云ふ事になります、茲に御話した混凝土は、初めはドロドロで自由の形にするこゝが出来て、型に流し込めば固まつて一つのものになりますから、外から壓する力のかゝる處には、これを用ひて、引張る力の加はる處には、鐵材を主として使へば、堅牢な家が出来る云ふことになります。即ち鐵筋混凝土云ふ完全なものが出来る譯です、其の理

論に就いて簡単に説明致します。

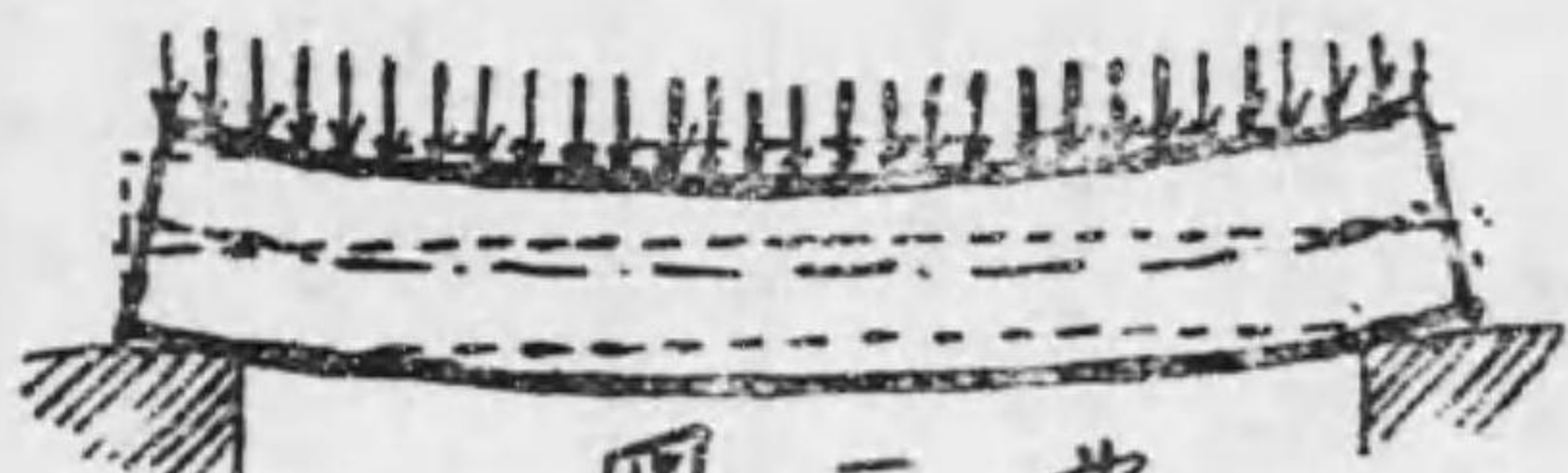
### 毛利元就の訓戒と合致

第一圖の様に木材でも何でも、水平の位置に置かれて、其の兩端が支へられて居るものに、上から或る重さの荷がかゝれば、それは第二圖の様に曲ります、即ち中央よりも上の部分は壓せられて、下の部分は引られます、ですから、之を鐵筋混凝土でれば、上の部分は混凝土だけでも、差支へありませんが、下の部分は引張られますから、鐵材を入れて混凝土の足りない所を

第一圖



第二圖



補へばよい譯です。又柱等垂直に立つて居るものです。直径の七、八分の非常に細長い鐵の丸棒のみを數本建てただけでは、上にある重荷を支へることは出来なくて、直ぐ曲りますが、これを混凝土の中に入れて一緒に使へば、兩者共壓せられる力に對しては丈夫で細長い丸棒も曲らないで、一緒に働いて都合がよいのです。異つた材料が別々に働くよりはこんな風に一緒になつて、互に其缺點を補ひ合つて働くので非常に丈夫なものが出来るのです、この事は殊更申上げる迄もなく、二百餘年前に毛利元就が、既に子供に教へて居りますが、この鐵筋混凝土の場合には、外から受ける力の大きさに従つて鐵材も混凝土も其の必要な量が、計算に依つて數字に表はすことが出来ます。

### 山陰線鐵橋修繕の實例

尙ほ鐵材と混凝土とが一緒に働いて、色々都合のよい事があるのを、二三を話して見ます。鐵は御承知の如く、空氣中に露出して置くと、腐蝕する處がありますから、それを

豫防しなければなりません。中々旨く行かないものです。それが混凝土の中にあれば、一寸も錆ないのです。先日山陰線の餘部の鐵橋が、潮風に暴かれて腐蝕し初めたので其の全部へ鐵線を巻きつけて、混凝土を塗り付けて包む云ふ記事が、新聞紙上に見られましたのは、この理由によるのです。それから鐵は燃やさないものですが、熱に合へば非常に變化し易いものでして、鐵材が露出してある建物は、地震に對しては實に強いものですが、併し火災に會つては脆いものです。いくら其の建物を、内にいる人や荷物等の重さに對しても地震や風に對しても、安全な様に造つて置いても、熱に會へば鐵は伸びて、非常な力を受けるので、極めて弱いものになります。

### 國技館の鐵の鉛棒

それに就いて面白い話は、東京の前の國技館は、非常に大きい圓い屋根のついた建物で其の主な部分には鐵材が露出して用ひてありました。それが火災に逢つたので、其時集つ

て居た保険會社の或る人々が、國技館は焼けても鐵材は組み立つて、舊の形の儘で立派に残つて居るのであらう、と話し合ひながら、實際に其の現場を見に行つて、燃やない鐵が鉛棒の如くになつて、地上に倒れて居たので、驚いたと云ふこともありますが、これは今御話した様に、鐵材の熱による影響に就いて、考へないからです。所が混凝土は火に對して安全でして、適當な耐火材料です、それ故にこれで鐵材を包めば、熱は中々鐵に傳らないで、完全な耐火的建物となるのです。

### お臺所でゼリーの仕損ひと同様

こんな譯ですから、鐵筋混凝土造は最も勝れた構造ですが、缺點もあります、これはこんな事かご申しますと、上述の様にして造るのですから、中々厄介ですし、従つて費用も随分かゝります、それに一寸見た所では解らないセメントの良否が、出來上つた建物の丈夫さに、非常に關係するものですから、一々試験して後に使はなければならぬのですが、

大きな建物でセメントが多くなるに、大變手数を要して、行き届かない場合がよくあります又工事をする際に、亂雑に陥り易いものでして、完全に行き難いものです。先年も數百坪の鐵筋混凝土造の工場が、セメントの悪いの施工の不完全なもので、殆んど混凝土は固らないで、唯家の形をして建つてのみ居るのを見たことがあります、實に哀れなものでした。臺所でゼリー等を形に入れて、菓子を作るのでも、出來損ねる場合もある様ですから、まして混凝土はよいセメントを使用しても、教育の不充分な人々を多く使つて、野天で多量に造るので、餘程注意せねば、盲く行くものではありません、ですから、この構造は骨は折れるが、然し骨を折れば折るだけ、よい構造になること云ふものです。

### どういふ順序で家は出來上るか

これで構造に關することは、大體こんなものか云ふ事が、御解りのことと思ひますが、序でにさう云ふ順序で、家は出來上るかを御話致しませう。先づ建て様とする建物を、解

り易く圖面で表はして、尙ほ不十分なれば其の説明書をかきます。これが出来れば、工事に着手するのですが、最初に其の建てる場所の地盤が、この位迄の重量のものを置いても、沈下しないか云ふことを調べます、大きな建物になりますと、建物自身の重量なり其の中に入る人や荷物が、中々重いものでして、下の地盤の一尺角の面積の上に、何百貫何千貫の重さがかかるものですから、地盤の如何に従つて、色々な適當の工事をやらねばなりません。其の一例としてこの朝日新聞社の工事に就て御話しますと、この邊の地盤を調べますれば、下の方は三十尺位の深さは、砂が堅く積つて居ります、ですから其の上はこの位の建物がつても、地盤は沈みませんが、兩側には河があつて、この建物の底を洗ふ云ふ様なところが、あるかも知れませんが、安心出来ないから、杭を打ち込んであります、普通軟かい地盤には、杭等を打ち込みますが、これは杭と土と摩れ合つて居て、其の上は何百貫何千貫の重さをかけても沈まないのです、そうして水中にあれば、木材でも腐るものでありませんから、堅い地盤が出来ると譯になります。

斯うして建物を建て、よゝい様な地盤が出来たら、其の上に、混漑土で相當の厚さの層を造つて、上からの重量を一樣に、地盤に傳へる様に致します。其の上に煉瓦造なれば、煉瓦の壁を積み上げて、適當の高さの處に、床や屋根を設けます、木造なれば、地上二尺位の高さまで、煉瓦を積んで其の上に木材を組立て、壁や床や屋根の大體の骨組を造ります、朝日新聞社の様に鐵骨鐵筋混漑土造ですと、木材の代りに鐵材を組立て、大體の骨組を作つて、それが出来ると、壁や床や屋根を鐵筋混漑土で造ります。こんな風にして何れの構造でも、大體の形が出来てから、それに仕上げをするのです、即ち壁を塗つたり、床に敷物を敷いたり、窓に障子を嵌めたり、出口に戸を建付けたりして、全部が出来上がることになるのです。以上で構造の極く大體のことを、御話致しましたから、次の問題に移らうと思ひます。

## 住宅の間取り設備

それは住宅に對して私の考へを、御参考までに御話しやうと思ひます。皆さんから從來の儘の住宅では、満足出来ないから、どうにか改良して見たいが、建築家としての考はさうであるか否、よく質問を受けますが、其の從來の住宅に満足されない云ふ中にも、或はモット立派なものにしたいとか或は簡單なものにしたいとか、色々の希望がある様ですが之を煎じ詰めば、要するに三つの條件を備へれば宜い、云ふことになりはしないかと思ひます、それは即ち(一)楽しい(二)便利な(三)經濟的な、住宅を得たい云ふ事になります。

それには先づ吾々は、是迄の坐つて暮す生活を、腰掛生活に變へなければならぬところが、第一だと思ひます。其次には、なるべく電氣を利用せられて、衛生的に設備を完全に

して、手数を省ける様にし、下女等を使用せぬ方がよいと思ひます、ですから從來の住宅で、改造せねばならぬ點の最も多いのは臺所です、これに就いては前に申した様に、最後に御話し致します。尙ほ其の外に改造の急に迫つて居る處は便所です、これは是非汚物を水で、家より外に流し出す、洗滌式にせねばなりません。それから家の造り方は、西洋風のものよりは、從來のものを土臺として、これを改良した方がよいと思ひます。これ等の内で便所のここは略しますが、其の他の事に就て少しく説明して見ます。

## 先づ第一に腰掛生活を

腰掛生活を第一に勧めますのは、吾々が坐つて生活して居る爲めに、これだけ起居に不便を、生じて居るか知れませんが、これが爲め生活の能率を、非常に損じて居りますからでして、これは私が一々御話しするまでもなく、皆さんのよく御承知の事と思ひますが、簡單に考へて見ましても、坐つて居るよりは腰掛けて居る方が、仕事をする時は勿論のこと、

體を休める時でも、他の動作に移る場合でも、非常に都合の好いことは、申す迄もありませんから吾々は一日も早く、腰掛ける生活をしなければなりません。所か時々誤つて考へられても居る様ですから、其の誤解を正し、又吾々が坐る生活から、腰掛の生活に移り變るには、如何にしたらよいか、其の實行方法を話して見たいと思ひます。

### 服装は和服でもよい

先づ誤解の一つとしては、腰掛けて生活するには、服装を變へなければ出来ないこと、思つて居る方がありますが、私が腰掛生活をして居りますこと、家内にも洋服を着せて居ますこと、能く質問されますが、決して洋服でなければ、出来ないこと云ふ事はありません、無論洋服の方が便利ですが、和服でも一寸も差支へはありません、洋服で坐るよりは、和服で腰掛ける方が餘程樂です。それから又腰掛生活をするには、暖房設備が完全でなければ出来ない、之がなければ困難である、ことを考へて居られる方もある様です、併しこれは冬だけ

を考へたことでは、吾々の生活は、夏を最も考へなければなりません、この事に就いては、後に御話致しますが、腰掛生活は夏に、非常に愉快に暮すことが出来ます、冬も次に御話する様に、腰掛の使ひ方を注意すれば、そんなに寒くはありません。

### 腰掛の造り方が誤つてゐる

第三としては、腰掛生活に反對される方の中には、腰掛に就いて充分研究しないで、反對される方もあります、従來の腰掛の造り方は誤つて居て、其の造り方が吾々に不適當のものが多い様に思ひます、大體から云へば高過ぎる様です、又一面には其の使ひ方を、間違つて居る方が多い様です、婦人の方が腰を掛けて居られるのを見ますこと、多くは椅子の前の部分にのみ、お尻のはしを置いて、大分後ろに餘地が出来て居りますが、之では寒い筈です、或は帯云ふ大切なものがあるから、さう云ふ風になるのかも知れませんが、斯う云ふ腰掛け方は餘程窮屈でして、これで反對論の起るのは當然な事です。



## 腰の掛け方が悪い

嘗て一般の婦人はさう云ふ風に、腰掛けて居るか云ふことを、見度い爲めに、三越の食堂に行つて見ました、其の時使はれて居た食卓は、高さが二尺四寸で、椅子の高さは一尺四寸で、奥行も一尺四寸でしたが、そこには色々の社會の階級の、人々が居りますが、殊に婦人の多いところは、皆様の御承知の通りです、所が先程申しました様に、椅子の後に餘地を造つて、腰掛けて居る方々が、殆ど全部云つてよい位です、今はさうか知りませんが、あそこの食卓の配置は、壁につけてそれと直角に並べてありました、ですから、隣り同志の食卓に腰掛ければ、背中合せになる譯です、それを前申した様な腰掛方をする椅子と椅子との間は、通行するここが出来ないで、壁際の方へは行けません、其の時壁際に中學生が居りましたが、丁度背中合せの婦人が、何れも外に出られない様な、腰の掛け方をして居たので、さうして中學生は出るだらうかと、見て居ましたら、失敬云つて、

何か食べて居た背中合せの、二人の婦人の一方のお尻と、椅子の後の凭れ掛けるものとの間を踏んで出て行きました。

## 外國のを其の儘眞似ては駄目

斯う云ふ掛け方は止めねばなりません、腰掛を造る方でも吾々に適當なものを造らねばなりません、最も大切な事は高さの奥行ですが、從來の椅子は、外國のを其儘眞似て、造つたのが多い様です、外國の婦人は、帯云ふものがありませんから、其の邊を考慮する必要もありませんし、又室内でも靴をはいて居りますが、これが亦餘程相違します、佛蘭西等では、随分丈の低い婦人が居ますが靴の踵を一二寸も上げて居りますから、丈の割には、高い腰掛を用ひることが出来ます、之等のことを注意して造り、又使用する際には充分深く腰掛けて、後に餘地を残さず、脚が腰掛につく様にせば、冬に暖房設備が不完全でも、餘程氣持ちよく暮すことが出来ます。

其の次に腰掛生活は不経済である、家を造るにしても、従來のものよりも、建築費が餘程多くかゝるこゝ、思つて居る方もありますが、これは實際家を造つて比較して見ますと、従來の家と殆んど同じ位の費用か、或に幾分腰掛生活の家の方が、安價に出来ますから、經濟上の問題で、實行の如何を論ずる程のこゝはない様に思ひます。第五としては老人なこゝで、趣味の上から腰掛生活を、好まぬ方もありまして、あんなバタ臭いものは御免だこゝ云つて、一も二もなく反對しますが、これは従來の腰掛生活云へば、何でもかでも、西洋風の裝飾をしなければならぬ様に、なつて居たからでして、吾々の従來の趣味に、適する様に意匠したら、却つて中々面白いものが出来るこゝを、知らないからです。

### さて其の實行方法は

以上の事で、腰掛生活に対する誤解は、大體御話致しましたから、其の實行方法を御話しますれば、吾々は今まで坐る習慣がついて居りますが、これを直ちに、何時もかも腰掛

ける様に、變へるこゝが出来れば、非常に結構ですが、併しそれは中々困難な事柄です。若い者には出来るかも知れませんが、五十も六十にもなつた人々に對して、それを直ちに強ゆるのは、少し酷ではないかと思ひます。そこで現在の住宅では、坐る場所もあり、腰掛ける場所もあるこゝ云ふ様に、二通りのものを造らねばならない、こゝ云ふ事になります。其の場合には多くの住宅では、坐る場所と腰掛ける場所とを、同じ建物の内でも棟を異にするこゝか、廊下等によつて正しく區別してあります。是は非常に不便でもあり、坐りたい人ご腰掛けたい人ごは、一つ部屋に居るこゝは出来ませんし、又坐る人はいつ迄も、腰掛に馴れるこゝが出来ません、ですから、居間など一家族集まる部屋では、其の中に坐る場所も、腰掛ける場所も造れば、都合が好いと思ひます。さうして坐る場所を、腰掛ける處よりも、一尺一寸乃至一尺二寸位高くして置けば、坐つて居る者ご、腰掛けて居るものご眼の高さが殆んど一様でして、相對しても、一寸も不都合を感じません。

これは三、四年前、十二疊の部屋に、五疊は坐れる様に七疊は腰掛られる様にして、其

の間にテーブルを置いて、兩側からも使へる様に、初めて造つて見ましたが、其の當時は玉突き屋の様だとか、床屋の様だとか云つた方もありましたが、實際には適當であるところが、次第に認められて居る様に思ひます。こんな風にして、坐つてのみ居る人も腰掛生活に次第に移つて行つたならば、宜からうと思ひます。

### 日本には日本風の建築の方が適當

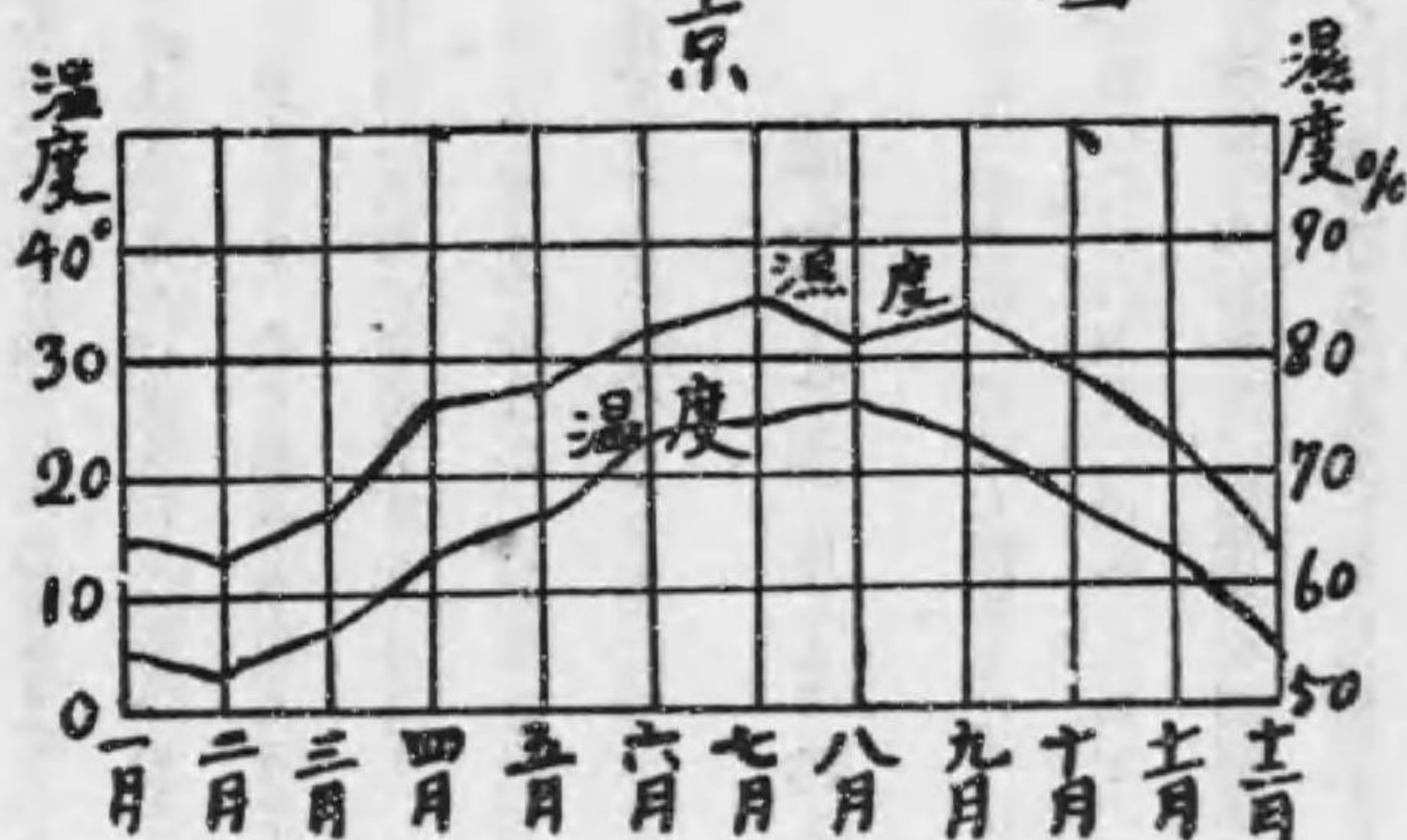
腰掛生活のことはこれ位にして、次に御話致したい事は、前申した家の造り方は、腰掛生活をするにしても外國のものを真以しないで、從來のものを改良した方が、よいこと云ふことを少しく詳しく御話致します。近頃では住宅を造るのに、西洋風の建築を真以したものが多くありますが、吾々には從來の日本風の建築に於て、適當した點を多く見出します。西洋風の住宅云へば、意匠とか裝飾とか云ふ點が、吾々の趣味とは非常の相違があるばかりでない、構造も違ひます、前に御話した様に、我が國では從來は木造建築のみ、發達

しましたから、これと西洋の木造建築とを、比較して見ますと、其の造り方に於て非常の相違があります。これは尤もなことで、我が國の氣候風土、風俗習慣等を、外國のそれ等と比較して見ますと、全く相違して居ります、然し交通機關の完備、時代の思潮などによつて、風俗習慣は次第に世界化するでせうし、遠隔の地の建築材料でも自由に得られて、建築も世界化して來るでせうが、現今では夏は暖い空気を煽風機で掻きまぜて、涼しいと喜んで居る時代ですから、其土地の氣候風土に依つて、相違した建築が出来るのは當然です。

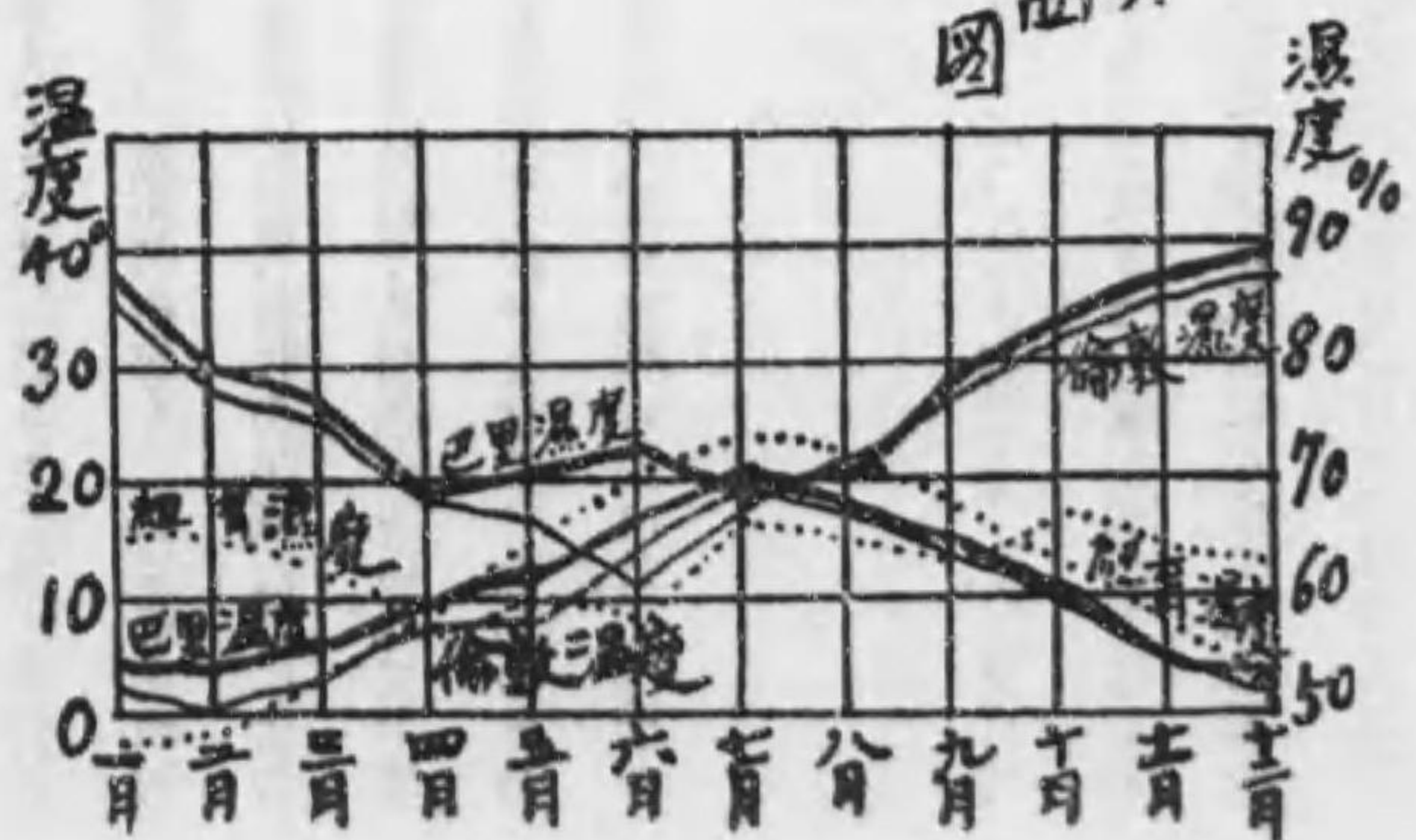
### 温度と湿度との關係

我が國の氣候風土は、前にも御話した様に、中々厄介でして、住宅に就て考へる場合に、最も注意せねばならぬ温度と湿度との事を、少しく御話して見ますと、我が國の四季に於ける温度と湿度との關係が、歐米の文明諸國に比較して、さう云ふ工合になつて居るか云ひますと、次ぎの圖を御覽になれば明かな様に

東京 第三圖



第四圖



日本は代表的に東京を擧げて居りますが、夏の間は温度も高いが、湿度も非常に高いのでして、冬は温度も低いが、湿度も低いのです、即ち夏は暑い上に湿気が多くて、冬は寒い上に空気は乾燥して居るのです。これが中々暮しにくい所以でして、夏は汗をかいても中乾きませんし、冬は寒さが餘計に身に應へます、所か冬は圖に御覧になる様に、外國の冬に較べれば、非常に暖かいのですから、身に應へることも云つても、外國程の防寒の必要は、更にならないのですが夏は外國よりも暑い上に湿気が非常に多いので暮し難いのです。外國では温度と湿度とが、平行して上下して居りません、これは倫敦でも巴里でも紐育でも、大體同じ様で、温度の低い一月頃に最も湿度が高く、七月の暑い頃は低くなつて居ります。

従米の住宅が日本に適する譯

こんな風ですから、吾々の住宅は冬よりも、夏を考へねばなりませんし、吾々が建築學上に手本として居る外國の住宅は、こちらか云へば、冬を考へなければなりません。

すから、吾々の従來の住宅は、濕氣のない様に、風通しを自由にして居りますし、壁に穴きつける日光の直射を防ぐ爲めに、軒の出を深くして居ります、又雨が多いので、其の時窓を明け放つて置いても差支へない様に、窓の上には庇をつけて居ります、これ等のことは西洋風の住宅を建てる場合でも、日本であれば注意せねばならない事として、要するに、日本の住宅を其の儘外國に持つて行つても、日本人でさへ住めない如く、外國の住宅を其の儘眞似して日本に建てる事は、實際に於て不適當であります。それですから、矢張り従來の日本風のやり方を土臺として、外國の種々の新しい設備を取り入れて造つたものが、最も適當したものではないかと思ひます。

### 下女は使はぬ方がよい

其の次に、下女等使用人は、なるべく止めた方がよいと思ひます。此に就いて御話して、臺所のことに、移らうと思ひます。下女を使ふに否かを住宅では其間取りも設備も變つて來

ますが、使はない方がよいと思ひます、其の理由は精神的の方面と、物質的の方面との二つに分けて、考へて見ますと、先づ精神的方面から御話して見ますれば、楽しい生活をすれば、家庭内に興つた思想を持つた者が居る事は、非常に不愉快なものです、今日の様な時代ですから、肉親の親子でも思想が違ひ易く、従つて一緒に生活して、旨く行かない事もあります、況して生立ちの違ふ、行儀作法も何にも知らぬ、他人の下女が家庭に居て靜かに愉快に暮すことは中々困難です。主婦が一日の仕事も、如何に處理するか、膳立てしてから、其一部を下女に命じた時には、其の儘に放つて置けないで、命令通りに實行して居るか否かを、監督をしなければなりません、尙ほ其の上に満足して働いて居るかどうかが修養する時間があるかどうかを注意してやらねはなりません、言ひ換へれば、家族一同と下女の間は、常に緊張して、ユツタリした楽しい生活は出來ないことになります。

### 費用も給料の三倍位要る

それで多くの場合には、知らず知らずの間に、家庭の狀態が複雑になつて來ますし、下女の爲めに低級な生活をする様になります、進歩した考を持つた主婦か、いくら文化的な生活をしようと思つても、下女は一向これに従つて呉れません、下女の最もよく働くのは自分の直接の生活に對する場合でして、能く居睡りする癖の下女でも、自分の着物を縫ふ場合には、平氣で夜更しするのは、度々見受けることです。次に物質的方面から考へて見ます、給料、食費、部屋の設備等、色々の諸費を要しますが、其の外に最も困るのは度々器物を壊されることです。米國では下女に對する費用は、其の給料の倍強が實際の必要とされて居る様ですが、日本では給料の三倍位を要するかと思ひます。こんな譯ですから、下女を雇ふことが容易であるか、困難であるか何れに拘らず、使用しない方がよいと思ひます。これで第二の問題も終りましたから、最後の臺所に就て御話致します。

### 臺所に就いて

臺所の事は婦人の方から、最もよく質問を受けて、臺所はさう云ふ風にしたならば、宜しかか聞かれます。一般の婦人が、家庭でする仕事を申しますと、色々ありますが其の主なものには掃除、洗濯、裁縫、料理でして其等に要する時間を考へて見ますと、臺所で費さる料理の時間は、一日約四時間はかかるだらうと思ひます、掃除は兎に角、洗濯や裁縫は、毎日必ずやることも限りませんけれども、臺所の仕事は、幾ら主人が留守でも、必ずせねばならぬものです。ですから、從來の臺所でやつて居る様に、其の目暮しにしないで、さう云ふ風にしたならば、最も働き甲斐があり、又能率を上げるここが出来るか、それには臺所を、こんな風に造つて、こんな方法で働らいたら適當であるか云ふ事を、皆さんで充分御研究になることが、必要であると思ひます。

臺所の事は吾々建築家のみで、設計することではありませんし、又出来難いこととして、皆さんの力を借らねば、出来ないものなのであります、いや、皆さんが主として御考へになつて、吾々建築家がこれを御助けする、と云つた方が適當でして、これからお話しします臺所の話の内にも、皆さんから御考へになれば、不適當な點があるかと思惟しますが私の考へを皆さんに御話して、御研究の参考ともなれば、洵に結構であること付じます。それから御断りして置かねばならぬことは、私は臺所で使はれる世々の物の言葉などに就いて、よく知りません、一例を申しますと、婦人の方々の好物の薩摩芋を私は單に「いも」と申して居りますが、皆さんはそれを「おさつ」と云つて居られる様です、こんなに言葉が違ひますので御話します間に、或は不明瞭な點がありますかも知れませんが、これは豫め御許しを願つて置きます。

### 改良すべき二つの點

先づ臺所は、如何に改良したらは宜いか、といふ事に對して、其の重なる點を御話して見ますが、其の改良すべき最も必要に迫つて居る點は、二つあると思ひます。其の第一は電氣を使用すること、第二は食器を統一すること、ではないかと思ひます。

電氣の有難味に就いては、照明の方では、私が御話致さなくとも、既に御判りになつて居ることとして、初めは蠟燭や種油を用ひ、それがランプ、瓦斯、電氣と段々變つて來まして、電氣が最も適當であるとは申す迄ありません。併しこの電氣は熟を得る方にも利用して、臺所に於ても盛んに使つたら、從來使つて居る新炭よりは、遙に勝れて居ること云ふことは、明かなこと、近來盛んに獎勵される様になりましたが、是非吾々の臺所は、電氣を利用せなければならぬものであると思ひます。

一體臺所の設備をするについては、色々のことを標準させねばなりません、先づ大略

次の五つの事を考へればよいと思ひます。

### 第一に手数を省くこと

第一に手数を省くこと、第二に経費を省くこと、第三に時間を節約すること、第四に無駄足をせぬこと、第五に衛生的であることとして例へば臺所で或る物を利用して、設備を完全にしようとする時には、それに依つて手数を省くことが出来るか否か、経費は少なくて済み、経済的であるか否か、時間は節約出来るか、無駄足を踏まないで済むか、且又衛生的であるか否かを、調べて見る必要があります。この考へを持つて、臺所の設備を選定しなければならぬのですが、今御話する電氣に對して考へて見ますと、電熱を利用すれば、手数の省けることは非常なものでして、これに依つて二人居る下女は一人で済みますし、一人の下女は全くなくて済む様になると思ひます。

### 第二に経費を省くこと

次に経済的であるか否かを考へるには、先づこれを三つに區別して、設備費、経費、修繕費の如何を調べなければなりません。所か従來の新築に依つた場合、電氣を利用する場合、比較して見ますと、設備費は到底前者の様に安くは行きませんが、比較にならぬ程高價なものであります。経費は一キロワット五錢位ですと、炭と同じ位か、或はそれよりも安値でしやつ、私の宅の臺所は、京都電燈會社から、一キロワット五錢の割で電熱の供給を受けて居りますが、あの會社では、家庭の電化に非常に肯を折つて居りますので、この値段になつて居りますが、他の會社では一般から云へば、これよりは餘程高價な様ですから、経費に於ても高價なものと云つて、差支ないと思ひます。次に修繕費ですがこれも比較的多くを要します。ですから、第二の點からは電氣は悪いことになりません。

第三の時間を省くことは、勿論出来るのみならず、電氣なれば臺所に居ないでも、希望



する時間に、煮きものも出来る様な、設備もするここが出来ます。

次に第四の無駄足を踏まぬここに對しても、非常に有効でして、これは後にも御話致しますがこれが爲めにも電気なれば、自由の設備が出来ます。

### 衛生的であること

第五の衛生的であることも明かなことで、埃が立たないのみならず、炭ですご有難な瓦斯が発生しますが、電気にはそんなことは一寸もありません。以上のように考へて見ますと、従来の薪炭に對しては、第二の經濟的でないことに於て、非常に劣つて居りますが、其の他の四つの點に於ては、比較にならぬ程勝れて居ります。それで第二の點と其の他この何れを重く見るかは、其の家庭の状態によつて、相違する譯ですが、皆さんのうちの臺所では、第二の點を軽く見て、他の四つの點から電氣を使つた方が、適當なことは申すもありません。殊に第一の手續が省けて、下女を減する様になれば、間接には經濟的にもな

りますし、又前にも御話した様に、下女が居なければ、ユツタリミ替すここが出来持つことを、考へねばならないものだと思ひます、それでこれから御話する臺所は、電氣を使つたものとして御話致します。

### 食器を統一すること

先き程舉げた改良せねばならぬこの一つの、食器を統一せねばならぬ事を、御話致しますと、従来の吾々の生活は、總て亂雑に陥つて居ります、臺所の食器にしましても、色の形があつて、非常に無駄が多い様に思ひます。同じ用途にのる皿でも、茶碗でも、調味等の材料を入れるものでも、其の形は種々のものがありまして、外國の臺所で普通、使つて居るものに較べて、非常に複雑な様です。例へて申しますと、刺身を盛るのには四角な皿か、細長い皿等を、使はなければならぬ様になつて居て、普通の圓い皿は、餘り使ひませんで、これと區別して居りますが、これは他のものを盛ると同じ様な、普通の形の皿で

間に合ふことです。それから銅にしても、近頃は色々の形のものがありますし、同じ用途の鉢でも、同一の格好で、唯大きさだけ違へば宜いのに、普通の家庭では、一々其の形が違つて、一つも同じ形のものはないと云ふ様に、甚だ不統一です。

### 趣味の變化は色彩で

これ等は日常用ひるものですから、皿で云へば圓いのがよければ、圓い形のものに統一して、唯其の大きさだけ區別して、大中小位に分ける、それでは趣味の上から、満足出来ねば吾々の着物の様に、仕立は同じで柄が變つて居ますが、これも色で變化を取つて、形は一樣にして置くことにしたら、平常の取扱ひか、非常に便利であらうと思ひます、洗ふにしても手数は省けますし、形が違つて居れば、こつしても壊れ易い恐れがありますが、同じ形で大きさだけ、變へたものですと其の心配も減じます。ですから複雑なことは、成るべく避ける様にして、統一したものにせねばならぬと思ひます、又客を饗應する時には、

色々の道具を使用することは、結構なことですが、普通の場合には、從來の様にしないでなるべく簡單にした方がよいと思ひます、例へば膳桶等を使用する代りに、椀高を使用すれば、極めて氣持ちよく、簡單に出來て、手数も省けます。

### 科學的と感情的の相違

こんな風に、電氣を利用するにしても、食器の統一をするにしても、其の他臺所のことを改良するには、外國の住宅を参考したら、最も適當であると思ひます。然し前にも御話した様に、外國には風俗も習慣も違ひますから、従つて臺所も自然、相違が出來ねばならないので、外國のこゝを一概に、眞似してよいとは申されません。其の注意せねばならぬ點は、歐米の人々の衛生は、一體に科學的ですが、日本人のは感情的になつて居りますこれが臺所に於ける、仕事にも表はれて來ます。

例へて申しますと、犬等に食物をやるにしても、外國の人はよく、自分等の喰べる皿へ

直ぐ物を入れて、犬に喰べさせます、なる程洗へば同じことで、奇麗になりますが、日本では必ず別な容器に入れてやります。風呂などでもそうでした、外國では他の人の入った風呂は、其の後を一切使ひませんが、日本では家族のものは互に、先に使つたお湯を平氣で又使ひます。こんな風に餘程感情的ですから、臺所の布巾でも、日本では水で洗つてあれば濡れて居ても、直ぐに物を拭くのに使ひますが、外國では必ず湯でよく洗つて、乾かしてアイロンを掛けて、それからでないと思ひません。又吾々から見ると、随分穢ないと思ふことを、平氣でやつて居ることもあります、食事に使ふナフキン等が汚れると、自分等の肌に着けて汚れた、穢いものと一緒にして洗濯しますから、外國人に向つてそんな事をして穢いじやないか云ひます、沸騰した湯の中に入れて、充分に洗ふのだから、一寸も差支へない云ひます、こんな風に我國には、餘程相違した點があります。

それから又、日本と外國とは食物が、餘程相違して居りますから、従つて其の料理の方法も、使ふ材料も違つて來ます、この點も亦考へなければなりません、其相違の點は、

皆さんの方がよく御承知ですから、詳しく申しませんが、一、二の例を挙げます。日本の臺所では、感情的の衛生からでもありませんが、主として材料の關係から、水を非常に澤山使ひます、それから油ものは多くない様です、こんな事から其の設備には相違が出來ます。かく外國のものを其の儘直ぐ真似することは、出來ない場合が多いのですが、それを參考として、比較研究して改良を圖つたら、非常に興味深い有益な問題ではないかと思ひます。

### 臺所の構造と設備

それで臺所の構造設備を、こんな風にしたらいいか、私の考へを御話して見ます、先づ臺所とは、住宅の内こんなことをする所であるか、簡単に申します、食事を支度する場所であつて、他の仕事をやる場所ではありません。それ故總ての是に無關係な仕事、即ち食事の支度以外のことは、一切臺所でやるべきではないと思ひます。日本では色々の異

なつた目的のこゝを、一つ部屋でし様こします、例へば一つの部屋を、客間にも、寢室にも、食堂にも使ひますが、之れは何れの目的に對しても、完全に設備するこゝが出来ません、大阪邊りでダダツ廣い臺所を造つて、洗濯なども其の内ですして居る家庭を見受けますが、前申した様に、臺所は食事を支度するのに、毎日長い時間働く所ですから、こんな仕事は他の場所ですべきです。餘談になりますが、從來の様な洗濯を、他の場所兼ねて經濟的にやりたければ、浴室でやるのが一番適當で、便利ではないかと思ひます。兎に角臺所は、唯食事を支度する場所であるこゝしすれば、從來のものよりは、餘程狭くて濟む譯です、それから又臺所で費す時間を、成るべく少くするには、小じんまりした臺所を作るのがよいのでして、そうすれば働く場所を、一ヶ所に集めるこゝが出来て、無駄足を踏まずに濟みます。

部屋の形は少し長方形か、或は殆ど正方形に近いものが宜いと思ひます、勿論他の重要な色々の部屋の間取りに依つて、制限されますが、こんな形の臺所ですこ、色々のものを配置するに、非常に都合よく行きます。大きさは普通の住宅こして、主婦一人に下女一人即ち二人が働くか、或ひは主婦だけ一人で働く臺所ですこ、九尺に十一尺位が適當と思ひます、少しく大きくなれば、十一尺に十三尺位を適當こします。前に御話した様に、近來は電氣其他のものを使つて、其の設備も完全にすることも出来ますし、市場が澤山出来て發達して居りますから、度々出掛けて、自由に買物が出来ますから、買溜めする必要もありません、又食器などを統一して、整理しますれば、それだけ場所も少くて濟みます、これ等の點から考へても、從來の臺所よりは、餘程狭くて濟むやうになりました。

### 食堂と臺所とは隣り合せに

次に臺所の位置ですが、これは食堂に近いこゝ云ふこゝが、是非必要なこゝでして、出来

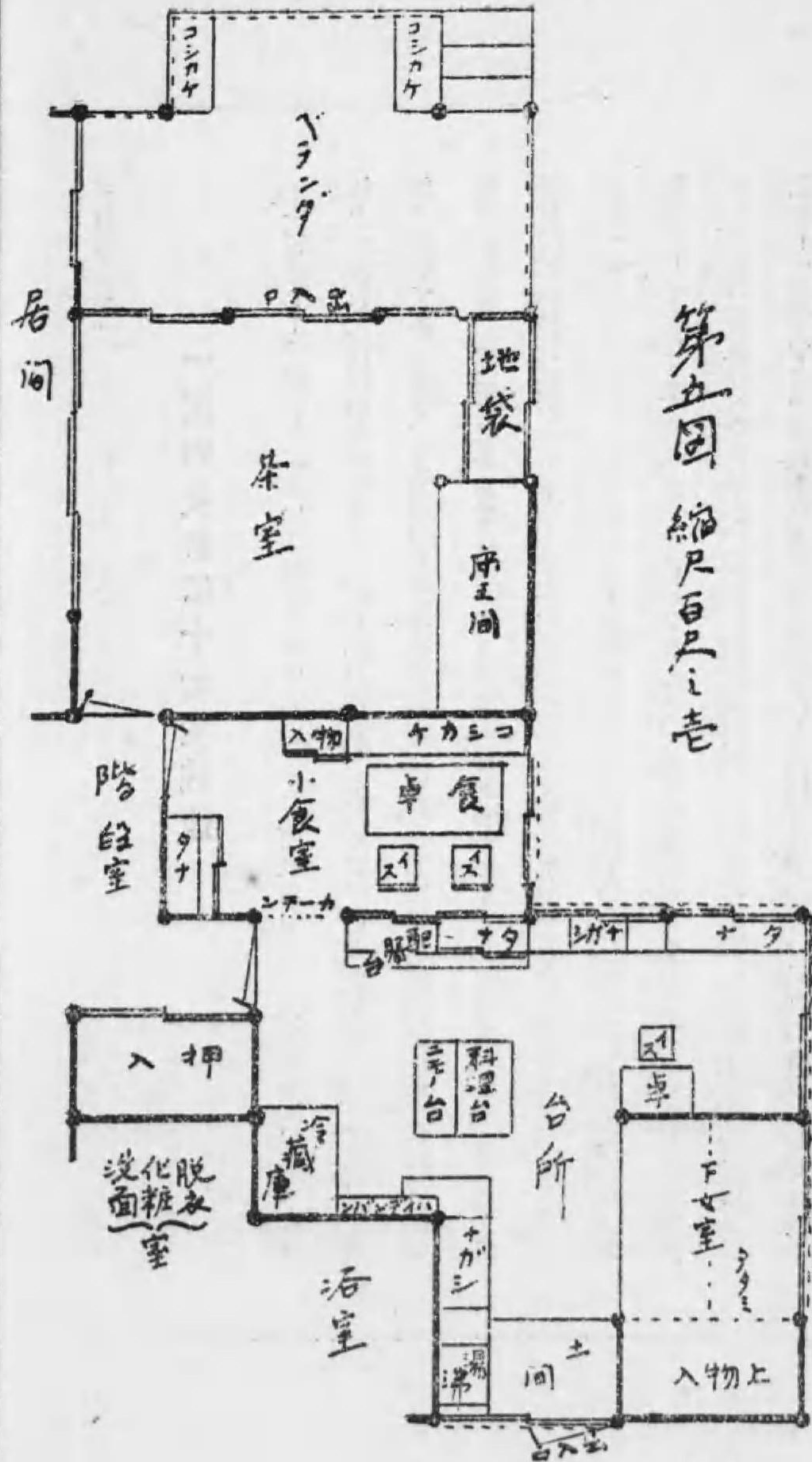
るだけ食堂に近い所に、配置せねばなりません、近ければ近いほど、食堂との連絡は便利で、其の往復が繁になつて、容易に食事を供給することが出来ます。所が食堂と臺所の往復には、必ず長い廊下を通らねばならぬ様に、なつてゐるのをよく見受けますし、又甚だしいのになります。臺所が一方の端にあれば、食堂は他方の端にあると云ふ風に、何等の連絡もないのがあります、こんなのは知らず知らずの間に、非常な損をして居りますが臺所は食堂と一所にして考ふべきものでして、離して考へることは出来ません。最も適當な配置は、食堂の隣りに臺所がある様なこととして、少しく上等な住宅です。臺所と食堂との間に、配膳室を設けまして、間に廊下等取るべきではないと思ひます、臺所と食堂とが隣合つて居ると、臺所で料理する時の臭ひや器物を取扱ふ音等が、食堂に聞けて困ると云ふ人もありますが、自分の経験では、それ程のことはないと思ひますが、臺所に臭氣抜を設けたり或は配膳室を真中に挟むこと等に依つて、これは防ぐことが出来ますから、其の爲に臺所と食堂とを、別々に離して配置することは、一考を要すべきことではないか

と思ひます。

### 一度の食事に十七度往復

一例として、次の圖に就いて御話しますれば、これは私の間取の一部でして、他にこれ以上の勝れた配置のものもありませんが、唯説明の爲めに、こゝに擧げたのですが、小食堂と書いてある所を、平素簡単な食事をする時に使ひまして、臺所の間には、戸棚と配膳臺とあつて、一部分は小食堂の方からも、使用出来る様にして居ります。茶室は従來の茶室を、唯腰掛けに直したものです、其の外にこの部屋を各の寢應、或は土曜日の夕などに家族一同集つて、ユツクリと食事する時に使ひます。其の場合に前に云つた小食堂は、配膳室として用ひます。ベランダは夏の夕などに、食事する時にも使ひます。この三つの部屋の小食堂、茶室、ベランダが、臺所に對する連絡は、非常に相違して居りまして、簡単に比較して見ますと、現在私の内では、家族が五人居りますから、一度の食事に膳を五度お

第五回 縮尺百尺の巻



茶を一度、漬物を一度、鉢などを一度、汁を替へるに二度、都合十度は少なくとも、是非臺所との間を往復せねばなりません、又食事が終つたら、これを引き下げる爲めに、膳を五度、漬物鉢、土瓶等を二度、都合七度往復します、それで合計十七度は、是非往復せねばなりません、茶室で食事ですまじきは、小食堂で食事する場合よりは、この運搬の爲めに約百二間だけ、餘分に足を運ばねばなりません、ベランダで食事するときは、尙ほ増して約百七十間になります。

向きは北向きか東北向き

こんな風に各部屋が並んで居てさへ、これだけの相違がありますから、普通の家庭では臺所は食堂と隣り同志になつて、居らなければならぬし、少し贅澤な家であれば、その中間に配膳室を設けるに云ふのが、最も好い間取であるといふことになりす。次に臺所の向きですが、これは一般に仕事するには、北からの光線が最も適當である様に、臺所も

仕事する場所ですから、矢張り北向きか東北向きにして、北光線の入る所を選ぶのがよいのでして、西陽の射す所が最も悪いことは、申す迄ありません。

それで臺所の内部に於ける配置を、こんな風にしたら宜いか、こんな風に設備したらよいか、云ふことを御話しますれば、要するに、先づ仕事する位置を定めてから、色々の臺所道具や材料を、其の場所に順序よく一纏めにして、使ひ好く設備すればよいのですが、これが中々困難な問題ですから、少しく詳しく御話します。臺所でやる仕事は、一つも別々の無關係な動作はありません、皆相關聯した動作でして、たゞへ非常に簡單な、所謂るお茶漬云ふ様な、家族の朝食を支度する場合でも、七汁五菜云か、本膳、二の膳三の膳云出す様な、立派な御馳走をする場合でも、動作の種類は同じ事であつて、其の中には明かな一定した順序があります。これを大別しますと二つになります。

### 調理と跡片附け

第一は調理すること。

第二は食器等を洗つてもこの位置に納めること、即ち跡片附すること。

この調理する事、跡片付する事の二つの動作の内にも、明かな順序が立つて居りまして先づ調理する事を、細かく分けて考へて見ます。

- 一、食事を支度することの最初の仕事は米、味噌、肉類、野菜等を貯蔵して居る場所から取り出すこと、即ち使ふ材料を集めること。
- 二、其次ぎには、それ等を調理する様に、洗ふものは洗ひ、切るものは切る、云ふ風に下拵へをすること、即ち準備すること。
- 三、其の準備が出来たら、それを食つて差支へない様にするこゝ、即ち調理すること。
- 四、次ぎに調理出来たものを、配膳臺に運んでから、鉢や皿に適當につくこと、即ち盛

るこころ。

これら四つになります。次に跡片附けする事を、細く分けて見ます。

一、食事が済んだ跡の汚れた茶碗や皿や、残った食物を、食堂から片付けるこころ——即ち運搬するこころ。

二、其運んで来たものゝ内で、残った食物は棚に置くこころか、或は冷蔵庫に入れるこころか、

汚れた食器は流しの側に持つて来るこころか云ふ様なこころ——即ち整理するこころ。

三、次に其の汚れた食器は、流しで奇麗にするこころ——即ち洗ふこころ。

四、其の洗つたものを、定つたもこの位置に納めるこころ——即ち配置するこころ。

これ等四つになります。こんな風に料理をし初める時から、最後の皿鉢等を洗つて、もこの所に納めて終ふ迄の仕事は、大きく分ければ、二つの動作になり、細く分ければ八つの動作になります。これだけの動作は、前に御話した様に、いくら簡単な食事でも、複雑な食事でも、必要なこころでして、こんな場合でも同じであつて、臺所の動作に、これ以外

の動作はありません。

### 能率を上げる根本

ですから色々な設備をします時には、これ等の動作に關係して、順序よく配置しなければならぬ譯ですが、これ等の動作が何處で處理さるゝかを申しますと、調理の内一は食料品の置場、冷蔵庫等で、二は流し及び料理台で、三は煮物台で、四は配膳台で、五は跡片付けの方は一は配膳台で、二は流しの隣りで、三は流しで、四は流しの附近や配膳台附近の棚でされます。ですから其の諸設備を、この實際の仕事の順序に一致する様に、配置する事が台所の能率を上げる根本になる譯でして、其の配置が順序よくなつて居たら、手数もかゝりませんし、無駄足も踏まないで済みますし、時間を多く費さずに何の故障もなく、樂に仕事が出来ます。所がこれに反對に、この方針で設備が出来て居ないで、亂雑になつて居りますと、非常に骨が折れて、其の上時間が餘計かゝります。



### 何でも兼用は却つて手數

それから又是等の設備は各區別して、一緒にすることは出来ませんが、簡単にするからこゝ云つて、違つた設備をせねばならぬものを兼ねて一つにして、其處で違つた動作をやらうとするのは、前にも一寸御話した様に、旨く行かないで、却つて手數もかゝれば、無駄な骨折もする様になります。例へば台所の中央に、大きい卓を置いて、其の上で魚も料理すれば、煮物もやるし、熱い鍋も置けば汚れた鉢も置くし、こゝ云ふ様な事をやつて居るのを時々見受けますが、こんなのは便利な様で、却つて非常に厄介で、不便です。總て異なる用途にある物を一つに兼ねました場合には、その一つの用途が長く續いてから、他の用途に交代するこゝふ風に、交代する迄の期間が、長ければ兎に角ですが、一つのものを或る用途に一寸使つて、次に他の用途に變へて、又一寸して外の用途に變るこゝ云ふ様に、交代が頻繁に起れば起る程、不便であることは明でして、吾々が旅行するときは、小刀や錐や

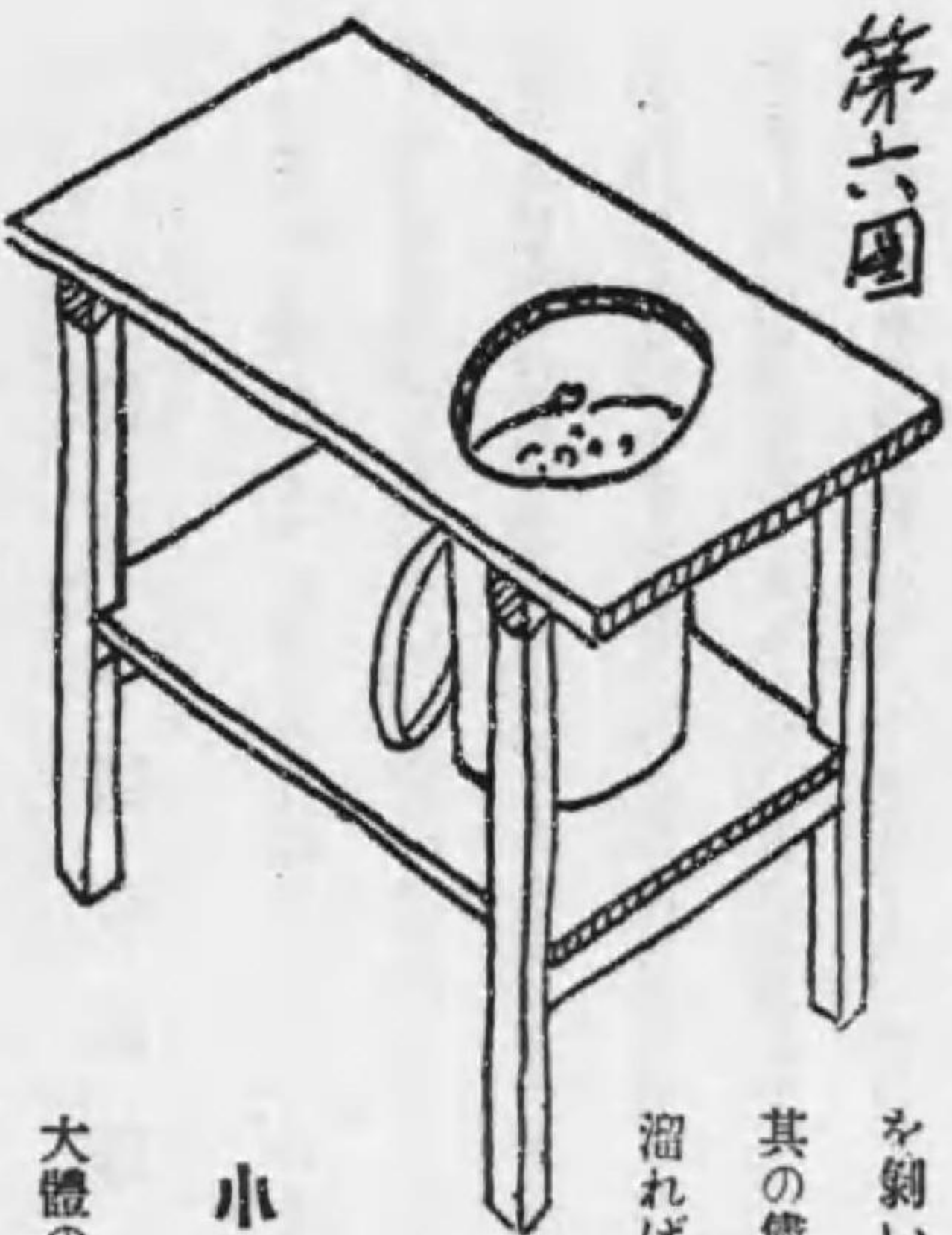
コルク抜き等を、一つに兼ねたものを使ふのは便利ですが、家庭ではこれで完全な目的を、達することは出来ません。

### 便利な野菜調理台

ですから臺所でも、異なつた目的や、特別の仕事をする爲めには、夫々それに適合する様に、設備をする方がよいのでして、例へて申しますと、野菜を調理する迄には、其の準備に手數をかけねばならぬ事があります、牛蒡や里芋などは、先づ皮を剥かねばなりません、こんな事をする場合に、従來は何の設備もなく、又臺所も一定して居りません、或は流しの附近でやる人もあれば、或は料理臺でやる人もあります、併し野菜を多く使ふ家庭では、特別の設備をしたら、便利であると思ひます。外國では次の圖の様なものを造つて流しの側に置いて居る家庭もあります。

圖は上の板に、直徑約七八寸の圓い穴をあけて置いて、其の下に馬穴の様なものを、置いておきます、そうして使ふ場合には、蓋を取つて其の上で里芋の皮を剥いたり、豆の皮

### 第六圖



を剥いたりすれば、其の屑は手をかけずに

其の儘下の容れ物に落ちますから、これが

溜れば他に取去り、出来たものは隣りの流

しで洗ふ、こふ様にして置けば

便利でないかと思ひます。

### 小道具の置き場

大體の設備に就いては御話した様な方針でやつて、これに使ふ小さい色々の道具も、この方針に従つて、其の位置を定めねばなりません。之には部類分けして、其の使はれる場所の近くに、常に置かねばなりません、例

へて申しますと、薬罐は火にかけますが、其の前に必ず水を入れるものですから、其の水を入れに行く手数を省く爲めに、使つた後は流しの附近に、置くべきものであると思ひます。それから置くに就いても、従來の日本の臺所では、小道具は何んでもかんでも、戸のついた棚の中に隠したり、引き出しにしまひ込んで、置くにも逆さに伏せて居りますが、使ふときには必ず、汚れて居るのを洗ふと同じ様に、丁寧に洗つてから使つて居ります。これも感情的の衛生からでせうが、中々出し入れにも、不便でして、時間を要します。これ迄は燃料として、薪炭を使つたので、埃が多いからでせうが、使ふときに洗ふのなれば、棚に引き出して適當の場所に置く方がよいと思ひます。殊に前に述べた様に、電氣を使へば、埃も立ちませんから、一定の場所に釘にかけて置くか、棚に並べて置けば、直ちに手数をかけずに使へて、破損も少ない様に思ひます。



第七圖



第九圖



第八圖



第十圖



第十一圖

### 仕事をする面の高さ

斯様にして、臺所の能率を擧げることが出来ませんが、それに就いて、尙一つ考へねばならないことは、仕事をする場所が定まれば、其の高さ、即ち仕事をする面を、何處にしたら一番適當であるか、云ふ問題です。從來のよりはもつと、仕事の面を高くしなければならぬと思ひます、從來は仕事する面が低いので、かゞみ込んで體に無理が出来て、仕事はし難いし、早く疲れて能率は上りませんが、これを適當の高さでやれば、仕事は早く愉快に出来て、其の上疲れぬ云ふことになります。これを圖で説明します。

第七圖は餘り仕事する面が低い爲めに、前に傾かねばならないので、従つて脊中が圖の様になりまして、仕事は捗りませんで疲れますが、第八圖の様に適當の高さになります。體に無理がなく、仕事は樂に早く出来ます。次に餘り力を入れない仕事を、するものに対しては、この姿勢が適當ですが、力を入れる仕事をする場合には、第九圖の様に少しく低

くして、充分力の這入るやうにする必要があります。流したこともこれと同じでして、第十圖第十一圖で御覽の通りに、前者は低過ぎ、後者は適當の高さです。

### 低い人は踏臺をする

こんな風にして流し、料理臺、配膳臺等、總べて仕事する面の高さは定まりますが、働く人々の身長に依つて、多少の相違は出来るものですから、皆さん自身で假りに、卓子を上げたり下げたりして、自分の體に無理の出来ぬ、適當な高さを、この方針で正確に實驗して定めた後に、造れば好い譯です。其の時に身長の異ふ數人が、同一のものを使ふ場合には、例へば洗面所で洗面臺の高さは、家族全體が使ひますから、其の内の高い人を標準として、其の人に都合よい様な高さに造つて、低い丈の人達には、適當な高さの臺を造つて置きますが、臺所ではこんな場合が若しあれば、一番能く使ふ人を標準として、高さを定めるが宜いと思ひます。兎に角從來は一般に仕事する位置が低いので、之を上げて適當に

すれば、是れに依つて非常に能率が上ります。

### 流しはどんなものが良いか

大體の設備は斯んなものですが、尙重要な個々のものに就いて、御話して見たいと思ひます。先づ最初に「流し」ですが、是はこんなものが好いかと云ひますと、一、其表面が滑かで、二、簡單に奇麗に掃除出来る、三、水分を吸収せぬものであつて、四、又錆びない、五、經濟的のものである事が必要です。これで是等を標準として「流し」を決めなければなりません、木で造つたものや、其の上に銅板を張つたものは、不適當であることは勿論ですが、外國で能く使ひます陶器製のもの、非常に好いと思ひますが、併し日本では中々高價で、一般の家庭では使へない程度のものだと思ひます、又安いものとしては、外國の家庭では、表面に亞鉛や、エナメル等かけた、鐵製のものを使つて居るのも見受けますが、是れは容易に奇麗になつて、前に申した條件に適した、よいものですが、其の表面が鈍げ